教育の概要（シラバス）

令和６年度

学校法人　札幌青葉学園

北海道看護専門学校

目　次

教育内容

１　教育理念 1

２　教育目的 1

３　教育目標 1

４　学年別到達目標 2

５　教育課程

１）教育課程表 3

２）教育課程の概念図 5

３）臨地実習

（１）臨地実習の目的と目標 6

（２）臨地実習の構成 7

（３）臨地実習計画 8

６　シラバス

１）基礎分野 9

（１）論理学 １０

（２）情報科学Ⅰ １１

（３）情報科学Ⅱ １２

（４）統計学 １３

（５）文章表現法 １４

（６）倫理学 １５

（７）心理学 １６

（８）人間関係論 １７

（９）カウンセリング理論 １８

（１０）地域生活論 １９

（１１）教育学 ２０

（１２）英語Ⅰ ２１

（１３）英語Ⅱ ２２

（１４）音楽 ２３

（１５）コミュニケーション論 ２４

２）専門基礎分野 ---------- ２５

（１６）解剖生理学Ⅰ ---------- ２７
（１７）解剖生理学Ⅱ ---------- ２９
（１８）解剖生理学Ⅲ ---------- ３１
（１９）解剖生理学Ⅳ ---------- ３３
（２０）生化学 ---------- ３５
（２１）栄養学 ---------- ３６
（２２）薬理学 ---------- ３８
（２３）病理学 ---------- ４０
（２４）病態学Ⅰ ---------- ４２
（２５）病態学Ⅱ ---------- ４４
（２６）病態学Ⅲ ---------- ４６
（２７）病態学Ⅳ ---------- ４８
（２８）治療論Ⅰ ---------- ５０
（２９）治療論Ⅱ ---------- ５１
（３０）微生物学 ---------- ５２
（３１）臨床検査 ---------- ５３
（３２）総合医療論 ---------- ５４
（３３）公衆衛生学 ---------- ５６
（３４）口腔保健 ---------- ５８
（３５）関係法規 ---------- ５９
（３６）社会福祉 ---------- ６２
（３７）生命倫理 ---------- ６４

３）専門分野 ---------- ６５

実務経験のある教員（専任教員）による授業科目 ---------- ７５
（３８）看護学概論 ---------- ７７
（３９）基礎看護学方法論Ⅰ ---------- ７８
（４０）基礎看護学方法論Ⅱ ---------- ７９
（４１）基礎看護学方法論Ⅲ ---------- ８１
（４２）基礎看護学方法論Ⅳ ---------- ８２
（４３）基礎看護学方法論Ⅴ ---------- ８４
（４４）基礎看護学方法論Ⅵ ---------- ８５
（４５）基礎看護学方法論Ⅶ ---------- ８６
（４６）基礎看護学方法論Ⅷ ---------- ８７

（４７）基礎看護学方法論Ⅸ ---- ８８
（４８）基礎看護学方法論Ⅹ ---- ９０
（４９）看護倫理 ---- ９２
（５０）地域・在宅看護概論Ⅰ ---- ９３
（５１）地域・在宅看護概論Ⅱ ---- ９４
（５２）地域・在宅看護方法論Ⅰ ---- ９６
（５３）地域・在宅看護方法論Ⅱ ---- ９８
（５４）地域・在宅看護方法論Ⅲ ---- １００
（５５）地域・在宅看護方法論Ⅳ ---- １０２
（５６）成人看護学概論 ---- １０３
（５７）成人看護学方法論Ⅰ ---- １０４
（５８）成人看護学方法論Ⅱ ---- １０５
（５９）成人看護学方法論Ⅲ ---- １０６
（６０）成人看護学方法論Ⅳ ---- １０８
（６１）老年看護学概論 ---- １１０
（６２）老年看護学方法論Ⅰ ---- １１１
（６３）老年看護学方法論Ⅱ ---- １１３
（６４）成人・老年看護過程Ⅰ ---- １１４
（６５）成人・老年看護過程Ⅱ ---- １１５
（６６）小児看護学概論 ---- １１６
（６７）小児看護学方法論Ⅰ ---- １１７
（６８）小児看護学方法論Ⅱ ---- １１８
（６９）小児看護学方法論Ⅲ ---- １１９
（７０）母性看護学概論 ---- １２０
（７１）母性看護学方法論Ⅰ ---- １２２
（７２）母性看護学方法論Ⅱ ---- １２３
（７３）母性看護学方法論Ⅲ ---- １２５
（７４）精神看護学概論 ---- １２６
（７５）精神看護学方法論Ⅰ ---- １２８
（７６）精神看護学方法論Ⅱ ---- １２９
（７７）精神看護学方法論Ⅲ ---- １３１
（７８）看護管理 ---- １３３
（７９）医療安全 ---- １３４
（８０）災害看護 ---- １３５
（８１）看護研究Ⅰ ---- １３６
（８２）看護研究Ⅱ ---- １３７
（８３）総合看護技術Ⅰ ---- １３８
（８４）総合看護技術Ⅱ ---- １３９

教　育　内　容

1　教育理念

本校は、人間の生命の尊厳と人間愛に基づき、国際的視野をもった豊かな人間性を養い、将来に発展できる自己教育力を備えた社会の要請に応えうる看護の専門職者の育成を目指す。

2　教育目的

人間についての理解を深め、生命の尊厳を基盤として倫理観を培い、自己をみつめる力と相手を思いやる豊かな感性を養う。科学的根拠に基づいた看護に必要な専門的知識・技術・態度の基礎的能力を養い、看護の専門職者として常に研鑽し、変化する社会に対応できるとともに、人々から信頼される看護実践者を育成する。

3　教育目標

1．生命および人間を尊重し、看護専門職者として倫理的行動がとれる資質を養う。

2．自己を客観的に振り返り、人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。

3．看護の対象となる人々を身体的・精神的・社会的に統合し、生活者として理解できる能力を養う。

4．看護の対象となる人々の健康ニーズに対応できるよう、科学的根拠に基づく看護実践能力の基礎を養う。

5．保健・医療・福祉の動向に関心を持ち、看護の専門的役割を理解し、多職種と連携・協働できる能力を養う。

6．看護専門職者として常に向上心を持ち、主体的・継続的に学習する態度を養う。

4　学年別到達目標

教育目標	1年次目標	2年次目標	3年次目標
1．生命および人間を尊重し、看護専門職者として倫理的行動がとれる資質を養う	①生命および人間尊重について理解できる ②看護学生として倫理的行動がとれる	①生命・人間尊重について、看護の視点から理解する	①専門職業人の立場から生命尊重について考えることができる
2．自己を客観的に振り返り、人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う	①自己に関心をもつことができる ②他者に関心をもつことができる ③人間関係を築くためにコミュニケーションが必要であることがわかる	①他者を尊重したコミュニケーションを実践できる ②コミュニケーション技術を用いて他者と良好な関係を築くことができる	①信頼関係の形成に必要なコミュニケーションについて、実習および日常生活を通して実践し、振り返ることができる
3．看護の対象となる人々を身体的・精神的・社会的に統合し、生活者として理解できる能力を養う	①人間の成長・発達過程を基に対象者を理解する ②人間の日常生活を理解できる ③地域で生活する人々を知る	①健康障害がその人の生活過程に及ぼす影響を理解できる	①看護の対象となる人々を身体的・精神的・社会的に統合し、生活者として理解できる
4．看護の対象となる人々の健康ニーズに対応できるよう、科学的根拠に基づく看護実践能力の基礎を養う	①健康の概念を学び、健康の意味を考えることができる ②日常生活支援に必要な知識と技術を理解できる ③各技術の科学的根拠を理解し、安全安楽に行うことができる ④看護実践に必要な思考過程を理解する	①対象者の健康障害に合わせて看護を実践できる	①対象者の健康レベルに対応した看護を実践できる
5．保健・医療・福祉の動向に関心を持ち、看護の専門的役割を理解し、多職種と連携・協働できる能力を養う	①保健・医療・福祉制度と各職種と役割について理解できる ②看護師の役割がわかる ③国内の健康ニーズに関心をもつことができる	①チーム医療と多職種連携について理解できる ②看護の専門性について理解できる ③国内外の保健・医療・福祉の動向に関心をもつことができる	①チーム医療と多職種連携・協働について実践を通して理解できる ②看護師の専門的役割と責任について理解できる ③国内外の保健・医療・福祉の動向を理解できる
6．看護専門職者として常に向上心を持ち、主体的・継続的に学習する態度を養う	①自己の成長をめざして、主体的に学習する ②看護師を目指し、継続的に学習する ③学習目標と具体的学習計画を立て、行動する	①看護専門職者として自己成長を目指すための具体的な行動がとれる ②学習目標と具体的学習計画を継続的に実施し、自己評価を行う	①専門職者として常に向上心を持ち、主体的・継続的に学習できる

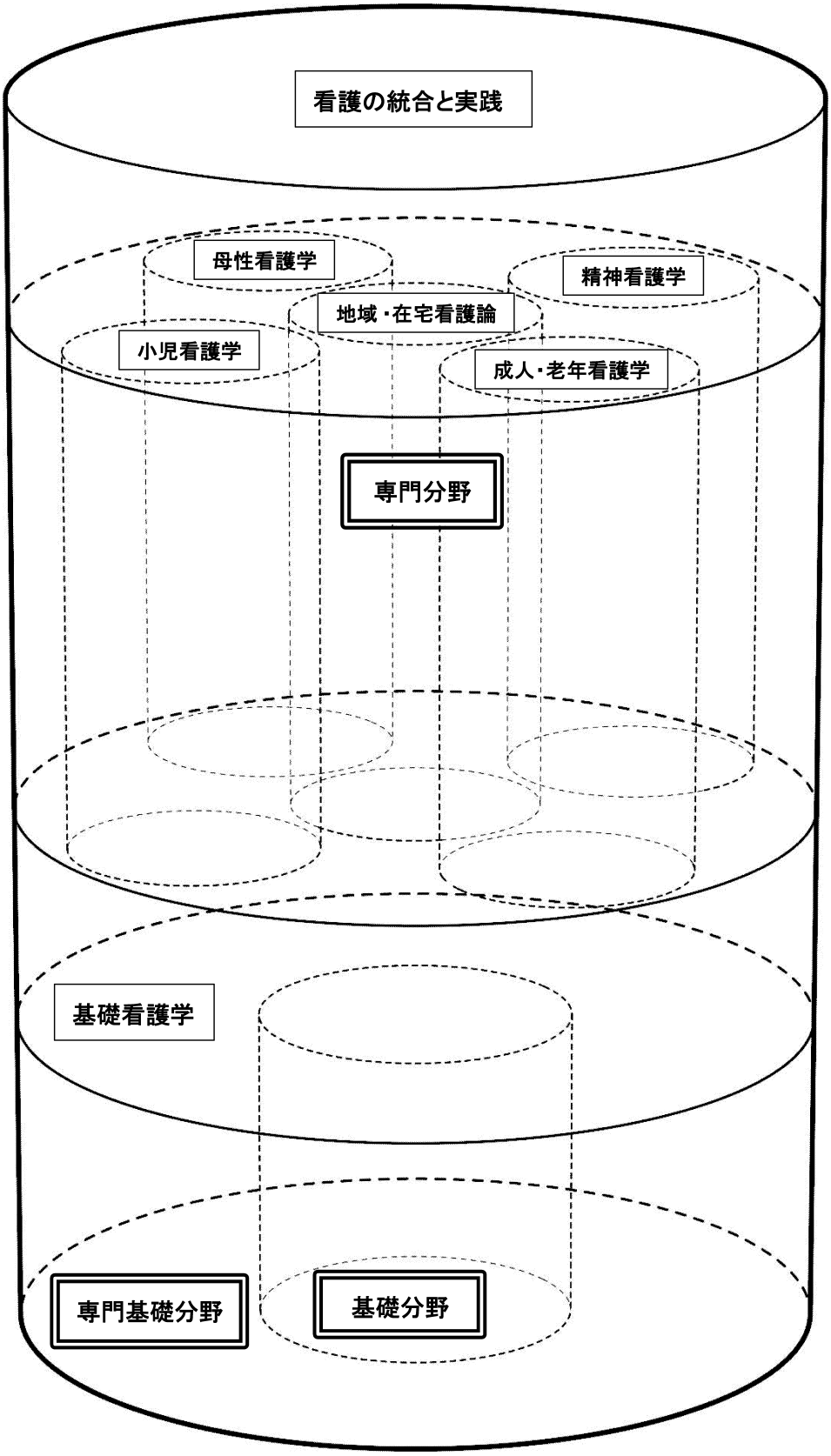
5　教　育　課　程

1）教育課程表

教育内容		基準単位		科目名称	単位	年間授業時間数			
						1年次	2年次	3年次	合計
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	15	1	論理学	1	15			15
			2	情報科学Ⅰ	1	15			15
			3	情報科学Ⅱ	1	15			15
			4	統計学	1		15		15
			5	文章表現法	1	30			30
			6	倫理学	1	15			15
			7	心理学	1	30			30
			8	人間関係論	1	30			30
			9	カウンセリング理論	1		15		15
			10	地域生活論	1		30		30
			11	教育学	1		30		30
			12	英語Ⅰ	1	15			15
			13	英語Ⅱ	1		15		15
			14	音楽	1		15		15
			15	コミュニケーション論	1	15			15
		15		小計	15	180	120	0	300
専門基礎分野	人体の構造と機能	16	16	解剖生理学Ⅰ	1	30			30
			17	解剖生理学Ⅱ	1	30			30
			18	解剖生理学Ⅲ	1	30			30
			19	解剖生理学Ⅳ	1	30			30
			20	生化学	1	15			15
			21	栄養学	1	30			30
	疾病の成り立ちと 回復の促進		22	薬理学	1	30			30
			23	病理学	1	30			30
			24	病態学Ⅰ	1	30			30
			25	病態学Ⅱ	1	30			30
			26	病態学Ⅲ	1	30			30
			27	病態学Ⅳ	1	30			30
			28	治療論Ⅰ	1		15		15
			29	治療論Ⅱ	1		15		15
			30	微生物学	1	30			30
			31	臨床検査	1	15			15
	健康支援と 社会保障制度	6	32	総合医療論	1	15			15
			33	公衆衛生学	1			30	30
			34	口腔保健	1		15		15
			35	関係法規	1			30	30
			36	社会福祉	1		30		30
			37	生命倫理	1			15	15
		22		小計	22	405	75	75	555
専門分野	基礎看護学	12	38	看護学概論	1	30			30
			39	基礎看護学方法論Ⅰ	1	30			30
			40	基礎看護学方法論Ⅱ	1	30			30
			41	基礎看護学方法論Ⅲ	1	15			15
			42	基礎看護学方法論Ⅳ	1	30			30
			43	基礎看護学方法論Ⅴ	1	30			30
			44	基礎看護学方法論Ⅵ	1	30			30
			45	基礎看護学方法論Ⅶ	1	30			30
			46	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30			30
			47	基礎看護学方法論Ⅸ	1	30			30
			48	基礎看護学方法論Ⅹ	1	30			30
			49	看護倫理	1		15		15

教育内容		基準単位		科目名称	単位	年間授業時間数			
						1年次	2年次	3年次	合計
専門分野	地域・在宅看護論	6	50	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15			15
			51	地域・在宅看護概論Ⅱ	1		30		30
			52	地域・在宅看護方法論Ⅰ	1		30		30
			53	地域・在宅看護方法論Ⅱ	1		30		30
			54	地域・在宅看護方法論Ⅲ	1		15		15
			55	地域・在宅看護方法論Ⅳ	1			15	15
	成人看護学 老年看護学	10	56	成人看護学概論	1	30			30
			57	成人看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			58	成人看護学方法論Ⅱ	1		30		30
			59	成人看護学方法論Ⅲ	1		30		30
			60	成人看護学方法論Ⅳ	1		30		30
			61	老年看護学概論	1	30			30
			62	老年看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			63	老年看護学方法論Ⅱ	1		30		30
			64	成人・老年看護過程Ⅰ	1		30		30
			65	成人・老年看護過程Ⅱ	1		30		30
	小児看護学	4	66	小児看護学概論	1		30		30
			67	小児看護学方法論Ⅰ	1		15		15
			68	小児看護学方法論Ⅱ	1		30		30
			69	小児看護学方法論Ⅲ	1		30		30
	母性看護学	4	70	母性看護学概論	1		30		30
			71	母性看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			72	母性看護学方法論Ⅱ	1		30		30
			73	母性看護学方法論Ⅲ	1			15	15
	精神看護学	4	74	精神看護学概論	1	30			30
			75	精神看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			76	精神看護学方法論Ⅱ	1		30		30
			77	精神看護学方法論Ⅲ	1			15	15
	看護の統合と実践	7	78	看護管理	1			15	15
			79	医療安全	1			15	15
			80	災害看護	1			15	15
			81	看護研究Ⅰ	1			15	15
			82	看護研究Ⅱ	1			30	30
			83	総合看護技術Ⅰ	1			15	15
			84	総合看護技術Ⅱ	1			15	15
		47		小計	47	420	615	165	1200
	臨地実習	3	85	基礎看護学実習Ⅰ	1	45			45
			86	基礎看護学実習Ⅱ	2	90			90
		2	87	地域・在宅看護論実習	2			90	90
		10	88	成人・老年看護学実習Ⅰ	3		135		135
			89	成人・老年看護学実習Ⅱ	2		90		90
			90	成人・老年看護学実習Ⅲ	2		90		90
			91	成人・老年看護学実習Ⅳ	3			135	135
		2	92	小児看護学実習	2			90	90
		2	93	母性看護学実習	2			90	90
		2	94	精神看護学実習	2			90	90
		2	95	看護の統合実習	2			90	90
		23		小計	23	135	315	585	1035
合計		107	95	合計	107	1140	1125	825	3090

２）教育課程の概念図


看護の統合と実践
母性看護学
精神看護学
地域・在宅看護論
小児看護学
成人・老年看護学
専門分野
基礎看護学
専門基礎分野
基礎分野

３）臨地実習

（１）臨地実習の目的と目標

【 目的 】

１．生命・人間の尊厳を基盤に、対象者を尊重し、看護師としての倫理的態度を養う。

２．学内で学んだ基礎的知識・技術を応用し、科学的根拠に基づいた看護を実践する。

【 目標 】

１．看護の対象となる人々の人権を尊重し、倫理的判断に基づいて行動できる。

２．対象者やその家族との相互関係を通して援助関係を築くことができる。

３．対象者の健康レベルと生活の特性について、身体的・精神的・社会文化的・霊的な観点から統合的に理解し、個別性に対応した看護過程が展開できる。

４．看護ケアについて、対象者のニーズを尊重し、科学的根拠に基づいた安全・安楽な看護技術が提供できる。

５．保健・医療・福祉チームの一員として、他職種との連携を通して、看護師の専門性とその行動について理解できる。

６．実習態度は、主体的学習を通して自己の向上に努めることができる。

（２）臨地実習の構成

実習科目			単位	時期	実習場	実習の目的
専門分野	基礎看護学実習	基礎看護学実習Ⅰ	1 (45時間)	1年次 10月	病院	患者とのコミュニケーション、日常生活上の援助を通して看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養う。
		基礎看護学実習Ⅱ	2 (90時間)	1年次 2月	病院	受け持ち患者の看護展開を通して、患者に必要な援助を学ぶ。
	成人・老年看護学実習	成人・老年看護学実習Ⅰ 看護過程の展開	3 (135時間)	2年次	病院	看護過程の展開を通して、成人期老年期の対象者に個別性のある看護を考え、実践する能力を養う。
		成人・老年看護学実習Ⅱ 急性期・周手術期の看護	2 (90時間)		病院	急性期・周手術期にある成人期・老年期の対象者が、危機的状況から速やかに回復し、身体状況に応じたセルフケアを獲得するための看護を実践する能力を養う。
		成人・老年看護学実習Ⅲ 高齢者の看護	2 (90時間)		病院	健康障害を持った老年期の対象者を理解し、健康回復や生活機能向上への看護を学ぶ。
		成人・老年看護学実習Ⅳ 終末期の看護	3 (135時間)	3年次	病院	終末期にある成人期・老年期の対象の全人的苦痛とそれを緩和するケアを理解し、対象のQOLの維持・向上のための看護を学ぶ。
	小児看護学実習	健康な小児の理解	2 (90時間)	3年次	保育所	乳幼児との関わりを通して、小児の成長発達および生活、保育の実際について学ぶ。
		健康障害を持つ小児と家族の看護			病院	健康障害を持った小児とその家族を理解し、成長発達段階、健康レベルに応じた看護の実際を学ぶ。
	母性看護学実習	周産期の対象の看護	2 (90時間)	3年次	病院	妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の特徴を理解し、周産期の対象に必要な看護を実践できる能力を養う。
	精神看護学実習	精神障害をもつ対象の看護	2 (90時間)	3年次	病院	精神障害をもつ対象とその家族を理解し、対象の自立に向けた看護を実践できる能力を養う。
		地域で生活する精神障害者の支援			就労支援施設	社会資源を活用し、地域で生活をする精神障害者との関りを通じ、保健・医療・福祉の連携の在り方や支援を学ぶ。
	地域・在宅看護論実習	地域で生活する障がいを持つ人々の支援	2 (90時間)	3年次	社会福祉施設	地域で生活する障がい者のQOLを保障するための制度やしくみについて理解し、地域で生活する人々への支援の実際を学ぶ。
		地域で生活する在宅療養者とその家族の支援			訪問看護ステーション	地域で生活する人々とその家族の健康と生活の維持に向けた活動を理解し、地域で生活する様々な人々と多職種連携・協働に基づき、継続的に対象となる人々の健康と生活の維持に向けた活動を支援できる基礎的能力を養う。
	看護の統合実習	看護管理、夜間実習、複数患者の看護	2 (90時間)	3年次	病院	看護管理、夜間実習、複数患者の受け持ちを通して、既習の知識・技術・態度を統合し看護実践力を身につける。

(3)2024年度　臨地実習計画

年次	実習科目	単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		23	1035												
1年次	基礎看護学	3	Ⅰ 45	入学式				夏季休暇		基礎Ⅰ		冬季休暇		基礎Ⅱ	春季休暇
			Ⅱ 90												
2年次	成人・老年看護学	3	Ⅰ 135					夏季休暇	成人・老年Ⅰ	夏季休暇	成人・老年Ⅲ 成人・老年Ⅱ	成人・老年Ⅲ 成人・老年Ⅱ	冬季休暇		春季休暇
		4	Ⅱ 90 Ⅲ 90												
3年次	成人・老年看護学	3	90			成人Ⅳ 小児 母性 精神 地域・在宅		夏季休暇	看護の統合 小児 母性 精神 地域・在宅				冬季休暇	看護師国家試験	春季休暇
	小児看護学	2	90											卒業式	
	母性看護学	2	90												
	精神看護学	2	90												
	地域・在宅看護論	2	90												
	看護の統合	2	90												

６　シラバス

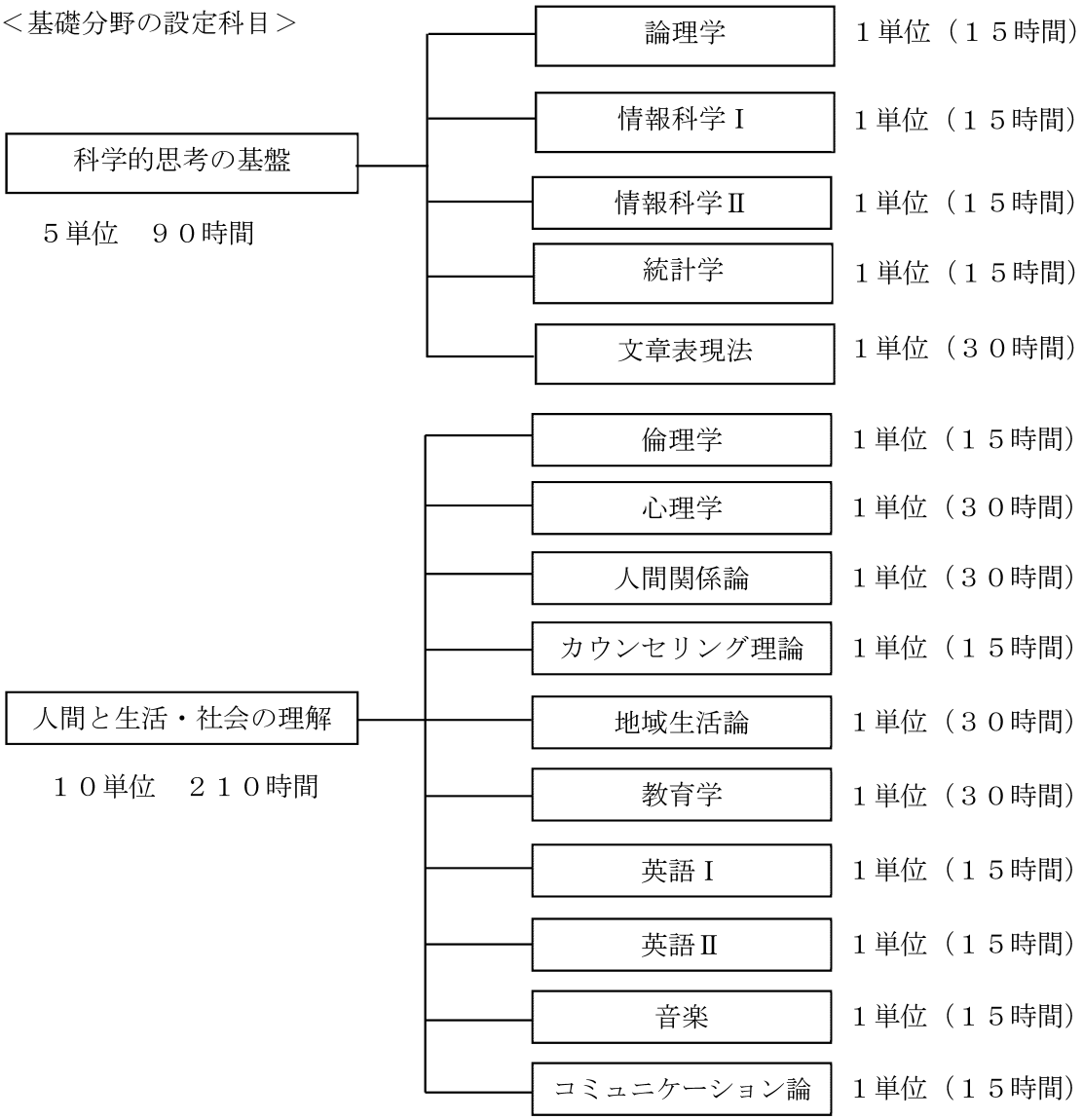
１）基礎分野

「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」

基礎分野では、「科学的思考の基盤」と「人間・生活・社会の理解」に必要な科目について学習する。

この分野では、看護師としての豊かな人間性を培い、科学的・論理的思考を高めるために必要な科目を設定している。科学的思考の基盤形成に必要な論理学や情報科学等を学習する。人間性を高め、地域における多様な人々との関係性を築くために必要なコミュニケーション論、倫理学、人間関係論、地域生活論、語学や音楽等を学習する。

＜基礎分野の設定科目＞



科　　目	（1）論理学	1年 後期	1単位	15時間
担当教員	梅村　渉			
ねらい	論証とは何かを理解し、論理的に表現するスキルを身につける。			
一般目標	・議論が正しいかどうかの判断基準を学ぶ。 ・論理的に意見を伝えられるようにする。			
単元名	行動目標	内　容		
論証とは何か	1．論証の構造と種類について学び、前提の正しさと推論の妥当性の違いを理解する。	1）論証の構造 2）帰納と演繹の違い 3）論証の正しさ		
論証の特定と構成	2．与えられた文章の中から論証を取り出せるようにする。また、論証を構成する方法を学ぶ。	1）論証を取り出す方法 2）論証を構成する方法		
論証図	3．トゥールミンの論証図について学び、複雑な論証を論証図で表現できるようにする。課題①	1）略記法の利点 2）論証図の書き方 3）論証図の使い方		
接続詞	4．実際に文章を書く際に必要となる、接続詞の正しい使い方を学ぶ。	1）接続詞の役割 2）順接の接続詞 3）逆接の接続詞		
パラグラフ・ライティング	5．パラグラフ・ライティングの仕組みを理解する。課題②	1）パラグラフの構造 2）トピック・センテンスの役割 3）サブ・センテンスの役割 4）パラグラフ間の関係		
主張の正当化	6．自分の主張を根拠づける方法について学ぶ。	1）論証図とパラグラフ・ライティングの復習 2）自分の主張を根拠づける方法		
主張の批判	7．相手の主張の根拠を見つける方法と、その主張を批判する方法を学ぶ。	1）前回の復習 2）主張の根拠の見つけ方 3）主張の批判の仕方		
テキスト及び副教材	『看護学生が身につけたい 論理的に書く・読むスキル』 医学書院（紙書籍）			
評価方法	筆記試験60%、課題40%			
備考・履修上の留意点				

科　　目	（2）情報科学Ⅰ	1年 前期	1単位	15時間
担当教員	荻野　健司			
ね ら い	コンピュータに関する基礎知識を理解し看護の実践や学問としての看護学にいかす方法を学ぶ。			
到達目標	コンピュータ及びアプリケーションを活用し基礎的な文章の入力、表計算、プレゼンテーション資料等の作成方法を理解する。 ネットワークに関する基礎知識及び注意点を学びコンピュータ利用におけるリスクと自衛を理解する。			

単元名	学習目標	内　容
コンピュータの基礎	1．コンピュータに関する基礎知識及び基本操作を理解する。	1）コンピュータの仕組みを説明 ・種類 ・構成要素 ・ファイルシステム 2）パソコン操作を実践 ・フォルダ作成 ・ファイル保存 ・USB接続
ネットワークの基礎	2．ネットワークに関する基礎知識及び注意点を理解する。	1）ネットワークの仕組みを説明 ・インターネット ・電子メール ・ソーシャルメディア ・リスクと自衛 2）ネットワーク接続を実践 ・インターネット検索 ・電子メールの送受信
アプリケーションの基礎	3．アプリケーションに関する基礎知識及び基本操作を理解する。	1）ワープロ、表計算、プレゼンテーションの基礎を説明 2）アプリケーション操作を実践 ・Word：文字入力 ・Excel：表計算 ・PowerPoint：プレゼン資料
総合的な活用	4．コンピュータ、ネットワーク、アプリケーションに関する基礎知識を総合的に活用した課題の作成方法を理解する。	1）課題の作成を実践 ・原稿の入力 ・表、画像等の挿入 ・データの送受信

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　別巻　看護情報学』　　医学書院 その他に適宜資料を配布する。
評価方法	課題（50%）、筆記試験（50%）で評価する。
備考・履修上の留意点	Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint）がインストールされているノートパソコンを持参すること。

科　　目	（3）情報科学Ⅱ	1年 後期	1単位	15時間
担当教員	水田　正弘			
ね ら い	高度情報化社会に必要とされる基本的な情報処理能力を学習する。			
到達目標	情報の定義と医療においてのICTの活用意義を述べることが出来る。			
単元名	学習目標	内　容		
情報の定義と特徴	1．情報の意味と情報の特性を述べられる。	1）情報とは 2）情報の特性 3）情報の認知と意志決定 4）情報伝達とコミュニケーション		
社会と情報	1．情報化による社会の変化やデータベースの取り扱いについて述べられる。	1）情報社会の成立と発展 2）情報社会で求められること		
医療における情報システム	1．診断や治療のサポートとの観点から情報システムについて学ぶ。	1）医療における情報の記録 2）病院情報システムと記録の仕方 3）地域医療福祉のネットワークと情報システム		
情報と倫理	1．人権・個人情報・セキュリティーの基本を学ぶ	1）情報倫理と医療 2）患者の権利と自己決定への支援 3）診療情報の開示 4）医療・看護における個人情報 5）情報の利用の仕方 6）調査の実施とデータ情報 7）データ分析の準備		
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　別巻　看護情報学』　　医学書院			
評価方法	筆記試験（100％）			
備考・履修上の留意点				

科　　目	（4）統計学	2年 後期	1単位	15時間
担当教員	水田　正弘			
ね ら い	医学・看護学・健康科学における基本的な統計学の考え方・方法を理解する。			
到達目標	医療においてデータに基づいて適切な判断を下すことは基本的かつ重要である。統計的な考え方と手法を理解することにより根拠に基づいた医療を補助することが可能となる。これらの基本的な事項を理解することを目標とする。			
単元名	学習目標	内　容		
統計学の基礎	1．統計学的な考え方を理解する。	1）統計的な考え方が普及する前の過ちの例などを用いた入門的事項を述べる		
データの扱い方	2．データの入力方法と集計方法を学ぶ。	2）データハンドリングの基礎を述べる。また、基本的な集計方法を学ぶ。		
確率分布	3．確率と確率分布、推定について学ぶ。	3）確率論における基礎事項として、正規分布および二項分布を扱う。		
統計的仮説検定	4．帰無仮説、有意水準などの概念を学ぶ。	4）差の検定など実際的な問題を例にとり説明をする。		
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　基礎分野　統計学』　　医学書院			
評価方法	筆記試験（100%）			
備考・履修上の留意点				

科　　目	（5）文章表現法	1年 前期	1単位	30時間
担当教員	秋田　松年			
ね ら い	自らの考えを文章で表現するための基礎能力を養う。			
到達目標	1．書き言葉や話し言葉、敬語の適切な使い方などを身に付ける。 2．社会人として必要な漢字の読み書き、慣用句などを身に付ける。 3．文章作成（小論文・レポート・意見文の書き方）の基本を身に付ける。 4．自分の考えを実際に文章にすることによって表現する方法を身に付ける。			

単元名	学習目標	内　容
文章表現法の基礎知識	1．文章作成で必要となる基礎的な知識を具体的に述べられる。	1）原稿用紙の使い方 2）話し言葉と書き言葉 3）文のねじれ 4）句読点の打ち方等
	2．正しい語彙を使用できる。	1）語句の正しい意味 2）対義語・類義語 3）慣用句・ことわざ等
小論文・レポート・意見文	3．まとまりのある短い文章の作成を通じて、語彙力、文章構成能力等を自己評価できる。 4．レポートの構成と構想を踏まえて、指定された課題についての小論文・レポート等を記述できる。 5．学校や職場等の公的な場でレポート（報告文）を作成できる。	1）小論文・レポート・意見文の違い 2）小論文・レポートの構成 3）推敲上の留意点 4）文献検索の方法 5）引用の原則等
敬語表現	6．社会人として必要とされる敬語を使用できる。	1）敬語の種類 尊敬語・謙譲語・丁寧語 2）状況に合わせた敬語の使い分け 3）第三者を交えた敬語 4）電話や手紙における敬語等
手紙の書き方	7．手紙文の用途と書式を述べる。	1）手紙文・葉書の書き方 2）手紙文・葉書の構成等

テキスト及び副教材	単元ごとにレジュメを用意する。
評価方法	レポート（30%）　筆記試験（70%）
備考・履修上の留意点	第1回目の授業で、確認します。

科　　目	（6）倫理学	1年 前期	1単位	15時間
担当教員	宮野　晃一郎			
ね ら い	人間の行為の善悪を問う倫理学は、人間社会が成立すると同時に登場してきた人類最古の学問である。複雑化した現代社会においては、倫理的であるとは何かについて、具体的な例に即して考え、看護実践における倫理的判断や行為を導く基盤を養う。			
到達目標	倫理学とは何か、多様な価値観や考え方を踏まえて、自己の考えを述べることができる。			
単元名	学習目標	内　容		
倫理学とは	1．現代社会と倫理学とのかかわりはいかに。 なぜ倫理的な行動が必要であるのかを述べることが出来る。	現代社会と倫理学との関わりはいかに。		
ビジネス倫理学	2．金儲けと倫理とは両立するか。 企業活動における正しい行動や意思決定について知り記述することが出来る。	企業活動における正しい行動や意思決定について知り記述することが出来る。		
帰結主義と非帰結主義	3．結果が大事か、努力することが大事か。	どのような行為が道徳的行為かを説明することが出来る。		
多数決の原理の問題点	4．人々の意思をよりよく集約する方法を考え、述べることが出来る。	皆が賛成する行為が「よい」行為なのか。		
理想主義と現実主義	5．エゴイズムにもとづく行為はすべて道徳に反するか。	個人の行動とその結果を尊重する考えを知り、その行動について自己の考えを述べることが出来る。		
自由主義の原則	6．他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか。	愚行権とは何か、人間が自由であることとは何かを考え、述べることが出来る。		
人格の定義	7．責任や義務をもった厳密な意味での人格の範囲はどこまで及ぶかを知り、述べることが出来る。	自己決定と現代医療		
テキスト及び副教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	筆記試験（50%）＋レポート（50%）による総合評価			
備考・履修上の留意点	常に問題意識をもって講義に臨むこと。			

科　　目	（7）心理学	1年 前期	1単位	30時間
担当教員	後藤　聡			
ね ら い	人間の心の仕組みや行動のメカニズムを理解し、看護の対象である人間の理解を深める。			
到達目標	心理学の基礎的知識を習得する。 心理学の知識をもとに患者を含めた人間関係の構築について表現できる。			

単元名	学習目標	内　容
ガイダンス		授業内容・評価方法など 思考のトレーニング
人間関係と心理	1．人間関係における心理的働きの活用方法を述べることができる。	1.自己呈示 2.援助行動 3.攻撃行動 4.ステレオタイプと偏見 5.対人コミュニケーション 6.対人認知
学習と認知	2．学習理論を理解して人間の行動を学習の視点で説明できる。 3．思考の仕組みについて説明できる。	1.連合理論と認知理論 2.思考の仕組み
発達	4．発達の規定因や諸相を意識した人間関係や生活について述べることができる。	1．知覚の発達 2．道徳性の発達
社会と心理	5．社会との関わりの中で生じる心理の活用方法を述べることができる。	1．社会の中の誤り 2．社会的ジレンマ 3．うわさ 4．社会的現実

テキスト及び副教材	テキスト、参考書は使用しない。適宜資料を配布する。
評価方法	筆記試（70%）、提出物（30%）
備考・履修上の留意点	私語や講義と関係のない行為を厳禁とする。私語をした人には減点することがある。講義と関係ない行為を発見した場合はその時間を欠席扱いにすることがある。

科　　目	（8）人間関係論	1年 後期	1単位	30時間
担当教員	梶井　祥子			
ね ら い	人間関係の基本構造を社会関係と社会集団の両方で学ぶ。家族、地域、職場の関係を構造と機能面から学習し、看護援助に活かすことができるコミュニケーションと対人関係についての基礎的知識を学ぶ。人間理解と寛容性の醸成を目指す。			
到達目標	「社会学」の方法論を基盤として、社会関係と社会集団をつくりあげている家族、親族、近隣、地域、職場、組織について、文化的背景とともに、その構造の特性や機能を理解する。現代社会の状況を踏まえ、看護援助に活かすことができるコミュニケーションと対人関係についての理解を深める。			

単元名	学習目標	内　容
人間関係	1．人間関係とは何か	1）社会学と人間関係 『人間学』あるいは『関係の学問』とも呼ばれる社会学の理論から、人々の相互行為の意味について学んでいく
	2．自己と他者との関わり	1） 自己の形成と他者理解
	3．役割理論から見る期待と葛藤	1）役割距離の重要性
	4．少子化する高齢社会	1）少子高齢化という大きな社会変動のなかで、人間関係の基盤がどのように変容したのか
家族関係	5．家族とは何か	1）家族は多様化したのか
	6．家族とジェンダー	1）ジェンダーから家族の人間関係を読み解く
	7．子育てと社会化機能、児童虐待問題	1）子育ての現代的課題
	8．核家族と子どもの学校での集団と関係	1）学校教育と家庭教育の接続
	9．生殖補助医療と家族	1）複雑化する親子間の人間関係
	10．高齢者のライフスタイル	1）生殖補助医療がもたらすもの 2）高齢社会の人間関係
地域関係	11．地域はどのように家族を支えられるか	1）老若男女共同参画社会へ
	12．地域の中間集団の可能性	1）文化的背景を探る
職場関係	13．保健医療の専門職	1）医療化する社会 2）働きかたの再検討
まとめ	14．ケアと医療	1）寛容なコミュニケーション・スキル

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　基礎分野　社会学』　医学書院
評価方法	筆記試験（80%）、授業内の小レポート（20%）
備考・履修上の留意点	必要に応じてプリントを配布し、新聞記事などからの知見を広げる。

科　　目	（9）カウンセリング理論	2年 前期	1単位	15時間
担当教員	後藤　聡			
ね ら い	看護に必要なカウンセリングの基本を理解し、カウンセラーの役割や態度を学ぶ。			
到達目標	・カウンセリングの基礎的知識を述べられる。 ・カウンセリングにおける人間関係の意義を述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
カウンセリングとは	1．対話と会話の意味の違いを述べられる。 2．カタルシスの機能を理解し、他者に提供できる関わりを述べられる。	1.対話とカタルシス
	3．カウンセリングにおける自己決定の意義を理解し、それを尊重して患者を含めた様々な人間関係に活かす関わりを述べられる。	1.自己決定の意義
カウンセリングの基本事項	4．人間関係における個別化、傾聴、共感の意味を理解し、患者を含めた様々な人間関係に活かす関わりを述べられる。	1.カウンセリングの基本事項：個別化・傾聴・共感
カール・ロジャーズの理論	5．ロジャーズの人間観や癒し観を理解し、それらを尊重して患者を含めた様々な人間関係に活かす関わりを述べられる。	1.カール・ロジャーズのカウンセリング理論 1）人間観 2）癒し観 3）カウンセラーの基本的態度
	6．ロジャーズによるカウンセラーの基本的態度を理解し、できるだけそれを身につけて患者を含めた様々な人間関係に活かす関わりを述べられる。	

テキスト及び副教材	テキスト、参考書は使用しない。
評価方法	筆記試験（70%）、提出物（30%）
備考・履修上の留意点	適宜資料を配布する。 私語や講義と関係のない行為を厳禁とする。私語をした人には減点することがある。講義と関係ない行為を発見した場合はその時間を欠席扱いにすることがある。

科　　目	（１０）地域生活論	２年 後期	１単位	30 時間
担当教員	金　昌震			
ね ら い	地域社会にかかわる理論をコミュニティ研究から実証的に理解する。国内外の文化的背景や社会とその課題を理解した上で、北海道で生活する人々の多様性に着目しながら、少子高齢化やグローバル化が進行する時代状況のなかでの相互扶助のあり方について多角的に学んでいく。			
到達目標	人口減少という社会変動を踏まえ、地域社会におけるコミュニティの必要性を述べられる。そのうえで個別的に北海道の福祉、介護、看護、医療の実態を述べられる。また、医療・福祉の領域における地域連携のあり方について述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
地域生活	１.地域生活を理解するうえで必要なコミュニティ、制度と組織、ネットワークについて述べられる。	１．総論 ２．地域を考える上で必要な観点 ３．地域社会の形成と相互作用 ４．社会変動に伴う課題 ５．ケアするコミュニティ ６．世代間交流・まちづくり
北海道の福祉生活	２．北海道の子育て支援や障がい者支援、高齢者支援、家族支援といった福祉の現状について述べられる。	１．虐待の予防 ２．地域が担う次世代育成 ３．社会的包摂を考える ４．高齢社会と人口減少 ５．家族の多様性への理解
北海道の医療・看護	３．北海道の医療・看護体制の現状について述べられる。	１．医療格差の実態 ２．コミュニティ医療 ３．保険と予防活動
コミュニティと公共性	４.コミュニティと公共性について具体的に述べられる。	１．地域の持続可能性の条件 ２．住民・行政との協働 ３．NPO の活躍と中間集団 ４．ソーシャル・キャピタル論 ５．多文化共生施策と外国人 ６.『つながり』の再構築 ７．共生社会の意味

テキスト及び副教材	『地域の社会学　2008 年　森岡清志編』　有斐閣アルマ（紙書籍）
評価方法	期末レポート（40%）、授業内での課題と発表（60%）
備考・履修上の留意点	トピックスとなる新聞記事などを随時使用する。

科　　目	（１１）教育学	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	木村　純			
ね ら い	看護においては、①人々が自ら健康を守り、病気の治癒のために自らに潜む力を発揮する。②看護師として研鑽を努め、自らの能力を高め、その養成や継続教育のあり方を考える。③子どもたちをはじめ患者の心身に様々な影響を与える教育の現状を理解することが求められる。そのために必要な教育学の知見を学ぶことが重要である。			
教育目標	①教育が学校教育にとどまらない生涯を通じての営みであることがわかる。②今日の教育学が看護師の養成や継続教育、看護実践といかに結びついているかを理解する。③今日の教育をめぐる問題の人びとの心身の健康との関わりがわかる。			

単元名	学習目標	内　容
教育とは何か	１．教育が学校教育にとどまらず、学校外のノンフォーマル教育なども含む生涯を通じての営みであることがわかる。	１）教育とは何か ２）教育学はどのように生まれたか
教育・学習の主体と対象 （１）教育学と成人教育学 （２）看護と成人教育学教育	２．従来の教育学から成人を対象にした教育学（アンドラゴジー）が発展しており、看護の世界ではその吸収・活用が積極的に行われている理由を知る。	１）教育学（ペダゴジー） ２）成人教育学（アンドラゴジー） ３）看護学への成人教育学の影響
教育の目的 （１）学校の誕生 （２）生涯学習の理念と歴史	３．主体的な生活を実現し、健康を守るために必要な教育学の多様な知見を理解し、看護師の継続教育や患者理解に生かすことができる。	１）学校制度の歴史と発展 ２）生涯学習の理念・歴史と看護師の生涯学習
教育の制度 （１）学校教育 （２）社会教育 （３）看護師養成	４．今日の教育制度の枠組みを知るとともに看護師養成の現状と課題がわかる。	１）学校教育の歴史と現状 ２）社会教育（公民館・図書館・博物館・地域と学校の協働） ３）看護師養成の歴史と専門学校
教育の創造 （１）学力をめぐって （２）教育の評価	５．教育が実現する学力やその評価の現状と課題を知り、それが看護実践の評価とどのように繋がるかを理解する。	１）日本の子どもの学力、成人力 ２）教育と看護の評価をめぐって
教育の現代的課題 （１）いじめ （２）子どもの貧困 （３）教師をめぐる問題 （４）老いと死を学ぶ	６．現代の子どもと父母たちがどのような教育問題を抱え、悩みを抱いているかを理解し、その解決はどのように図るべきかを理解する。	１）学校でのいじめとその防止 ２）子ども食堂、夜間中学 ３）教師の現状と課題 ４）老いと死を学ぶ意義とその内容
看護師のキャリア開発と教育	７．看護師はキャリアを重ねるためにどのように学ぶことができるかを知る。	１）ベナーの看護師のキヤリア段階 ２）看護師の専門性の向上とキャリア開発
まとめ	８．レポートの書き方を理解する。	全体の振り返りとレポートの書き方

テキスト及び副教材	テキストは特に指定しないが、毎回詳細な資料を配付し、参考文献を紹介する。講義中の質問を歓迎する。
評価方法	レポート（中間・最終）により評価する。
備考・履修上の留意点	講義中の質問を歓迎する。オンラインで実施せざるを得ない場合は、双方向性を確保するため感想の提出などを求める。

科　　目	（１２）英語Ⅰ	１年 前期	１単位	15 時間
担当教員	及川　陽子			
ね ら い	医療現場で必要な英語の語彙や文法を理解し、英語の基礎力の向上を目指す。			
到達目標	英語の基礎を習得し、医療にかかわる基本的な語彙や表現を使用できる。			

単元名	学習目標	内　容
Introduction Chapter 1 Chapter 2 Chapter 3 Chapter 4 Chapter 5 Chapter 6	１．医療現場で必要な語彙と文法を使用できる。 ２．英語を聴き取れる。 ３．英語を読める。	１．イントロダクション：なぜ英語を勉強するのか ２．体の各部の名称 Polio and Vaccination ３．健康状態を示す用語 A Doctor's Prescription ４．症状を示す用語 Internal Medical Exam ５．大切な接頭語、接尾語 Barometric Pressure and Migraines ６．カルテや看護記録の医療用語 Colon Polyps ７．リーディング Respiratory Symptoms

テキスト及び副教材	『English for Medicine (Revised Edition) 医療・看護のためのやさしい総合英語【改訂版】』　金星堂
評価方法	小テスト　各章の内容理解・語彙の確認をする。必要に応じて課題をだす。(50%) 筆記試験　読解力、語彙力、文法力を総合的にみる。(50%)
備考・履修上の留意点	語彙を調べるなど予習をすること。 内容に関して知識を得るだけではなく、自分の考え方を確立するために積極的に授業に参加すること。

科　　目	（１３）英語Ⅱ	２年 後期	１単位	15 時間
担当教員	及川　陽子			
ね ら い	医療現場で必要な英語の語彙や文法を理解し、英会話表現に慣れ、使いこなせることを目指す。			
到達目標	医療現場で必要なコミュニケーションをとるために英語で表現できる。			

単元名	学習目標	内　容
Chapter 7 Chapter 8 Chapter 9 Chapter 10 Chapter 11 Chapter 12 Chapter 13	１．基本的な文法を確認して、英語でコミュニケーションをとれる。 １）語彙を使用できる。 ２）英語を聞き取れる。 ３）英語で会話できる。	１．イントロダクション Diabetes ２．挨拶 Coronary Arterial Problems ３．初診患者の対応・問診 A Single Doctor’s Office Visit and Health Insurance ４．症状観察・緊急時の対応 Allergic Reactions ５．病院案内 COVID-19 ６．薬や検査の指示の説明 Heartburn and Endoscopy ７．Menopause

テキスト及び副教材	『English for Medicine (Revised Edition) 医療・看護のためのやさしい総合英語【改訂版】』　金星堂
評価方法	筆記試験（100％）
備考・履修上の留意点	語彙を調べるなど予習をすること。 内容に関して知識を得るだけではなく、自分の考え方を確立するために積極的に授業に参加すること。

科　　目	（１４）音楽	２年 後期	１単位	15 時間
担当教員	中山　ヒサ子、平野　則子、土屋　益子、増澤　綾子 長谷部　夏子、塚本　修子			
ね ら い	看護師としての感性を磨くと共に、看護におけるスキルとして音楽療法について学ぶ。			
到達目標	①　音楽療法についての理解を深める ②　音楽の持つ生理的、心理的、社会的な力がどのように治療に役立つか、臨床現場での音楽の活用の仕方を学ぶ。			

単元名	学習目標	内　容
1　音楽療法	音楽療法概論	音楽療法の歴史、定義、形態、対象の理解
2　高齢者への音楽療法	高齢者領域の学び	高齢者対象の音楽療法 特に認知症
3　障害児への音楽療法	児童領域の学び	特別支援教育や障害児対象の音楽療法
4　感性トレーニング	看護者としての感性を磨く チームケアの基礎を体験する	音楽鑑賞 歌唱活動など音楽体験
5　精神障害者への音楽療法	精神科領域の学び	薬物療法と心理療法 統合失調症患者に対する音楽療法
6　医療現場での音楽療法	緩和ケア領域の学び	ホスピス・緩和ケアでの実際 ＡＬＳと音楽療法
7　看護と音楽療法	看護と音楽療法の関わりについて理解する	看護師が音楽療法を学ぶ理由 音楽療法時の看護師の役割の理解

テキスト及び副教材	『初学者にも、ベテランにも役立つ音楽療法 効果・やり方・エビデンスを知る（第４版)』　　金芳堂
評価方法	筆記試験（100％）
備考・履修上の留意点	

科　　目	（１５）コミュニケーション論	１年 前期	１単位	15 時間
担当教員	丸山　宏昌			
ね ら い	看護に必要な人間関係形成には、コミュニケーションの基礎知識が不可欠である。基礎知識を理解し、自己を客観的に振り返ることでコミュニケーションの必要性を学び、看護に必要なコミュニケーション能力を高める基盤とする。			
到達目標	・基礎的なコミュニケーションスキルについて述べられる。 ・人間関係を構築するためのコミュニケーションについて述べられる。			
単元名	学習目標	内　容		
コミュニケーションの概念	１．コミュニケーションの意義と成立過程について述べられる。	１．コミュニケーションの定義と意義 ２．コミュニケーションの成立過程とその影響要因 ３．コミュニケーションの方法		
人間関係を形成・発展する方法	２．コミュニケーションスキルを具体的に述べられる。	１．カウンセリング ２．コーチング ３．アサーション ４．アドボカシー ５．アンガーマネジメント		
	３．自己のコミュニケーションの傾向を具体的に述べられる。	１．自己理解の重要性		
	４．多様化するコミュニケーション方法を具体的に述べられる。	１．情報通信機器を用いたコミュニケーションの実際 ２．情報通信機器を用いたコミュニケーションにおけるマナー		
テキスト及び副教材	授業内で適宜、資料を配布します。			
評価方法	筆記試験（65%）、授業への取り組み状況（35%）			
備考・履修上の留意点	授業は演習を含む講義形式で行います。			

２）専門基礎分野

「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」

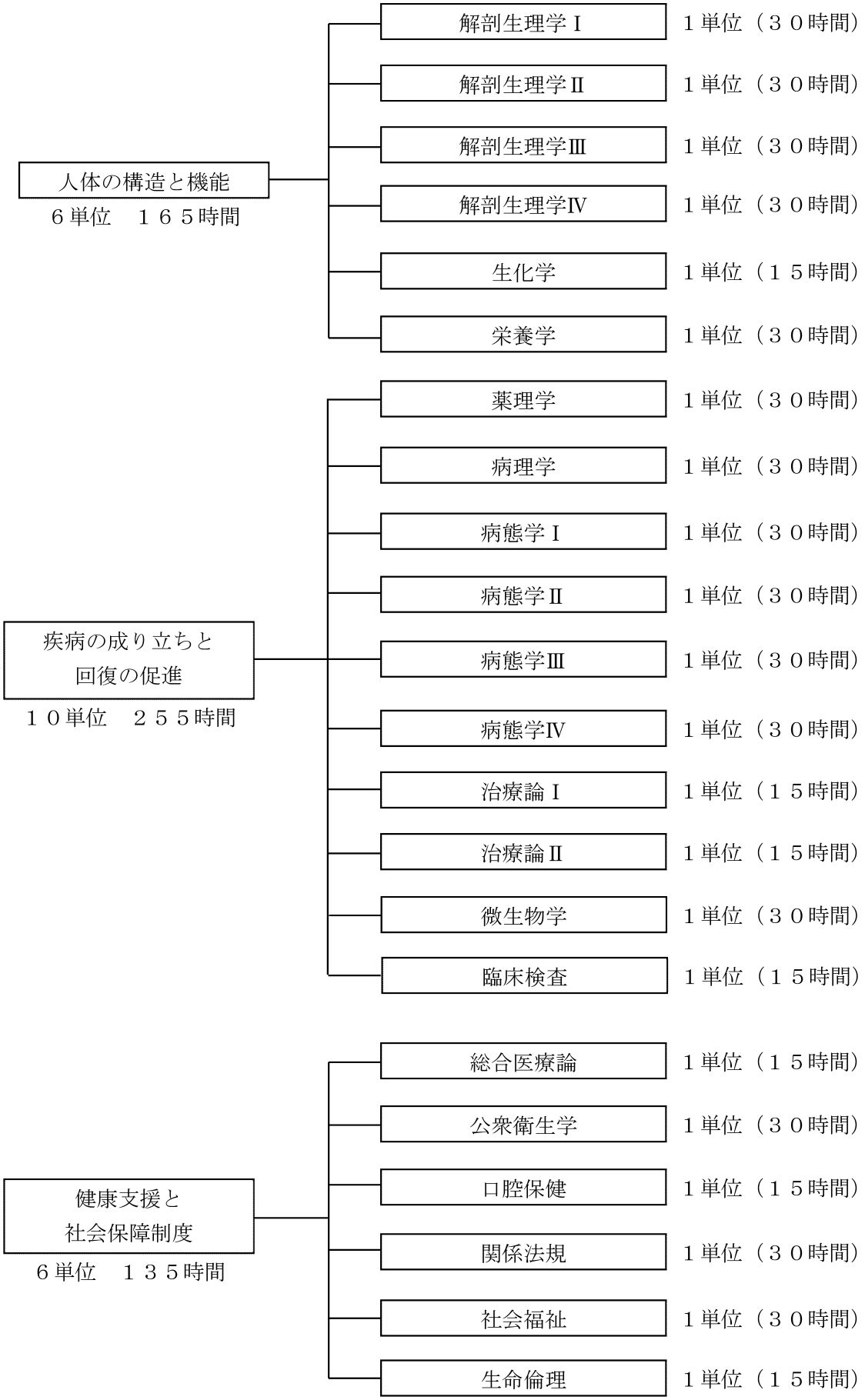
専門基礎分野では、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」および「健康支援と社会保障制度」について理解するために必要な科目を学習する。

「人体の構造と機能」を理解するために、解剖生理学、生化学、栄養学等、「疾病の成り立ちと回復の促進」を理解するために、病態学、治療論、微生物学等、「健康支援と社会保障制度」を理解するために、総合医療論、公衆衛生学、社会福祉、生命倫理等の科目を設定している。

この分野では、看護学の観点から人体を系統立て理解し、看護実践の基礎となる健康・疾病に関する観察力、臨床判断能力の基礎となる内容を学習する。保健・医療・福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割を理解し、チーム医療と多職種連携について考える基礎的知識を学習する。

看護の対象となる人々について、生命の尊重を基盤に、身体的、精神的、社会的な観点から理解し、看護専門職者としての倫理観等について考えるための基礎的知識を学習する。

＜専門基礎分野の設定科目＞



科　　目	（１６）解剖生理学Ⅰ	１年 前期	１単位	30 時間
担当教員	二宮　孝文			
ね ら い	正常な人体の構造と機能を系統的に学び、看護の対象である人間の生命活動を作り出す働きを支えるしくみと新たな生命を作り出すしくみについて学ぶ。			
到達目標	解剖生理学の基礎知識、体液の調節、皮膚・感覚器系、人体の発生と遺伝、生殖器系について述べられる.			
単元名	学習目標	内　容		
解剖生理学の基礎知識	１．解剖生理学を学ぶための基礎知識について述べられる。	１．形からみた人体 １）体表から触知する人体の構造 ２）人体の構造と区分 ３）人体の部位と器官 ４）方向と位置を示す用語 ２．素材からみた人体 １）人体とはどのようなものか ２）細胞の構造 ３）細胞を構成する物質とエネルギーの生成 ４）細胞膜の構造と機能 ５）細胞の増殖と染色体 ６）分化した細胞がつくる組織 ３．機能からみた人体 １）動物機能と植物機能の器官系 ２）体液とホメオスタシス		
皮膚・感覚器系	２．眼の構造と視覚について述べられる。	１．眼球の構造 ２．眼球付属器 ３．視覚		
	３．耳の構造と聴覚・平衡覚について述べられる。	１．耳の構造 ２．聴覚 ３．平衡覚		
	４．味覚と嗅覚について述べられる。	１．味覚器と味覚 ２．臭覚器と臭覚		
	５．皮膚の構造と機能について述べられる。	１．皮膚の構造と機能 １）皮膚の組織構造 ２）皮膚の付属器 ３）皮膚の血管と神経 ４）皮膚の機能		
	６．疼痛（痛み）について述べられる。	１．痛みの分布 ２．疼痛の発生機序		
	７．男性生殖器について述べられる。	１．精巣 ２．精路と付属生殖器 ３．男性の外陰部 ４．男性の生殖機能		

	8．女性生殖器について述べられる。	1．卵巣 2．卵管・子宮・膣 3．女性の外陰部と会陰 4．乳腺 5．女性の生殖器 1）卵巣周期 2）月経周期
	9．受精と胎児の発生について述べられる。	1．生殖細胞と受精 2．初期発生と着床 3．胎児と胎盤 1）胎盤と臍帯 2）生殖器の分化と発達 3）妊娠中の母体の変化 4）分娩 5）胎児の血液循環
	10．成長と老化について述べられる。	1．小児期の成長 1）成長に影響を与える因子 2）身長と体重の変化 3）思春期における性成熟 2．老化 1）老化のメカニズム 2）各器官系・組織における老化現象
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1]　解剖生理学』 医学書院	
評価方法	筆記試験（100%）	
備考・履修上の留意点	配布資料を熟読すること。	

科　　目	（１７）解剖生理学Ⅱ	１年 前期	１単位	30 時間
担当教員	中村　宅雄、菊池　真			
ね ら い	正常な人体の構造と機能を系統的に学び、看護の対象である人間の生活・精神活動を維持する働きを支えるしくみについて学ぶ。			
到達目標	筋肉系、骨格器系、脳神経系について述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
筋肉系、骨格器系	１．骨格について述べられる。	１．骨格とはどのようなものか １）人体の骨格 ２）骨の形態と構造 ３）骨の組織と組成 ４）骨の発生と成長 ５）骨の生理的機能
	２．骨の連結について述べられる。	１．関節 ２．不動性の関節
	３．骨格筋について述べられる。	１．骨格筋の構造 ２．骨格筋の作用 ３．骨格筋の神経支配
	４．体幹の骨格と筋について述べられる。	１．脊柱 ２．胸郭 ３．背部、胸部、腹部の筋
	５．上肢の骨格と筋について述べられる。	１．上肢帯の骨格 ２．自由上肢の骨格 ３．上肢帯の筋群 ４．上腕の筋群 ５．前腕の筋群 ６．手の筋群 ７．上肢の運動
	６．下肢の骨格と筋について述べられる。	１．下肢帯と骨盤 ２．自由下肢の骨格 ３．下肢帯の筋群 ４．大腿の筋群 ５．下腿の筋群 ６．足の筋 ７．下肢の運動
	７．頭頸部の骨格と筋について述べられる。	１．神経頭蓋 ２．内臓頭蓋 ３．頭部の筋 ４．頸部の筋
	８．筋の収縮について述べられる。	１．骨格筋の収縮機構 ２．骨格筋収縮の種類と特性 ３．不随意筋の収縮と特徴
脳神経系	９．神経系の構造と機能について述べられる。	１．神経細胞と支持細胞 ２．ニューロンでの興奮の伝達 ３．シナプスでの興奮の伝達 ４．神経系の構造

	10. 脊髄と脳について述べられる。	１．脊髄の構造と機能 ２．脳の構造と機能 １）脳幹 ２）小脳 ３）間脳 ４）大脳 ５）脳室と髄膜 ６）脳脊髄液の循環
	11. 脊髄神経と脳神経について述べられる。	１．脊髄神経の構造と機能 １）脊髄神経の構造 ２）脊髄神経のおもな支配域 ３）脊髄神経の機能 ２．脳神経の構造と機能 １）脳神経のおもな支配域 ２）脳神経の機能
	12. 脳の高次機能について述べられる。	１．脳波と睡眠 ２．記憶 ３．本能行動と情緒行動 ４．内臓調節機能 ５．中枢神経系の生涯
	13. 運動機能と下行伝導路について述べられる。	１．運動ニューロン ２．下行伝導路
	14. 感覚機能と上行伝導路について述べられる。	１．感覚の種類 ２．感覚の性質 ３．体性感覚の受容器の種類 ４．皮膚の感覚受容器の分布 ５．上行伝導路 １）体性感覚の伝導路 ２）視伝導路 ３）聴覚伝導路
	15. 自律神経による調節について述べられる。	１．自律神経の機能 １）自律神経の特徴 ２）交感神経と副交感神経 ３）自律神経の中枢 ２．自律神経の構造 １）交感神経の構造 ２）副交感神経の構造 ３）内臓の感覚神経 ３．自律神経の神経伝達物質と受容器
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1]　解剖生理学』 医学書院	
評価方法	筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点	配布資料を熟読すること。	

科　　目	（１８）解剖生理学Ⅲ	１年 前期	１単位	30 時間
担当教員	菊池　真			
ね ら い	正常な人体の構造と機能を系統的に学び、看護の対象である人間の生命活動を維持する働きを支えるしくみについて学ぶ。			
到達目標	呼吸器系、体温調整、循環器系、血液・造血器系について述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
呼吸器系	１．呼吸器の構造について述べられる。	１．呼吸器の構造 １）呼吸器の構成 ２）上気道 ３）下気道と肺 ４）胸膜・縦隔
	２．呼吸について述べられる。	１．呼吸 １）内呼吸と外呼吸 ２）呼吸器と呼吸運動 ３）呼吸気量 ４）ガス交換とガスの運搬 ５）肺の循環と血流 ６）呼吸運動の調節 ７）呼吸器系の病態生理
循環器系	３．循環器系の構成、心臓の構造について述べられる。	１．準寒気の候性 ２．心臓の構造 １）心臓の位置と外形 ２）心臓の４つの部屋と４つの弁 ３）心臓壁 ４）心臓の血管と神経
	４．心臓の拍出機能について述べられる。	１．心臓の拍出機能 １）心臓の興奮とその伝播 ２）心電図 ３）心臓の収縮
	５．末梢循環系の構造について述べられる。	１．抹消循環器系の構造 １）血管の構造 ２）肺循環の血管 ３）体循環の動脈 ４）全の静の静脈
	６．血液の循環とその調整について述べられる。	１．血液の循環の調節 １）血圧 ２）血液の循環 ３）血圧・血流量の調整 ４）微小循環 ５）循環器系の病態生理 ２．リンパとリンパ管

血液・造血器系	7．血液について述べられる。	1．血液 1）血液の組成と機能 2）赤血球 3）白血球 4）血小板 5）血漿たんぱく質と赤血球沈降速度 6）血液の凝固と線維素溶解 7）血液型
	8．リンパとリンパ管について述べられる。	1．リンパとリンパ管 1）リンパ管の構造 2．リンパの循環
	9．生体防御機構について述べられる。	1．非特異的防御機構 1）皮膚・粘膜における防御 2）貪食作用・細胞傷害物質による防御 2．特異的防御機構－免疫 1）免疫に関与するリンパ球の機能 2）液性免疫 3）細胞性免疫 4）予防接種 5）免疫の異常 3．生体防御の関連臓器 1）リンパ節 2）粘膜付属リンパ組織と扁桃 3）胸腺 4）脾臓
体温とその調節	10．体温とその調整機構について述べられる。	1．体温とその調節 1）熱の出納 2）体温の分布と測定 3）体温調節 4）発熱 5）高体温と低体温
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1]　解剖生理学』 医学書院	
評価方法	筆記試験（100%）	
備考・履修上の留意点	配布資料を熟読すること。	

科　　目	（１９）解剖生理学Ⅳ	１年 前期	１単位	30 時間
担当教員	二宮　孝文			
ね ら い	正常な人体の構造と機能を系統的に学び、看護の対象である人間の生命活動と内部環境を維持するしくみについて学ぶ。			
到達目標	消化器系、内分泌系、腎泌尿器系について述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
消化器系	１．口・咽頭・食道の構造と機能について述べられる。	１．口・咽頭・食道の構造と機能 １）口の構造・機能 ２）咽頭と食道の構造・機能
	２．腹部消化管の構造と機能について述べられる。	１．腹部消化管の構造と機能 １）胃の構造・機能 ２）小腸の構造・機能 ３）栄養素の消化と吸収 ４）大腸の構造・機能
	３．膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能について述べられる。	１．膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 １）膵臓の構造・機能 ２）肝臓と胆嚢の構造・機能
	４．腹膜について述べられる。	１．腹膜 １）腹膜と腸間膜 ２）腹膜と内臓の位置関係 ３）胃の周辺の間膜
内分泌系	５．内分泌系による調節について述べられる。	１．内分泌とホルモン １）分泌物の伝わり方とホルモンの特徴 ２）ホルモンの生理作用 ２．ホルモンの化学構造と作用機序
	６．全身の内分泌腺と内分泌細胞について述べられる。	１．視床下部－下垂体系 １）下垂体の構造 ２）神経内分泌 ３）視床下部ホルモン ４）下垂体前葉ホルモン ５）下垂体前葉ホルモン ２．甲状腺と副甲状腺 １）甲状腺と副甲状腺の構造 ２）甲状腺ホルモンの産生 ３）甲状腺ホルモンの作用 ４）甲状腺ホルモンの分泌調整 ５）カルシトニンの作用 ６）副甲状腺の機能 ３．膵臓の構造と機能 ４．副腎 １）副腎の構造

		2）副腎皮質の機能 3）副腎髄質の機能 5．性腺 1）性腺の構造と機能
	7．ホルモン分泌の調整について述べられる。	1．ホルモン分泌の調整 1）神経性調節 2）物質の血中濃度による自己調節 3）促進・抑制ホルモンによる調節 4）負のフィードバック 5）正のフィードバック
	8．ホルモンによる調節の実際について述べられる。	1．ホルモンによる糖代謝の調節 2．ホルモンによるカルシウム代謝の調節 3．ストレスとホルモン 4．乳房の発達と乳汁分泌 5．高血圧をきたすホルモン
腎泌尿器系	9．腎臓について述べられる。	1．腎臓 1）腎臓の構造・機能 2）糸球体の構造・機能 3）尿細管の構造・機能 4）傍糸球体装置 5）クリアランスと糸球体濾過量 6）腎臓から分泌される生理活性物質
	10．排尿路について述べられる。	1．排尿路 1）排尿路の構造 2）尿の貯蔵と排尿
	11．体液の調節について述べられる。	1．体液の調節 1）水の出納 2）脱水 3）電解質の異常 4）酸塩基平衡
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1]　解剖生理学』 医学書院	
評価方法	筆記試験（100%）	
備考・履修上の留意点	配布資料を熟読すること。	

科　　目	（２０）生化学	１年 前期	１単位	15 時間
担当教員	田村　正人			
ね ら い	看護の対象である人間の生体を構成している主要な物質の構造と性質および機能を理解し、栄養とこれらの物質間の相互作用（代謝）を学ぶ。			
到達目標	生体を構成している主要な物質の構造と性質及び機能を説明できる。 栄養とこれらの物質間の相互作用（代謝）を説明できる。 健康状態に影響する栄養素とビタミンの役割を説明できる。			

単元名	学習目標	内　容
生化学を学ぶための基礎知識	１．生化学を学ぶための基礎知識について述べられる。	１．生体を構成する物質の構造 １）生化学とは ２）生命とは ３）細胞の構造と機能
生体を構成する物質の構造	１．細胞と生体を構成する物質（糖質、脂質、たんぱく質、核酸）の構造と性質を学び、説明できる。	１．糖質、脂質、たんぱく質、核酸の構造と性質
ビタミンとミネラル，栄養	１．ビタミンの構造、性質と機能を学ぶ。基礎代謝と栄養について学び、説明できる。	１．ビタミンの構造、性質と機能 ２．基礎代謝と栄養
代謝の基礎と酵素・補酵素	１．代謝と生体のエネルギー、代謝の基礎知識について述べられる。 ２．生体内の化学反応（同化と異化）酵素の性質と働きを学び、説明できる。	１．三大栄養素の代謝の概要 ２．生体内の化学反応（同化と異化）、酵素の性質と働き
糖質の代謝と栄養	１．糖質の代謝と栄養を学び、説明できる。	１．糖質の代謝と栄養
脂質の代謝と栄養	１．脂質の代謝と栄養を学び、説明できる。	１．脂質の代謝と栄養
タンパク質の代謝と栄養	１．タンパク質の代謝と栄養を学び、説明できる。	１．タンパク質の代謝と栄養
核酸の代謝と遺伝子	１．核酸の代謝と遺伝子を学び、説明できる。	１．核酸の代謝と遺伝子

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［2］　生化学』 医学書院
評価方法	筆記試験（100%）
備考・履修上の留意点	

科　　目	（２１）栄養学	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	武部　久美子、野原　純子			
ねらい	人間にとっての栄養の意義、栄養と健康のかかわりについて学び、生化学で学習した各栄養素の代謝・生理機能を関連させ、看護の対象である人間の栄養状態の評価、各ライフステージにおける栄養、臨床栄事療法を学ぶ。また栄養ケア・マネジメントにおけるチーム医療について学ぶ			
到達目標	・栄養と健康の関連や人にとっての食事の意味を述べられる。 ・ライフステージによって異なる栄養を理述べられる。 ・疾患別栄養指導の実際を述べられる。 ・NST の役割と多職種連携について述べられる。			
テキスト及び副教材	『わかりやすい栄養学　臨床・地域で役立つ食事指導の実際』　ヌーヴェルヒロカワ（紙書籍） 『糖尿病食事療法のための食品交換表』　文光堂（紙書籍）			
評価方法	筆記試験（80%）、レポート課題（20%）			
備考・履修上の留意点	一般健康人および傷病者の栄養全般について学ぶ。復習を心がけて、判らない事項は積極的に質問して下さい。			

【武部】（１５講）

単元名	学習目標	内　容
健康と栄養	１．健康な生活を送るための、栄養と健康の関連について理解する。生活環境の変化と食環境との関係性について。述べられる。	１.栄養とは ２.社会構造、生活環境の変化と食環境の変遷について ３.健康的な食生活の管理
日常生活と栄養	２．ヒトにおける栄養の意味。日本人における栄養摂取の基準について述べられる。	１.生命維持と栄養 ２.日本人の食事摂取基準と摂取量の現状と課題
ライフステージと栄養	３．妊娠期・乳児期・幼児期の栄養療法について述べられる。	１.妊娠期の貧血、食物アレルギー、先天性代謝異常
	４．高齢期に特徴的な疾病とその栄養ケアについて述べられる。	２.加齢に伴う身体変化と栄養 ３.摂食・嚥下障害の栄養ケア ４.褥瘡と栄養ケア
医療保険制度と栄養管理	５．日本の医療保険制度における栄養管理体制について述べられる。	１.入院時食事療養の制度 ２.チーム医療と栄養管理実施加算 ３.栄養・食事指導
栄養ケアマネジメントとＮＳＴ	６．傷病者の栄養評価と栄養ケアにおけるチーム連携について述べられる。	１.栄養スクリーニング ２.栄養アセスメント ３.栄養ケアプラン ４.栄養サポートチーム ５.栄養士の役割
健康施策と栄養	７.生活習慣病の予防への国の施策と特定保健指導の実際を述べられる。	１.国の健康施策 ２.特定健診と特定保健指導
治療食の実際	８.疾患別治療食の実際を具体的に説明できる。	１.糖尿病食の実際 ２.心臓・高血圧食の実際 ３.潰瘍食の実際

【野原】（５講）

単元名	学習目標	内　容
疾患と栄養①	１．傷病者のための栄養食事療法について述べられる。	１．代謝障害と栄養
疾患と栄養②	２．傷病者のための栄養食事療法について述べられる。	１．循環器系の障害と栄養
疾患と栄養③	３．傷病者のための栄養食事療法について述べられる。	１．消化器系の障害と栄養
疾患と栄養④	４．傷病者のための栄養食事療法について述べられる。	１．泌尿器系の障害と栄養
疾患と栄養⑤	５．傷病者のための栄養食事療法について述べられる。	１．肝疾患・薬と薬品の相互作用

科　　目	（２２）薬理学	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	吉田　栄一			
ね ら い	薬物の効果や副作用、投与するときの注意点などを正しく理解し、安全に薬物療法を行うための基礎的知識を学ぶ。 薬物療法における看護師の役割とチーム医療について理解する。			
到達目標	・薬物の投与方法及び投与量と薬理効果の関係を正しく述べられる。 ・薬物の人体に作用する仕組みや副作用などを正しく述べられる。 ・薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を述べられる。 ・薬物療法における多職種連携について述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
薬理学総論	１．薬理学の概念や薬物療法の基本について述べられる。	１）薬理学とは ２）薬物治療の目指すもの ３）薬物と医薬品の定義 ４）薬物療法の目的 ５）薬物療法における看護師の役割 ６）薬剤師の役割とチーム医療
	２．薬理学の基礎知識を述べられる。	１）薬理作用と作用機序 ２）薬の体内挙動 ３）薬物相互作用 ４）薬効の個人差に影響する因子 ５）副作用と有害作用
	３．医薬品の管理や法律について述べられる。	１）医薬品と薬事関連法規 ２）医薬品の管理と取り扱い ３）処方箋と調剤 ４）医薬品添付文書
抗感染症薬・消毒薬	４．感染症治療に関する基礎事項と抗感染症薬の作用・副作用を述べられる。	１）抗感染症薬の作用機序と分類 ２）抗菌薬 ３）抗真菌薬 ４）抗ウイルス薬 ５）治療における問題点
	５．各種消毒薬の特性と有効性を学び、正しい選択と使用方法を述べられる。	１）消毒薬とは ２）消毒薬の種類と使用方法
抗がん薬・がん疼痛治療薬	６．抗がん薬の作用・副作用を述べられる。	１）がん治療に関する基礎事項 ２）抗がん薬の種類と副作用
	７．がん疼痛治療薬の作用・副作用を述べられる。	１）がん疼痛治療の概要 ２）がん疼痛治療薬の種類と副作用
抗アレルギー薬・抗炎症薬	８．炎症の発生機序とアレルギー疾患・その他免疫疾患治療薬の作用・副作用を述べられる。	１）非ステロイド性抗炎症薬 ２）ステロイド性抗炎症薬 ３）抗アレルギー薬 ４）関節リウマチ治療薬 ５）痛風・高尿酸血症治療薬 ６）免疫治療薬
末梢神経系作用薬	９．交感神経作用薬・副交感神経作用薬の薬理作用と応用について述べられる。	１）交感神経と副交感神経の役割 ２）アドレナリン・コリン作動薬
	10．筋弛緩薬・局所麻酔薬の薬理作用と応用について述べられる。	３）筋弛緩薬 ４）局所麻酔薬

中枢神経系作用薬	11. 中枢神経系作用薬の薬理作用と応用について述べられる。	1）全身麻酔薬 2）催眠薬・抗不安薬 3）抗精神病薬 4）抗うつ薬・気分安定薬 5）抗てんかん薬 6）パーキンソン症候群治療薬
物質代謝作用薬	12. 各種ホルモンの作用と役割、ホルモン拮抗薬の薬理作用と応用について述べられる。 13. 代表的なビタミンについてその役割、特徴を述べられる。	1）糖尿病治療薬 2）甲状腺疾患治療薬 3）骨粗鬆症治療薬 4）代表的なビタミン
循環器系作用薬	14. 高血圧・その他循環器系疾患治療薬の作用・副作用を述べられる。	1）高血圧治療薬 2）狭心症治療薬 3）心不全治療薬 4）抗不整脈薬 5）利尿薬 6）脂質異常症治療薬 7）抗血液凝固薬 8）貧血治療薬
呼吸器・消化器・泌尿器系作用薬	15. 呼吸器系疾患治療薬の作用・副作用を述べられる。	1）気管支喘息治療薬 2）鎮咳薬 3）去痰薬
	16. 消化器疾患治療薬の作用・副作用を述べられる。	1）消化性潰瘍治療薬 2）健胃・消化薬 3）制吐薬 4）下剤・止痢薬 5）潰瘍性大腸炎等治療薬
	17. 泌尿器系疾患治療薬について述べられる。	1）泌尿器系作用薬
輸血剤・輸液製剤・皮膚科用薬・点眼薬・薬物中毒・薬に関する単位	18. 輸血の目的と適応を学び、副作用への対応を述べられる。	1）輸血用血液製剤
	19. 輸液の使用目的と適応を述べられる。	1）輸液製剤
	20. 皮膚科用薬・点眼薬の使用目的と特徴を述べられる。	1）皮膚科用薬・点眼薬
	21. 薬物中毒とその解毒薬について述べられる。	1）解毒薬
	22. 薬に関する単位を述べられる。	1）希釈液の調整、点滴速度、滴下速度
テキスト及び副教材	「系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学 疾病のなりたちと回復の促進[３]」　医学書院 「今日の治療薬 2024　解説と便覧」　南江堂（紙書籍）	
評価方法	筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点		

科　　目	（２３）病理学	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	髙谷　あかり、半田　稔也、加藤　大貴、四十防　直貴			
ね ら い	正常な人間の構造と機能の理解を踏まえ、看護の対象の健康レベルや病気の経過、予後を理解するために、病気の原因、経過、機能的・形態的変化についての基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	病気の原因と発病の仕組み、疾病の分類について述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
病理学で学ぶこと	１．病理学の基礎知識を述べられる。	１．看護と病理学 ２．病気の原因 ３．疾病の分類
細胞・組織の損傷と修復、炎症	２．細胞・組織の損傷と修復について述べられる。	１．細胞の損傷と適応 ２．物質沈着
	３．炎症について述べられる。	１．炎症 ２．炎症の各型
免疫とアレルギー	４．免疫とアレルギーについて述べられる。	１．免疫 ２．アレルギーと自己免疫疾患、膠原病 ３．移植と免疫
感染症	５．感染症について述べられる。	１．病原体と感染症 ２．宿主の防御機構 ３．おもな病原体と感染症 ４．感染症の治療 ５．感染症の予防
循環障害	６．循環障害について述べられる。	１．循環器系の概要 ２．局所性の循環障害 ３．全身性の循環障害 ４．リンパの循環障害
代謝障害	７，代謝障害について述べられる。	１．脂質代謝障害と疾患 ２．たんぱく質代謝障害と疾患 ３．糖質代謝障害と疾患 ４．その他の代謝障害と疾患
老化と死	８．老化と死について述べられる。	１．細胞の老化と個体の老化 ２．加齢に伴う諸臓器の変化 ３．個体の死

先天異常と遺伝子異常	９．先天異常と遺伝子異常について述べられる。	１．先天異常とは ２．遺伝子異常 ３．遺伝性疾患 ４．染色体異常による疾患 ５．胎児の障害 ６．先天異常・遺伝子性疾患の診断
腫瘍	１０．腫瘍について述べられる。	１．腫瘍の定義と分類 ２．腫瘍の発生病理 ３．悪性腫瘍の転移と進行度 ４．腫瘍の診断と治療 ５．腫瘍の統計
病理検査	１１．病理検査について述べられる。	１．病理検査の意義
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野基礎 疾病のなりたちと回復の促進［1］病理学』　医学書院	
評価方法	筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点		

科　　目	（２４）病態学Ⅰ	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	金野　匠、本田　和哉			
ね ら い	病理学で学んだ知識を基に、代表的な疾患とその要因・原因、健康障害に伴う生体の変化、診断に必要な検査、治療法、予後についての基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	呼吸器、循環器、血液・造血器疾患について述べられる。			
単元名	学習目標	内　容		
循環器	１．循環器系疾患の動向と特徴を述べられる。 ２．循環器系の構造と機能について述べられる。 ３．循環器系の疾患について述べられる。	１．医療の動向 ２．患者の特徴 １．心臓の構造と機能 ２．血管の構造と機能 １．症状とその病態生理 １）胸痛 ２）動悸 ３）呼吸困難 ４）浮腫 ５）チアノーゼ ６）失神 ７）四肢の疼痛 ８）ショック ２．検査と治療・処置 １）診察と診断の流れ ２）検査 ３）治療・処置 ３．疾患の理解 １）虚血性心疾患 ２）心不全 ３）血圧異常 ４）不整脈 ５）弁膜症 ６）心膜炎 ７）心筋疾患 ８）肺性心 ９）先天性心疾患 10）動脈系疾患 11）静脈系疾患 12）リンパ系疾患		
呼吸器	４．呼吸器系疾患動向と特徴述べられる。 ５．呼吸器系の構造と機能について述べられる。 ６．呼吸器系の疾患について述べられる。	１．医療の動向 ２．患者の特徴 １．呼吸器の構造 ２．呼吸の生理 １．症状とその病態生理 １）自覚症状（咳嗽・喀痰・血痰・喀血・胸痛・呼吸困難） ２）他覚症状（チアノーゼ・ばち指・発熱・　呼吸の異常・声の異常・いびき・意識障害）		

		2．検査と治療・処置 1）診察と診断の流れ 2）検査 3）治療・処置 3．疾患の理解 1）感染症 2）間質性肺疾患 3）気道疾患 4）肺血栓寒栓症 5）呼吸不全 6）呼吸調節に関する疾患 7）肺腫瘍 8）肺・肺血管の形成異常 9）胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 10）肺移植 11）胸部外傷
血液・造血器	7．血液・造血器疾患の動向と特徴を述べられる。	1．医療の動向 2．患者の特徴
	8．血液の生理と造血のしくみについて述べられる。	1．血液の成分と機能 2．造血のしくみ
	9．血液・造血器疾患について述べられる。	1．症状とその病態生理 1）貧血 2）白血球増加症 3）白血球減少症 4）脾腫 5）リンパ節腫脹 6）出血性素因 2．検査と治療・処置 1）検査 2）血液型と輸血 3）造血器腫瘍の分類 4）造血器腫瘍治療の基本理念 3．疾患の理解 1）赤血球系の疾患 2）白血球系の疾患 3）リンパ網内系疾患 4）異常タンパク血症 5）出血性疾患
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［2］　呼吸器』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［3］　循環器』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［4］　血液・造血器』医学書院 『系統看護学講座　専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進［2］　態生理学』　医学書院	
評価方法	筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点		

科　　目	（２５）病態学Ⅱ	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	菊池　真、藤本　真、村上　宣人、田沼　徳真、杉山　浩平			
ねらい	病理学で学んだ知識を基に、代表的な疾患とその要因・原因、健康障害に伴う生体の変化、診断に必要な検査、治療法、予後についての基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	消化器系、脳・神経、運動器疾患について述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
消化器	１．消化器系疾患動向と特徴を 述べられる。	１．医療の動向 ２．患者の特徴
	２．消化器系の構造と機能について述べられる。	１．消化器の構造と機能
	３．消化器系疾患について述べられる。	１．症状とその病態生理 １）嚥下困難 ２）おくび・胸やけ ３）吐きけ・嘔吐 ４）腹痛 ５）吐血・下血 ６）下痢 ７）便秘 ８）腹部膨満 ９）食欲不振と体重減少 10）腹水 11）黄疸・意識障害 ２．検査と治療・処置 １）診察と診断の流れ ２）検査 ３）治療・処置 ３．疾患の理解 １）食道の疾患 ２）胃・十二指腸疾患 ３）腸および腹膜疾患 ４）肝臓・胆嚢の疾患 ５）膵臓の疾患 ６）急性腹症 ７）腹部外傷
脳・神経	４．脳・神経系疾患の基礎知識を述べられる。	１．医療の動向 ２．患者の特徴 ３．疾病の経過
	５．脳・神経系の構造と機能について述べられる。	１．脳・神経系の構造と機能 ２．おもな脳神経の機能別解剖学
	６．脳・神経系疾患について述べられる。	１．症状とその病態生理 １）意識障害 ２）高次脳機能障害 ３）運動機能障害 ４）感覚器障害 ５）自律性のある機能の障害 ６）頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア ７）髄膜刺激症状 ８）頭痛 ９）めまい ２．検査・診断と治療・処置 １）診断と診察の流れ ２）検査 ３）治療

運動器	7．運動器疾患の基礎知識を述べられる。 8．運動器の構造と機能について述べられる。 9．運動器疾患について述べられる。	3．疾患の理解 1）脳疾患 2）脊髄疾患 3）末梢神経障害 4）神経・筋疾患 5）脱髄・変性疾患 6）脳・神経系の感染症 7）中毒 8）てんかん 1．医療の動向 2．患者の特徴 3．疾病の経過 1．運動器の構造と機能 1．症状とその病態生理 1）疼痛 2）形態の異常 3）関節運動の異常 4）神経の障害 5）異常歩行または跛行 6）筋肉の障害 7）その他の障害 2．診断・検査と治療・処置 1）診察・診断の流れ 2）検査 3）治療・処置 3．疾患の理解 1）外傷性（外因性）の運動器疾患 （骨折・脱臼・捻挫及び打撲・神経の損傷・筋.腱.靱帯などの損傷） 2）内因性（非外傷性）の運動器疾患 （先天性疾患・骨.関節の炎症性疾患 骨腫瘍および軟部腫瘍・代謝性骨疾患・腱の疾患・神経,筋疾患 上肢および上肢帯の疾患・脊椎の疾患・下肢および下肢帯の疾患 ロコモティブシンドロームと運動器不安定症・フレイル・サルコペニア 廃用症候群）
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［5］　消化器』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［7］　脳・神経』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［10］　運動器』　医学書院 『系統看護学講座　専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進［2］　病態生理学』　医学書院	
評価方法	筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点		

科　　目	（２６）病態学Ⅲ	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	中田　圭、小山　雅之、佐野　敬夫			
ね ら い	病理学で学んだ知識を基に、代表的な疾患とその要因・原因、健康障害に伴う生体の変化、診断に必要な検査、治療法、予後についての基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	内分泌・代謝、腎、泌尿器・生殖器疾患について理解する。			

単元名	学習目標	内　容
内分泌・代謝	１．内分泌・代謝疾患の基礎知識を述べられる。	１．医療の動向 ２．患者の特徴 ３．疾患の経過と看護
	２．内分泌・代謝器官の構造と機能について述べられる。	１．内分泌器官の構造と機能 ２．代謝の概要と機能
	３．内分泌・代謝疾患について述べられる。	１．症状とその病態生理 １）体重変化・身長の異常 ２）容貌の変化 ３）神経・筋症状 ４）循環器症状 ５）消化器症状 ６）皮膚の変化 ７）無月経 ２．検査 １）内分泌疾患の検査 ２）代謝疾患の検査 ３．疾患の理解 １）内分泌疾患 ２）代謝疾患
腎・泌尿器	４．腎・泌尿器疾患の基礎知識を述べられる。	１．医療の動向 ２．患者の特徴 ３．疾患の経過
	５．腎・泌尿器の構造と機能について述べられる。	１．腎・泌尿器の構造と機能 ２．男性生殖器の構造と機能
	６．腎・泌尿器疾患について述べられる。	１．症状とその病態生理 １）尿の異常 ２）排尿に関連した症状 ３）浮腫 ４）水と電解質の異常 ５）高血圧 ６）循環器系の異常 ７）血液の異常 ８）尿毒症 ９）疼痛（圧痛、仙痛） 10）腫脹・腫瘤 11）その他の症状 ２．検査と治療 ３．疾病の理解 １）腎不全 ２）ネフローゼ症候群 ３）糸球体腎炎 ４）その他

女性生殖器	7．女性生殖器疾患の基礎知識を述べられる。	1．医療の動向 2．患者の特徴 3．疾患の経過
	8．女性生殖器の構造と機能について述べられる。	1．女性生殖器の構造と機能
	9．女性生殖器疾患について述べられる。	1．症状とその病態生理 1）ショック 2）出血 3）帯下 4）疼痛 5）発熱 6）下腹部膨満・腫瘤感 7）外陰部掻痒感 8）排尿障害 9）自律神経症状・不定愁訴 10）リンパ浮腫 2．診察・検査と治療・処置 1）診察・検査 2）治療・処置 3．疾患の理解 1）性分化疾患 2）臓器別疾患 3）機能的疾患 4）感染症
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［6］　内分泌・代謝』医学書院 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［8］　腎・泌尿器』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［9］　女性生殖器』　医学書院 『系統看護学講座　専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進［2］　病態生理学』　医学書院	
評価方法	筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点		

科　　目	（２７）病態学Ⅳ	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	幸野　貴之、横山　和之			
ね ら い	病理学で学んだ知識を基に、代表的な疾患とその要因・原因、健康障害に伴う生体の変化、診断に必要な検査、治療法、予後についての基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	アレルギー、膠原病、感染症、感覚器疾患について理解する。			

単元名	学習目標	内　容
アレルギー	１．アレルギー疾患の基礎知識を述べられる。	１．医療の動向 ２．患者の特徴
	２．免疫のしくみとアレルギーについて述べられる。	１．免疫反応と疾患 ２．免疫担当細胞と伝達物質 ３．アレルギーのしくみ
	３．アレルギー疾患について述べられる。	１．検査と治療 １）検査と診断 ２）治療 ２．症状と疾患の理解 １）気管支喘息 ２）アレルギー性鼻炎・結膜炎 ３）食物アレルギー ４）アナフィラキシー ５）アトピー性皮膚炎 ６）蕁麻疹 ７）接触皮膚炎 ８）薬物アレルギー ９）その他
膠原病	４．膠原病の基礎知識を述べられる。	１．医療の動向 ２．患者の特徴
	５．膠原病について述べられる。	１．自己免疫疾患とその機序 １）免疫トレランス ２．症状とその病態生理 １）関節痛・関節炎 ２）レノイー現象 ３）その他 ３．検査と治療 １）検査 ２）治療 ４．疾患の理解 １）関節リウマチ ２）全身性エリテマトーテス ３）全身性強皮症 ４）その他

感染症	6．感染症の基礎知識を述べられる。	1．医療現場における感染症の問題
	7．感染症について述べられる。	1．感染症の病態生理 2．感染症に伴う症状 1）気道の症状 2）胸痛 3）腹痛 4）頭部に見られる症状 5）感染性心内膜炎 6）皮疹 7）筋・骨に見られる症状 8）発熱 9）不明熱 3．感染症の検査・診断 4．感染症の治療 5．疾患の理解 1）呼吸器感染症 2）消化管感染症 3）その他
感覚器	8．感覚器疾患について述べられる。	1．感覚器の構造と機能 2．検査・治療・処置 3．疾患（歯科・口腔疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患、眼疾患）の理解 4．症状と病態生理
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［11］ アレルギー　膠原病　感染症』医学書院 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［12］　皮膚』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［13］　眼』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［14］　耳鼻咽喉』医学書院 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学［15］　歯・口腔』医学書院 『系統看護学講座　専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進［2］　病態生理学』医学書院	
評価方法	筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点		

科　　目	（２８）治療論Ⅰ	２年 前期	１単位	15 時間
担当教員	中村 宅雄、青山　英史、田沼　徳真			
ね ら い	病態学で学んだ知識を基に内科的治療法の基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	運動療法、リハビリテーション療法、放射線療法、内視鏡治療について、基本的方法と主要な治療法を述べられる。			
単元名	学習目標	内　容		
運動療法	１．運動療法の目的、対象疾患、処方効果、副作用について基礎的知識を述べられる。	１．運動療法の目的・対象・副作用・処方・効果		
リハビリテーション療法	２．リハビリテーション療法の目的、種類と内容について基礎的知識を述べられる。	１．リハビリテーション療法の目的・種類と内容 ２．理学療法士の専門性について ３．多職種連携について		
放射線療法	３．放射線療法の目的、種類と内容、対象疾患、治療の実際、副作用について基礎的知識を述べられる。	１．放射線療法の目的・種類・対象疾患・治療の実際・副作用 ２．放射線技師の専門性について ３．多職種連携について		
内視鏡治療 低侵襲治療法	４．内視鏡治療について述べられる。	１．内視鏡治療の目的・止血手技 消化管静脈瘤治療・狭窄治療		
	５．腫瘍血管塞栓術・ラジオ波焼灼療法について基礎的知識を述べられる。	１．腫瘍血管塞栓術 ２．ラジオ波焼灼療法		
テキスト及び副教材	『新体系　看護学全書　別巻　治療法概説』　メヂカルフレンド社			
評価方法	筆記試験（100％）			
備考・履修上の留意点	国家試験出題基準に留意する。			

科　　目	（２９）治療論Ⅱ	２年 前期	１単位	15 時間
担当教員	松原　泉			
ね ら い	病態学で学んだ知識を基に、外科的治療法の基礎的知識を学ぶ			
到達目標	手術手技・処置、麻酔、手術室管理、術前・後の管理、外科的侵襲、感染症、生体損傷、救急医療、について述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
外科手術手技・処置	１．外科手術手技・処置の実際について述べられる。	１）手術の目的、術前処置、手術手技・処置の実際
麻酔の知識	２．麻酔について基礎的知識を述べられる。	１）麻酔の歴史・種類・方法の実際・麻酔事故・麻酔と看護
手術室の管理	３．手術室の管理について基礎的知識を述べられる。	１）手術室の運営・設備、手術準備、滅菌と消毒、手洗いとガウンテクニック、回復室
周術期管理と術後合併症の管理	４．術前、術後管理について基本的知識述べられる。	１）術前管理、術後管理、ICU での管理、術後合併症
外科的侵襲と生体の反応	５．外科的侵襲と生体反応、について基礎的知識を述べられる。	１）手術侵襲、生体反応、外科感染症、院内感染
救急医療とその実際	６．救急医療とその実際について基礎的知識を述べられる。	１）心肺蘇生、ショック、生体の損傷

テキスト及び副教材	『新体系　看護学全書　別巻　治療法概説』　メヂカルフレンド社
評価方法	筆記試験（100％）
備考・履修上の留意点	国家試験出題基準に留意する。

科　　目	（３０）微生物学	１年 前期	１単位	30 時間
担当教員	柴田　健一郎			
ね ら い	微生物の構造や感染戦略ならびに生体側の微生物の認識・排除機構を細胞・分子レベルで理解する。			
到達目標	微生物の種類、構造ならびに感染戦略を述べられる。 生体側の微生物の認識・排除機構を述べられる。 滅菌・消毒、化学療法ならびに感染症対策を述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
微生物と微生物学	１．細菌学、ウイルス学、化学療法等の歴史を述べられる	１）ルイ・パスツールやロバート・コッホの偉業
細菌の性質	２．細菌の種類、構造、増殖様式等を述べられる	１）グラム陽性球桿菌とグラム陰性球桿菌の構造や増殖様式
ウイルスの性質	３．ウイルスの種類、構造、増殖様式等を述べられる	１）インフルエンザウイルス、エイズウイルス、肝炎ウイルス等の構造と感染戦略
真菌の性質	４．真菌の種類、構造、増殖様式等を述べられる	１）菌糸状、酵母用形態、有性世代と無性世代
感染と感染症	５．細菌・ウイルス・真菌の感染戦略を述べられる	１）細菌・ウイルス・真菌の感染経路、定着因子、侵入因子、毒素等
感染に対する生体防御機構	６．自然免疫、獲得免疫ならびに粘膜免疫のしくみを述べられる	１）Toll 様受容体、食細胞、補体、NK 細胞、MHC 分子、T 細胞、B 細胞ならびに抗体の機能と抗原提示の機構
感染症の予防ならびに治療	７．滅菌法、消毒法、予防接種ならびに化学療法を述べられる	１）オートクレーブ滅菌、ろ過除菌、アルコール消毒等の方法と機構。β-ラクタム系、マクロライド系薬剤等の働き。MRSA、VRE などの薬剤耐性菌
主な細菌感染症	８．代表的なグラム陽性球桿菌、グラム陰性球桿菌、マイコプラズマ、リケッチアならびにクラミジア感染症の発症メカニズムを述べられる	１）化膿連鎖球菌、肺炎連鎖球菌、腸内細菌、抗酸菌、ピロリ菌等、マイコプラズマ、リケッチアならびにクラミジアの病原性と感染証
主なウイルス感染症	９．主なウイルス感染症の発症メカニズムを述べられる	１）HSV、HBV、HCV、HIV、インフルエンザウイルス等の病原性と感染証
主な真菌感染症	10．主な真菌感染症の発生メカニズムを述べられる	１）カンジダ、クリプトコッカス等

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進［4］ 微生物学』医学書院
評価方法	中間テストと修了時テストをそれぞれ 45 点とし、合わせて 90 点とする。また、2 回目以降の講義の冒頭に前回の講義内容で確認テストを行い、最終評価に 10 点満点として加算する。
備考・履修上の留意点	毎回の講義内容を理解するために、次の講義の冒頭に前回の講義内容で確認テストを行い、解説する。

科　　目	（３１） 臨床検査	１年 後期	１単位	15 時間
担当教員	林　純美			
ね ら い	臨床検査の意義や目的を理解し、検査データから患者の病態や治療の効果を判断するための基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	１．診療における臨床検査の役割を理解する。 ２．臨床検査の種類と目的を理解する。 ３．おもな臨床検査とその解釈について理解する。			
単元名	学習目標	内　容		
臨床検査の基礎	1. 臨床検査の役割について理解する 2. 臨床検査の種類について理解する。	１）臨床検査とは何か ２）診療における臨床検査の役割 ３）臨床検査の種類と目的 ①　一般検査 ②　血液検査（血液学的検査、化学検査、免疫・血清学的検査等） ③　生体検査（生理機能検査、画像検査、内視鏡検査）		
おもな臨床検査	1. 検体検査（一般検査・血液検査）の基準値を理解する。 2. 検体検査（一般検査・血液検査）の異常値と病態を関連付けて理解する。 3. 生体検査について理解する。 4. 画像検査と診断について理解する。	１）各種検査の基準値 尿検査・血液学的検査・化学検査・免疫血清学的検査、内分泌検査、微生物学的検査、病理学的検査 ２）主な血液検査・尿検査データの見方 ①　貧血 ②　低栄養 ③　心不全 ④　糖尿病 ⑤　慢性腎臓病 ⑥　肝硬変 ３）生体検査データの見方 ①　心電図検査 ②　呼吸機能検査 ４）主な画像検査の見方 ①　Ｘ線検査 ②　ＣＴ検査 ③　ＭＲＩ検査 ④　超音波検査		
事例から学ぶ臨床検査	1. 事例をとおして病態の理解に必要な知識を得る。	１）貧血低栄養状態の患者の事例 ２）糖尿病患者の事例 ３）慢性腎臓病患者の事例 ４）肝硬変患者の事例		
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　別巻　臨床検査』　医学書院 『看護学生のためのよくわかる BOOKs　看護学生のための臨床検査』 メヂカルフレンド社			
評価方法	筆記試験（100％）			
備考・履修上の留意点	各検査データを病態と関連付けて学び、看護過程や臨地実習に生かせるようにしてください。自身で調べる、考えるなど主体的に授業に参加しましょう。			

科　　目	（３２）総合医療論	１年 前期	１単位	15 時間
担当教員	小林　宣道、相馬　仁、山本　武志			
ね ら い	医療の全体像を理解する。 健康な生活を確保するための医学が果たす役割と課題、生活者が必要としている医療サービスを学ぶ。			
到達目標	・医療の意味としくみを理解したうえで、医療の問題点とこれからの医療について考えることができる。			

単元名	学習目標	内　容
医療と看護の原点	１．生命・死・健康・病・医療の根源的な意味を理解し、個人・家族・社会との関係で医療を述べられる	１）命について考える ２）健康とは ３）病の体験 ４）癒しの行為と癒しの知 ５）チーム医療とマネジメント
医療の歩みと医療観の変遷	２．医療の歴史と医療観の移り変わりについて述べられる	１）現代医学の起源 ２）わが国の医療がたどってきた道 ３）20 世紀の医療 ４）医療観の移り変わり
私たちの生活と健康	３．医療のしくみと保健・福祉行政について理解し、疾病予防・高齢社会・障害者・精神病の医療を考える。	１）医療の仕組み ２）保健、福祉行政 ３）疾病の一次予防と健康増進 ４）少子高齢化社会 ５）障害者のノーマライゼーションと社会的包摂 ６）心の健康と精神医療
科学技術の進歩と現代医療の最前線	４．先端医療の具体例を知ると同時に、その負の側面も述べられる	１）科学技術の進歩と社会・生活の変化 ２）現代医学と先端医療技術の最前線
現代医療の新たな課題	５．医療不信とインフォームドコンセントについて述べられる	１）医療不信から「賢い患者」へ ２）インフォームドコンセントと医療情報の開示 ３）医療情報の開示と診療録
医療を見直す新しい視点	６．現代医療を見直す新しい視点を述べられる	１）臨床疫学 ２）患者の安全 ３）医療の管理と評価 ４）先端医療開発 ５）情報化社会と医療

保健・医療・福祉の潮流	7．保健・医療・福祉のあり方や世界規模の環境・人権の問題について述べられる	1）新時代の保健・医療の担い手(チーム医療・チームケア) 2）医療におけるケアの視点 3）保健医療の国際化 4）地域包括ケアシステムの新しい展開 5）保健・医療・福祉システムと地域住民の役割
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　別巻　総合医療論』　　医学書院	
評価方法	筆記試験（100%）	
備考・履修上の留意点		

科　　目	（３３）公衆衛生学	３年 後期	１単位	30 時間
担当教員	若狭　はな			
ね ら い	健康の保持増進に携わる看護師の看護活動に活かすために必要な公衆衛生学の最低限の基礎知識を学ぶ。			
到達目標	公衆衛生の概念と基本的な内容を述べられる 集団の健康と環境との関連を述べられる。 さまざまな健康保健の内容を学び現状と課題を述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
公衆衛生とは	１．公衆衛生の概念と基本的な内容を述べられる	１．公衆衛生の定義 ２．公衆衛生の領域と活動の特徴 ３．健康の定義・予防の概念 ４．公衆衛生の歴史
健康と環境、疫学的方法	２．健康は環境要因を含めて、多くの要因で成り立っていることを述べられる	１．健康と環境 ２．集団の健康被害の理解
	３．疫学は、集団を対象に多要因を解析する重要な技法の一つである、その基本的な方法を学習する。	１．集団検診 ２．疫学研究技法
健康の指標	４．集団の健康水準を測定する尺度を述べられる	１．人口問題 ２．人口動態統計
感染症とその予防	５．感染症の成立要因と伝播様式を理解し、その発生予防やまん延防止の方策について述べられる	１．感染症とは ２．感染症の成立要因と流行 ３．感染症の動向と感染症法 ４．感染症予防の基本と対策 ５．主な感染症
食品保健と栄養	６．食生活の安全を確保するため、食中毒予防の知識技術と食品衛生の制度を理解する。	１．食品の安全 ２．食品衛生管理
生活環境の保全	７．現代の生活が環境に何をもたらし、人々の健康にどのように影響しているかを述べられる	１．地球環境の問題 ２．行政と法 ３．飲料水の安全・排水 ４．大気汚染 ５．環境ホルモン ６．公害・ごみ・放射性廃棄物
医療制度と地域保健活動	８．国民の健康を守るための法や制度を述べられる	１．医療保障・医療保険 ２．高齢者医療制度 ３．国民医療費 ４．地域保健法
母子保健	９．少子化が急激に進行するなかで、わが国の母子保健の現状と今後の方向について述べられる	１．歴史的経過 ２．死亡率 ３．母子保健事業

学校保健	10．学校保健の内容とわが国の保健対策の中でどのような位置にあるのかを述べられる	１．学校衛生の歴史 ２．保健教育
産業保健	11．産業保健と働く人々を支える仕組みを述べられる	１．労働環境と健康 ２．労働衛生管理 ３．職業病の予防と対策
生活習慣病と難病	12．わが国最大の死因である生活習慣病の現状と対策を学ぶ。難病は原因が不明であり医療機関だけでなく、地域全体で支えていくことが重要であることを述べられる	１．生活習慣病対策 ２．老人保健 ３．健康日本２１と健康増進法 ４．医療施設の整備と医療費負担の軽減
ヘルスプロモーション	13．健康教育とヘルスプロモーションの概念や、その取り組みについて述べられる	１．健康教育とその方法 ２．ヘルスプロモーションとその方法
まとめ		
テキスト及び副教材	「わかりやすい公衆衛生学」　　ヌーヴェルヒロカワ（紙書籍） 「国民衛生の動向」　　一般財団法人厚生労働統計協会	
評価方法	参加態度（10%），筆記試験（90%） （参加態度は問題があると判断された場合にのみ減点する）	
備考・履修上の留意点	授業中に質疑応答の時間をとるので、分からないことがあれば質問をすること。	

科　　目	（３４）口腔保健	２年 前期	１単位	15 時間
担当教員	山崎　裕、中村　麻希			
ね ら い	近年、わが国では、人口の急速な高齢化に伴い、疾病構造が変化し、それに対応した良質な保健医療サービスが求められるようになりました。口腔の健康管理に対する国民の関心は年々高まってきており、口腔の健康管理に従事する看護師の果たす役割は今後ますます重要になると考えられます。口腔保健では、看護学生がこれから歯科医学や歯科臨床を学習するために必要な基礎知識について述べます。			
到達目標	１）歯科医療の概要を理解できる。 ２）歯科医学や歯科臨床の基礎的知識を習得できる。 ３）ライフサイクルに沿って口腔保健の意義と実際を理解できる。 ４）歯科臨床における看護師の果たす役割を理解できる。			
単元名	学習目標	内　容		
歯科医療の動向と看護	１．最近の医療の動向をふまえ、歯科・口腔疾患患者がかかえているさまざまな身体的問題および心理・社会的問題を通して患者を理解する。	１）医療の動向と看護 ２）患者の特徴 ３）看護の役割		
歯・口腔の構造と機能	２．歯・口腔の構造と機能について学び、歯科・口腔疾患との関係を理解する。	１）口腔（歯および歯周組織） ２）口腔周囲（粘膜） ３）顎骨・顎関節 ４）口腔顎顔面の筋 ５）唾液腺		
口腔症状とその病態生理	３．歯科・口腔疾患に伴うおもな障害の症状と発生機序および病態生理を理解する。	１）口腔症状 ２）顎口腔機能障害		
検査と治療・処置	４．歯科・口腔疾患の診察・診断・治療の概要を理解し、看護に必要な知識を習得する。	１）診療と診断の流れ ２）検査 ３）治療・処置		
口腔疾患の理解	５．おもな歯科・口腔疾患の病態生理を理解し、看護を行う上で必要な基本知識を習得する。	１）歯の異常と疾患 ２）顎口腔の疾患		
歯科患者の看護	６．歯・口腔領域におけるさまざまな障害の特徴をふまえ、患者に対する看護の実際を学習する。	１）歯・口腔症状に対する看護 ２）治療・処置を受ける患者の看護 ３）全身疾患を持つ患者の口腔ケア		
口腔ケア 口腔保健の意義	７．口腔ケアの目的・意義を理解し、看護に必要な知識を習得する。	１）口腔ケアとは ２）発達段階の応じた歯の健康とケアの意義 （※ 歯科衛生士学校演習） ３）歯科衛生士の役割 ４）多職種連携について		
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　歯・口腔　成人看護学[15]』　医学書院			
評価方法	筆記試験（100%）			
備考・履修上の留意点	わからないことは授業中に解決するようにしてください。そのためには積極的に質問することが大切です。 口腔清掃法や歯のブラッシング法を、歯科衛生士専門学校の歯科保健指導の演習で学びます。			

科　　目	（３５）関係法規	３年 後期	１単位	30 時間
担当教員	田所　亮一、川﨑　恵子、波間　由紀子、筒井　智子			
ね ら い	関係法規は、わが国の保健・医療・福祉に関する制度の概要を理解し、人々の健康を護る看護師に必要となる法律の基本的事項を理解することをねらいとします。 また、生活者として必要な法律の基本的事項を理解することも、科目のねらいとします。			
到達目標	１．法の概念を理解する。 ２．看護職が果たすべき法的責任について理解する。 ３．医事関連法規、および看護職の業務に関連する法規、諸制度を理解する。 ４．保健衛生法規を理解する。 ５．福祉関連法規を理解する。 ６．社会保険関連法規を理解する。 ７．労働関連法規を理解する。 ８．環境衛生関連法規を理解する。 ９．医療事故が生じたときの、看護師の３つの法的責任について説明することができる。			

単元名	学習目標	内　容
医療従事者が知っておくべき法の基礎	１．法の概念を理解する。 ２．衛生法の概念を理解する。	１．法の概念 ２．衛生法 ３．厚生労働行政の仕組み
看護法	３．看護関連法規の要点を理解する。	１．保健師助産師看護師法 ２．看護師等の人材確保の促進に関する法律
医事法	４．医療法の要点を述べることができる。 ５．各医療関連資格法（身分法）の要点を理解する。	１．医療法 ２．医療関連資格法 １）医師法 ２）歯科医師法 ３）薬剤師法 ４）医療関連資格法 ５）保健衛生福祉資格法
	６．医療を支える法の重要性を理解する。	３．医療を支える法 １）医療・介護の提供体制に関する法 ２）移植医療に関する法 ３）人の死に関する法
保健（公衆）衛生法	７．各保健衛生法の概要を理解する。	１．共通保健法 １）地域保健法 ２）健康増進法 ２．分野別保健法 １）精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ２）母子保健法 ３）母体保護法 ４）学校保健安全法 ５）がん対策基本法 ６）肝炎対策基本法 ７）自殺対策基本法 ８）難病の患者に対する医療等に関する法律

		３．感染症に関する法 １）感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 ２）予防接種法 ３）検疫法 ４．食品に関する法 １）食品安全基本法 ２）食品衛生法 ３）食品表示法
薬務法	８．薬務に関する法の概要を理解する。	１．医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(旧薬事法) ２．人などの組織を用いた医療関連法 ３．麻薬・毒薬等に関する法
社会福祉に関する法律	９．社会福祉に関する各法律の概要を理解する。	１．福祉の基盤 １）社会福祉法 ２）生活保護法 ３）福祉の共通的事項に関する法 ２．分野別福祉法 １）児童分野 （１）児童福祉法 （２）個別的な児童法 ２）高齢分野 （１）老人福祉法 （２）個別的な高齢者法 ３）障害分野 （１）障害者基本法 （２）障害者総合支援法 （３）個別的な障害者法
社会保険法	10．社会保険に関する各法律の概要を理解する。	１．費用保障 １）健康保険法 ２）国民健康保険法 ３）高齢者の医療の確保に関する法律 ４）介護保険法 ２．年金 １）国民年金法 ２）厚生年金保険法 ３．労働に関わる社会保険法 １）労働者災害補償保険法 ２）雇用保険法
労働法と社会基盤整備	11．労働に関する各法律の概要を理解する。	１．労働法 １）労働基準法 ２）労働安全衛生法 ３）育児介護休業法 ４）適正な労働の確保に関する法
	12．社会基盤整備に関する各法の要点を理解する。	２．社会基盤性に関する法律 １）男女共同参画社会基本法 ２）次世代育成支援推進法 ３）少子化対策基本法 ４）配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に課する法律 ５）個人情報の保護に関する法律

環境法と環境衛生法	13．環境法と環境衛生法の概要を理解する。	１．環境法 １）環境保全の基本法 ２）公害防止に関する法律 ２．環境衛生に関する法律
医療過誤と看護師の法的責任	14．医療事故が生じたときの看護師の法的責任について理解する。	１．医療事故とは ２．看護師の法的責任 １）民事上の責任 ２）刑事上の責任 ３）行政上の責任
保健統計	15．法律に基づく保健統計の概要と我が国の現状を理解する。	１．統計法に基づく保健統計 １）人口動態調査 ２）人口静態調査（国勢調査） ３）国民生活基礎調査 ４）患者調査 ５）学校保健統計調査 ２．健康増進法に基づく保健統計 １）国民健康・栄養調査
テキスト及び副教材	【教科書】 『系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度［4］看護関係法令』　医学書院 【参考書】 『系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度［3］社会保障・社会福祉』　医学書院 上記の他、講義の各回で参考資料を配布する。	
評価方法	・筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点	・「関係法規」や「法律」と聞くと、難解なイメージを抱く学生が多いと思います。しかし、法律は私たちの生活と切り離すことのできない重要なものです。さらに看護師として業務を行う上でも非常に重要なものとなります。看護職者として法律を学ぶことの意義・目的を理解し、主体的に学習してください。 ・授業にはアクティブ・ラーニングを取り入れます。授業への積極的な参加を求めます。	

科　　目	（３６）社会福祉	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	杉岡　直人			
ね ら い	社会福祉と社会保障制度について看護専門職に関連させた講義を行う。			
到達目標	医療サービス利用者とその家族を支援する機会のある看護専門職に求められる医療保障・社会保障および社会福祉サービスの利用について理解を深め、社会福祉専門職との効果的な連携を図ることができるようにすることを目標とする。			

単元名	学習目標	内　容
社会福祉の歴史	１．社会保障と社会福祉の歴史を英国と日本の歴史的展開を概観する。	１.社会福祉の歴史の見方 ２.英国社会福祉の歴史区分 ３.英国社会保障の確立と転回 ４.日本の社会福祉の歴史 ５.自助と慈善そして防貧 ６.社会保障の確立と社会福祉 ７.自助と自己責任：国家の役割縮小
社会保障制度と社会福祉	２．社会保障の概念・目的・機能・体系と社会福祉の制度と組織および実施体制の枠組みを学習する。	１．社会保障制度 ２．社会福祉の法制度
現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	３．現在社会の変化を人口・家族・雇用・地域社会の変化を取り上げ学習する。	１．現代社会の変化 （人口、地域社会、家族・個人、経済、雇用状況）
	４．社会保障・社会福祉の動向と社会福祉サービスの総合化について学ぶ。	１.社会保障制度・保健医療・社会福祉の動向
医療保障	５．医療保険制度と健康保険および高齢者医療制度のしくみを学ぶ。	１．医療保険制度の沿革 ２．医療保障制度の構造と体系 ３．健康保険と国民健康保険 ４．高齢者医療制度
	６．保険診療のしくみ・公費負担医療や国民医療費の現状と課題について理解を深める。	１．保険診療のしくみ ２．公費負担医療 ３．国民医療費
介護保障	７．介護保険制度の歴史と概要を学ぶ。知る。	１．介護保険制度創設の背景と歴史 ２．介護保障制度の概要
	８．介護保険制度の見直しと課題を学習する。	３．介護保険制度の課題と展望
所得保障	９．所得保障制度のしくみと年金制度および社会手当と労働保険制度について学ぶ。	１．所得保障制度のしくみ ２．年金保険制度 ３．社会手当 ４．労働保険制度
公的扶助	10．貧困低所得問題と公的扶助制度の現状とあり方について学ぶ。	１．貧困・低所得問題と公的扶助制度 ２．生活保護制度のしくみ ３．低所得者対策 ４．近年の動向

社会福祉の分野とサービス	11. 高齢者福祉と障害者福祉の制度の現状と課題を考える。	1.高齢者福祉 1）高齢者の状況 2）高齢者福祉の施策 3）老人保健事業 2.障害者福祉 （障害者の定義と実態、障害者福祉の理念、障害者福祉制度の変遷、新たな法体系の整備）
	12. 障害者福祉と児童福祉の制度の現状を考える。	3. 障害者福祉の関連施策
	13. 児童家庭福祉の制度の現状と課題を考える。	4.児童家庭福祉、 （児童と育ちの環境としての家庭生活の現状、児童にかかわる法と施策、少子化対策と子育て支援、児童虐待対策、子どもの人権と貧困対策）
社会福祉実践と医療・看護	14. ケースワーク・グループワーク・間接援助技術および社会福祉援助の課題について学ぶ。	1. 社会福祉援助とは 2. ケースワーク 3. グループワーク 4. 間接援助技術と関連援助技 5. 社会福祉援助の検討課題
	15. 社会福祉実践と医療と看護との連携の実際と方法について考える。	1. 連携の重要性 2. 社会福祉実践と医療・看護との連携 3. 連携の場面とその方法
テキスト及び副教材	テキスト「系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度[3]」 社会保障・社会福祉（第18版）　医学書院	
評価方法	筆記試験100%（講義内容にかかわるミニテスト含む）	
備考・履修上の留意点	社会福祉・医療・介護関係の新聞記事および厚労省のHP（http://www.mhlw.go.jp/）に目を通し、幅広く制度政策の動向を学習すること。 DVD等の活用を図る。	

科　　目	（３７）生命倫理	３年 後期	１単位	15 時間
担当教員	猪ノ原　次郎、井平　圭			
ね ら い	３年間の臨地実習の体験を基に、現代の医療および看護の直面する倫理的問題について、関連する歴史や基本概念をふまえて考察できるようになる。			
到達目標	・生命倫理が生まれた歴史的経緯を述べられる。 ・現代の医療および看護の直面する倫理的問題の概要を述べられる。 ・生命倫理の基本概念を各種問題に適用して考察する方法を述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
生命倫理の歴史と日本への導入	１．生命倫理（バイオエシックス）の誕生の背景を述べられる ２．古代から現代に至る医療倫理の変遷を述べられる。	１.古代の医療倫理 ２.中世から近代 ３.現代の生命・医療倫理
インフォームド・コンセントを巡って	３．インフォームド・コンセント（IC）を通じて患者の権利を学述べられる。	１.IC の確立 ２.IC の内容と問題点 ３.IC の事例研究
患者の自己決定と自立を巡って	４．難病患者と要介護高齢者の問題を通じて患者の自己決定や自立をめぐる諸問題について述べられる。	１.難病患者を巡る倫理的問題 ２.要介護高齢者を巡る倫理的問題 ３.自己決定と自立
バイオエシックスの諸問題	５出生前診断と選択的妊娠中絶について述べられる。	１.問題の背景 ２.さまざまな立場の代表的見解 ３.リプロダクティブライツ
	６．生殖医療技術の発達とその問題点について述べられる。	１.体外・人工授精 ２.代理母 ３.胚を使っての研究
	７．終末期医療（緩和ケア・ホスピスケア）を巡る倫理的問題を述べられる。	１.緩和ケアの内容 ２.緩和ケアの重要性と在宅ケア
	８．安楽死・尊厳死を巡る倫理的問題を述べられる。	１.安楽死と尊厳死の違い ２.安楽死・尊厳死の種類 ３.尊厳死への対応

テキスト及び副教材	『はじめて出会う生命倫理』　有斐閣アルマ（紙書籍） 『看護のための生命倫理　改訂三版』　ナカニシヤ出版（紙書籍）
評価方法	筆記試験（100％）
備考・履修上の留意点	

３）専門分野

「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と実践」

専門分野は、看護学の各専門領域の基礎となる「基礎看護学」を基盤として「地域・看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合」から構成されており、各看護学の理論と実践について学修する。

「基礎看護学」では、看護学概論、看護倫理、基礎看護学方法論、臨地実習の4つの柱から科目構成を設定されている。

「看護学概論」では、ナイチンゲールの看護論を基盤に看護全般の概念を捉え、看護の位置づけと役割の重要性や看護実践や看護実践における倫理基本について学ぶ。

「看護倫理」では、看護者としての倫理的行動の基本を学ぶ。

「基礎看護学方法論」では基本的な看護技術とヘンダーソン理論を用いて看護過程の展開等を学び、さらにこれら学内での学習を基に、臨地実習で看護実践の基礎を学ぶ。

「地域・在宅看護論」は、概論、方法論、臨地実習の３つから構成されており、地域で生活する人々とその家族を理解し地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ。

「地域・在宅看護概論Ⅰ・Ⅱ」では、地域の特性や地域コミュニティや社会資源、在宅療養を支えるための看護師の役割について学ぶ。

「地域・在宅看護方法論」では、在宅療養者の健康状態に応じた看護展開、在宅生活を支える看護技術、家族を看護の対象と捉え家族看護について学ぶ。

さらに、これらの学内での学修を基に、臨地実習では看護実践の基礎を学ぶ。

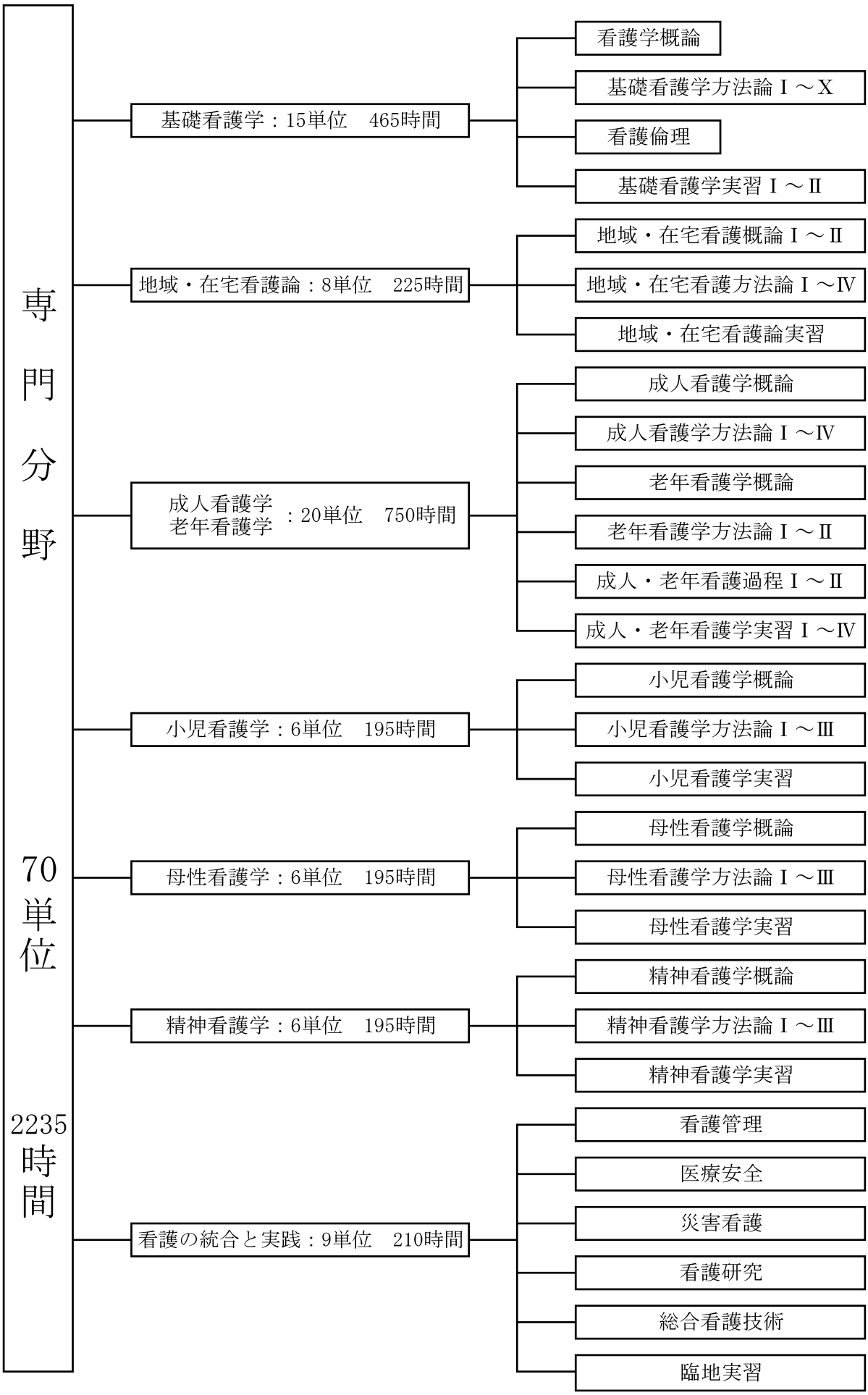
「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」の各専門領域の概論、方法論と実習の３つから構成されている。

概論・方法論では、各専門看護学の立場から、ライフステージと発達課題、身体的、心理的、社会的特徴を学修し、看護実践の方法を学ぶ。

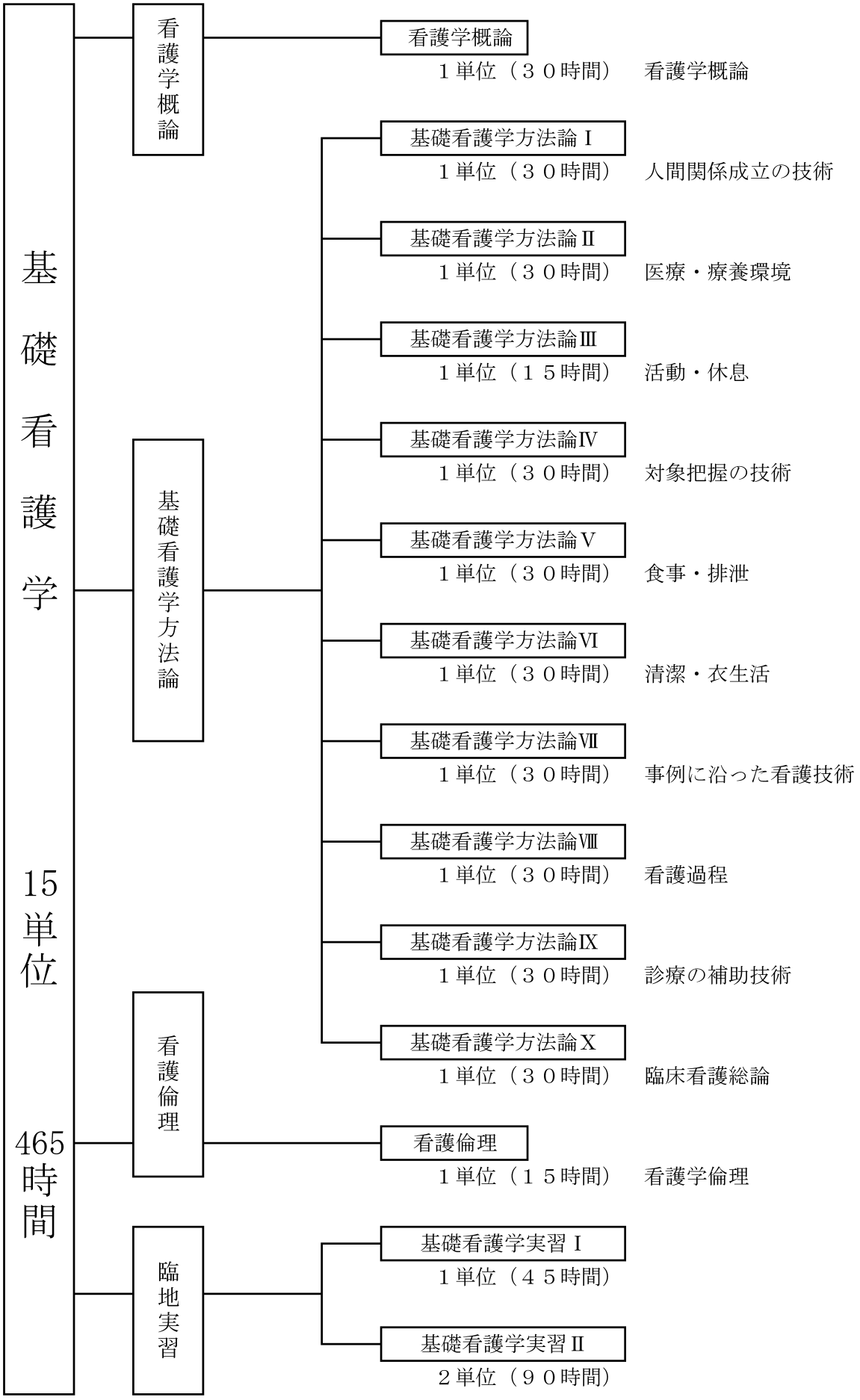
臨地実習では、各概論・方法論での学修を基に看護対象者等の特徴を理解し、看護過程の展開をとおし看護実践能力の基本を学修する。

「看護の統合と実践」では看護管理、医療安全、災害看護、看護研究、総合看護技術、看護の統合臨地実習から構成されている。既修の知識・技術・態度を統合し看護実践力を高める。また、これまでの臨地実習の経験から選択した事例を基に、看護研究の一連のプロセスを通し根拠に基づく看護実践を学修する。

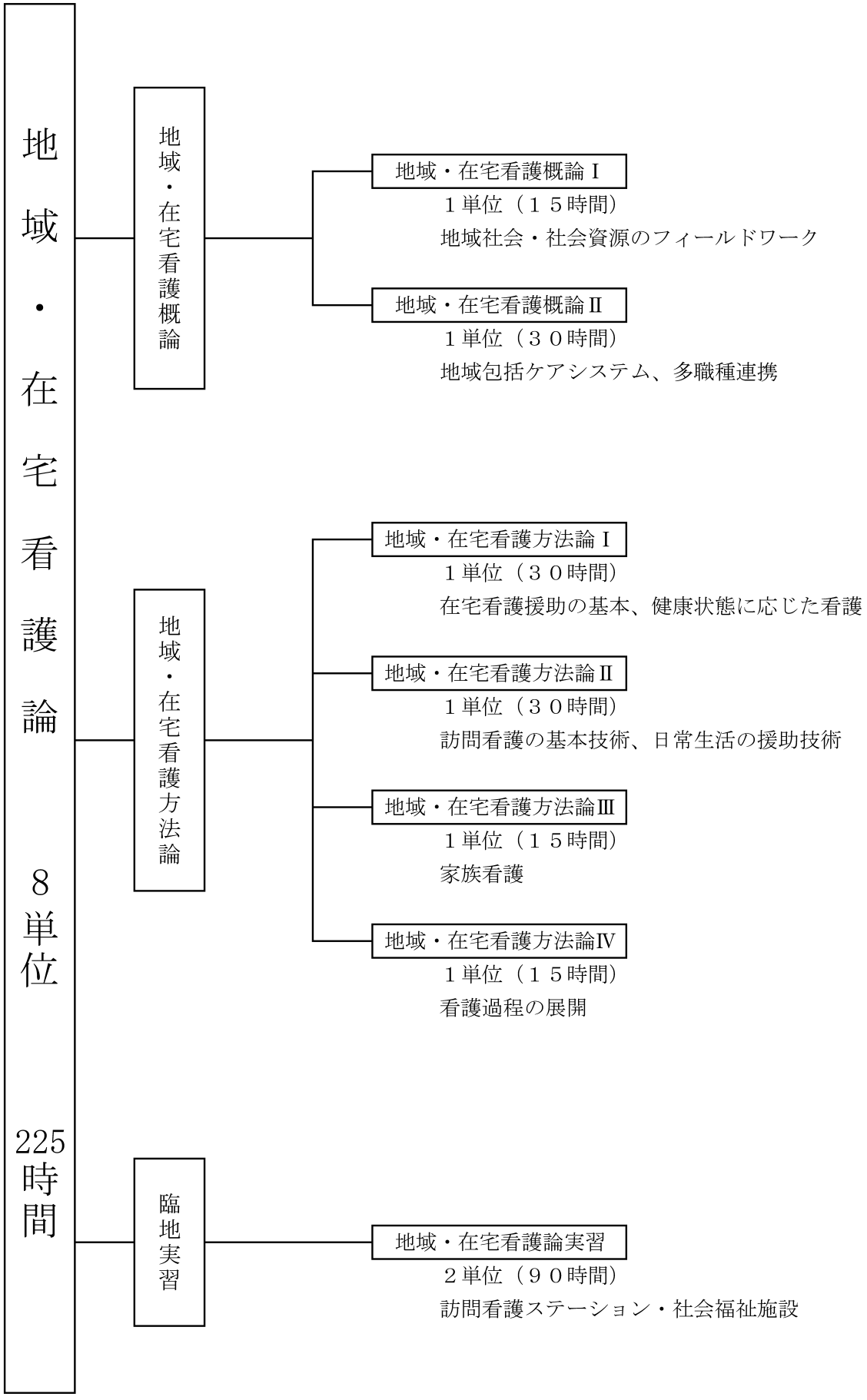
＜専門分野の構成科目＞


専門分野
70単位
2235時間
基礎看護学：15単位　465時間
看護学概論
基礎看護学方法論Ⅰ～X
看護倫理
基礎看護学実習Ⅰ～Ⅱ
地域・在宅看護論：8単位　225時間
地域・在宅看護概論Ⅰ～Ⅱ
地域・在宅看護方法論Ⅰ～Ⅳ
地域・在宅看護論実習
成人看護学
老年看護学　：20単位　750時間
成人看護学概論
成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ
老年看護学概論
老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱ
成人・老年看護過程Ⅰ～Ⅱ
成人・老年看護学実習Ⅰ～Ⅳ
小児看護学：6単位　195時間
小児看護学概論
小児看護学方法論Ⅰ～Ⅲ
小児看護学実習
母性看護学：6単位　195時間
母性看護学概論
母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲ
母性看護学実習
精神看護学：6単位　195時間
精神看護学概論
精神看護学方法論Ⅰ～Ⅲ
精神看護学実習
看護の統合と実践：9単位　210時間
看護管理
医療安全
災害看護
看護研究
総合看護技術
臨地実習

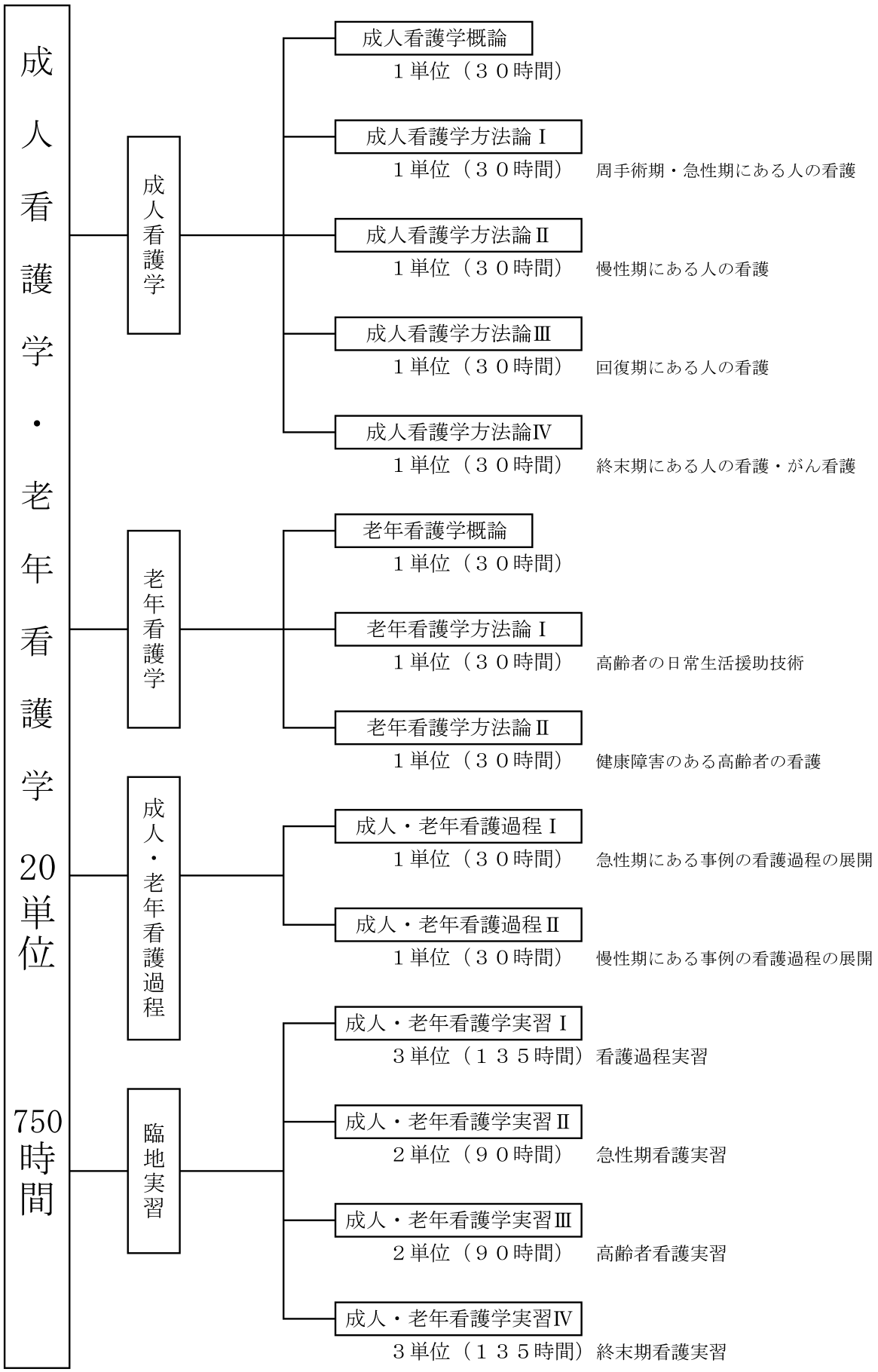
＜専門分野の構成科目＞


基礎看護学
15単位
465時間
看護学概論
基礎看護学方法論
看護倫理
臨地実習
看護学概論
１単位（３０時間）　看護学概論
基礎看護学方法論Ⅰ
１単位（３０時間）　人間関係成立の技術
基礎看護学方法論Ⅱ
１単位（３０時間）　医療・療養環境
基礎看護学方法論Ⅲ
１単位（１５時間）　活動・休息
基礎看護学方法論Ⅳ
１単位（３０時間）　対象把握の技術
基礎看護学方法論Ⅴ
１単位（３０時間）　食事・排泄
基礎看護学方法論Ⅵ
１単位（３０時間）　清潔・衣生活
基礎看護学方法論Ⅶ
１単位（３０時間）　事例に沿った看護技術
基礎看護学方法論Ⅷ
１単位（３０時間）　看護過程
基礎看護学方法論Ⅸ
１単位（３０時間）　診療の補助技術
基礎看護学方法論Ⅹ
１単位（３０時間）　臨床看護総論
看護倫理
１単位（１５時間）　看護学倫理
基礎看護学実習Ⅰ
１単位（４５時間）
基礎看護学実習Ⅱ
２単位（９０時間）

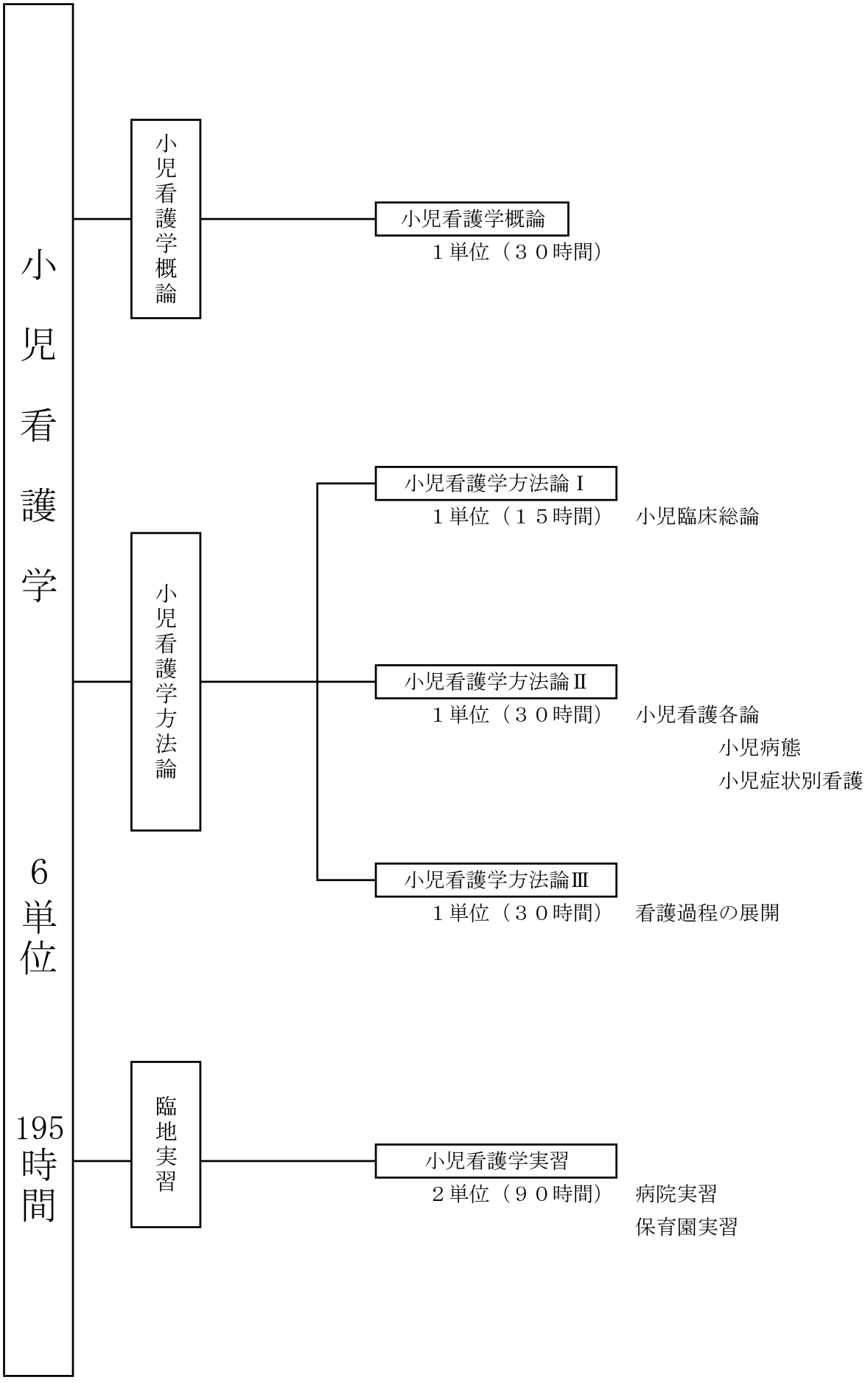
＜専門分野の構成科目＞


地域・在宅看護論
8単位
225時間
地域・在宅看護概論
地域・在宅看護概論Ⅰ
１単位（１５時間）
地域社会・社会資源のフィールドワーク
地域・在宅看護概論Ⅱ
１単位（３０時間）
地域包括ケアシステム、多職種連携
地域・在宅看護方法論
地域・在宅看護方法論Ⅰ
１単位（３０時間）
在宅看護援助の基本、健康状態に応じた看護
地域・在宅看護方法論Ⅱ
１単位（３０時間）
訪問看護の基本技術、日常生活の援助技術
地域・在宅看護方法論Ⅲ
１単位（１５時間）
家族看護
地域・在宅看護方法論Ⅳ
１単位（１５時間）
看護過程の展開
臨地実習
地域・在宅看護論実習
２単位（９０時間）
訪問看護ステーション・社会福祉施設

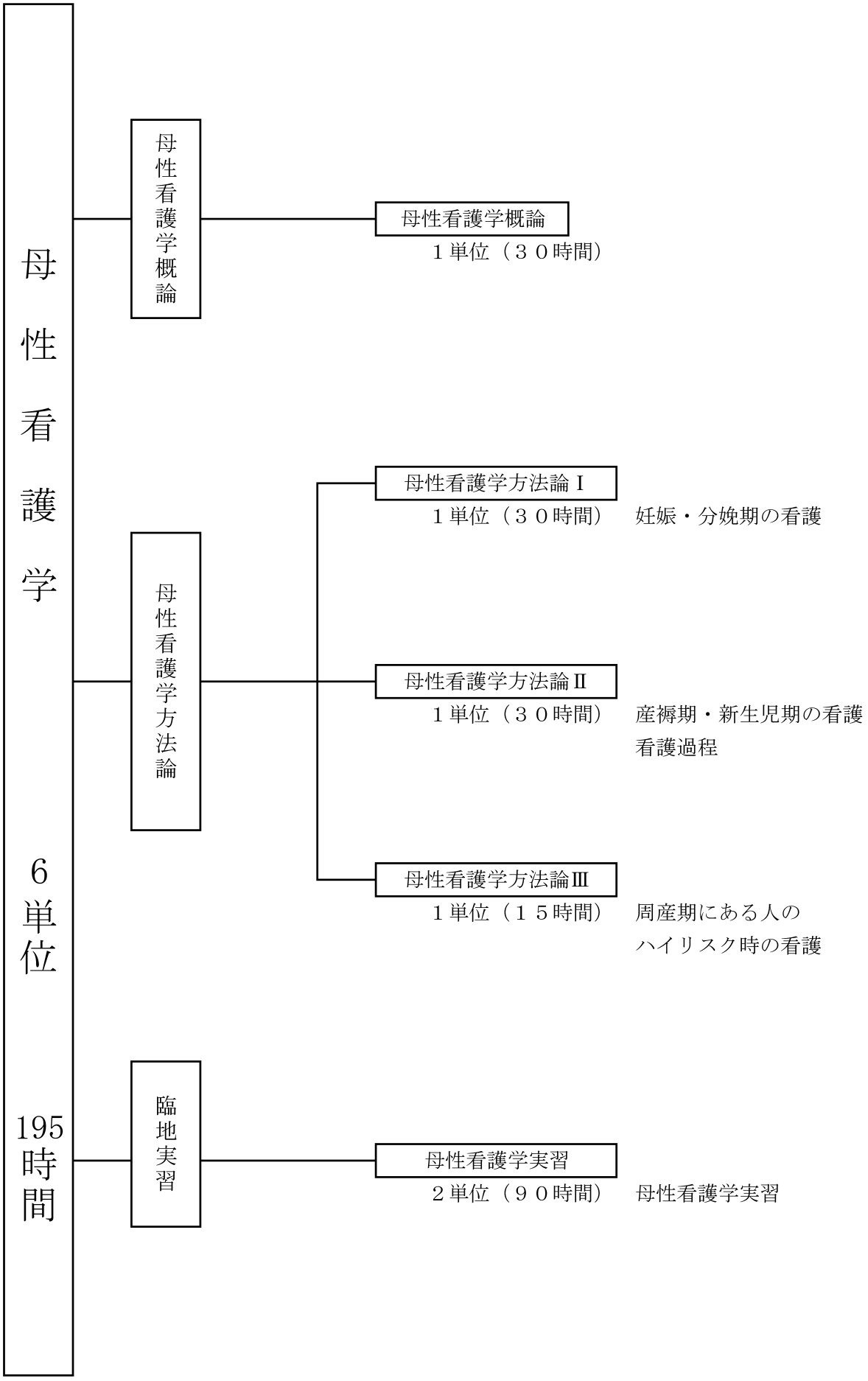
＜専門分野の構成科目＞


成人看護学・老年看護学 20単位 750時間
成人看護学
成人看護学概論
1単位（30時間）
成人看護学方法論Ⅰ
1単位（30時間）
周手術期・急性期にある人の看護
成人看護学方法論Ⅱ
1単位（30時間）
慢性期にある人の看護
成人看護学方法論Ⅲ
1単位（30時間）
回復期にある人の看護
成人看護学方法論Ⅳ
1単位（30時間）
終末期にある人の看護・がん看護
老年看護学
老年看護学概論
1単位（30時間）
老年看護学方法論Ⅰ
1単位（30時間）
高齢者の日常生活援助技術
老年看護学方法論Ⅱ
1単位（30時間）
健康障害のある高齢者の看護
成人・老年看護過程
成人・老年看護過程Ⅰ
1単位（30時間）
急性期にある事例の看護過程の展開
成人・老年看護過程Ⅱ
1単位（30時間）
慢性期にある事例の看護過程の展開
臨地実習
成人・老年看護学実習Ⅰ
3単位（135時間）
看護過程実習
成人・老年看護学実習Ⅱ
2単位（90時間）
急性期看護実習
成人・老年看護学実習Ⅲ
2単位（90時間）
高齢者看護実習
成人・老年看護学実習Ⅳ
3単位（135時間）
終末期看護実習

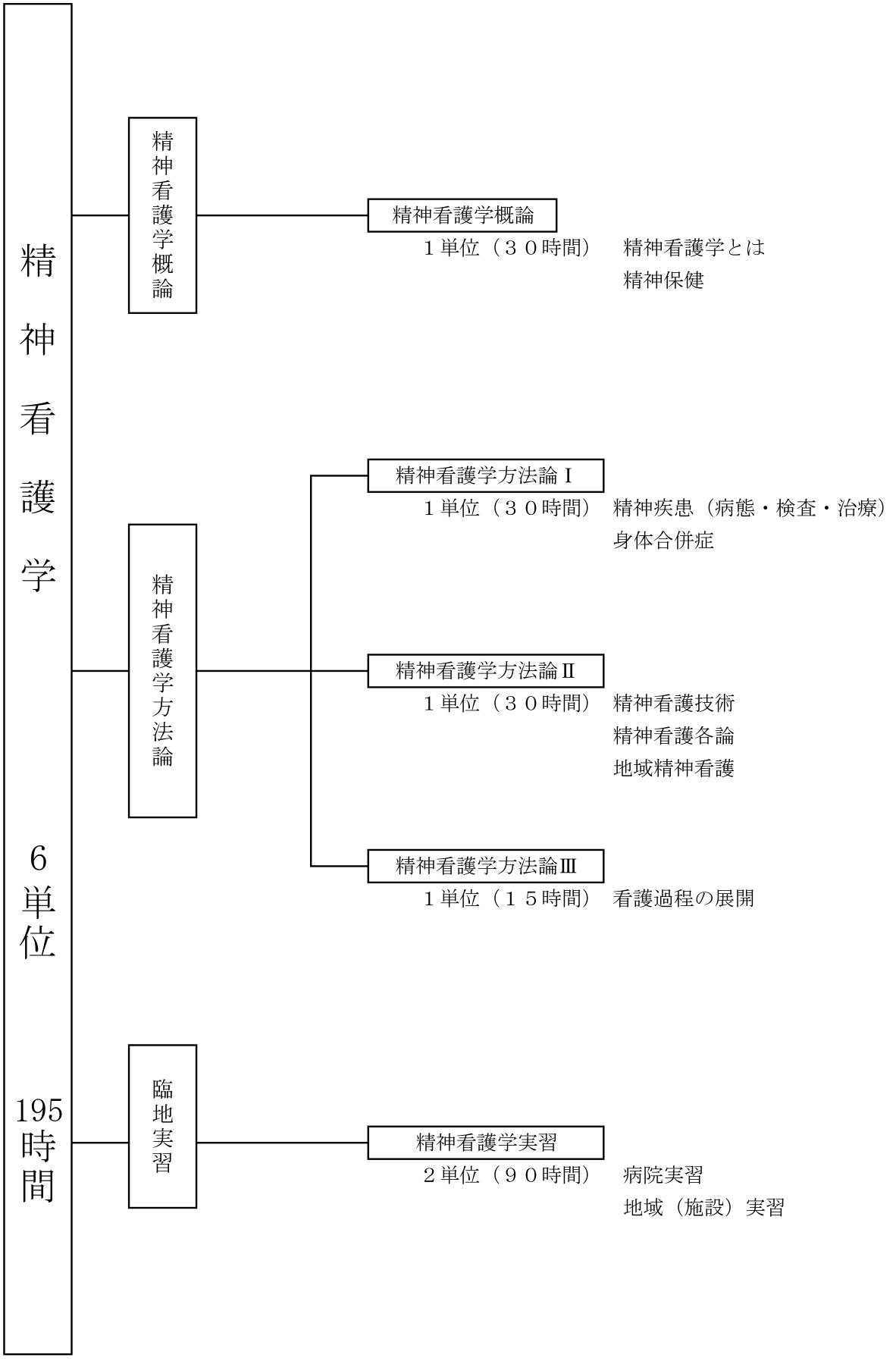
＜専門分野の構成科目＞


小児看護学
6単位
195時間
小児看護学概論
小児看護学概論
1単位（３０時間）
小児看護学方法論
小児看護学方法論Ⅰ
1単位（１５時間）
小児臨床総論
小児看護学方法論Ⅱ
1単位（３０時間）
小児看護各論
小児病態
小児症状別看護
小児看護学方法論Ⅲ
1単位（３０時間）
看護過程の展開
臨地実習
小児看護学実習
2単位（９０時間）
病院実習
保育園実習

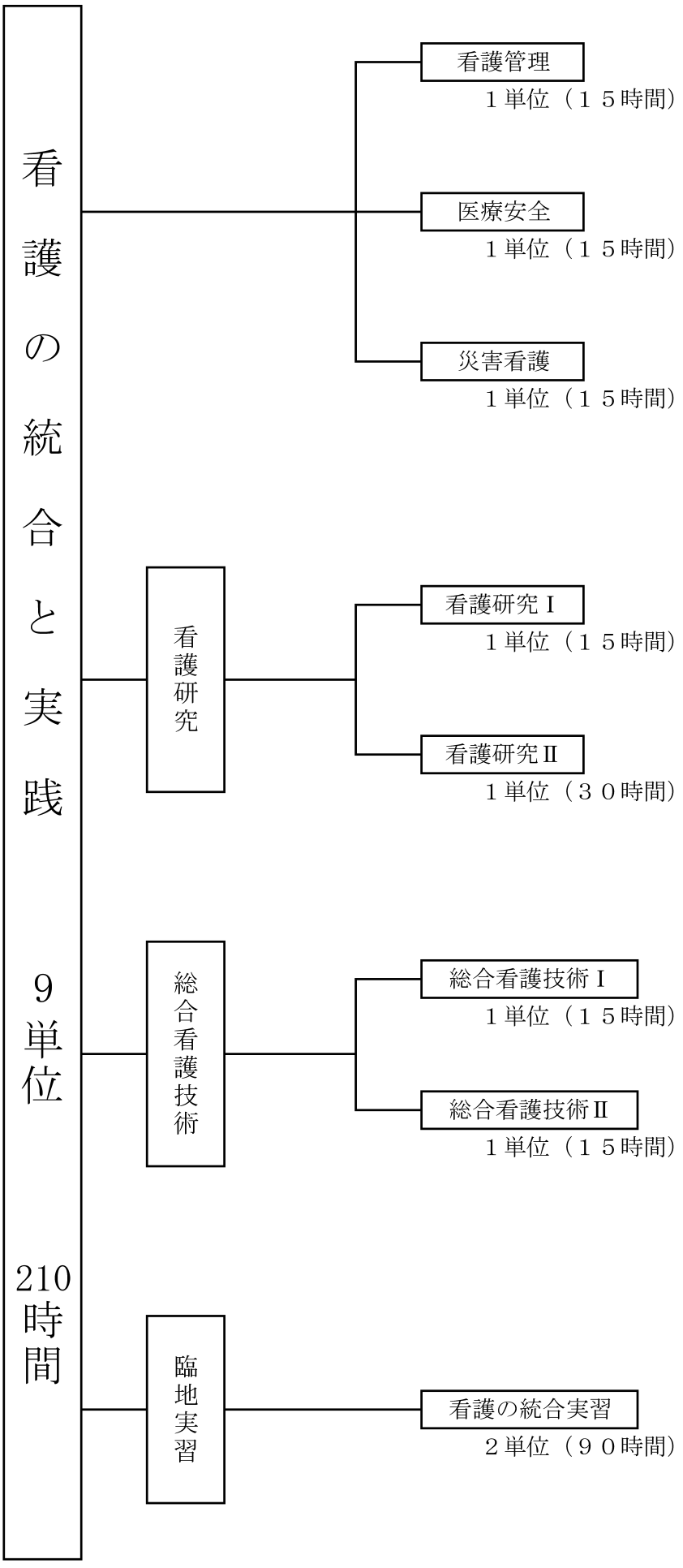
＜専門分野の構成科目＞


母性看護学
6単位
195時間
母性看護学概論
母性看護学概論
1単位（３０時間）
母性看護学方法論
母性看護学方法論Ⅰ
1単位（３０時間）
妊娠・分娩期の看護
母性看護学方法論Ⅱ
1単位（３０時間）
産褥期・新生児期の看護
看護過程
母性看護学方法論Ⅲ
1単位（１５時間）
周産期にある人の
ハイリスク時の看護
臨地実習
母性看護学実習
2単位（９０時間）
母性看護学実習

＜専門分野の構成科目＞


精神看護学
6単位
195時間
精神看護学概論
精神看護学概論
１単位（３０時間）
精神看護学とは
精神保健
精神看護学方法論
精神看護学方法論Ⅰ
１単位（３０時間）
精神疾患（病態・検査・治療）
身体合併症
精神看護学方法論Ⅱ
１単位（３０時間）
精神看護技術
精神看護各論
地域精神看護
精神看護学方法論Ⅲ
１単位（１５時間）
看護過程の展開
臨地実習
精神看護学実習
２単位（９０時間）
病院実習
地域（施設）実習

＜専門分野の構成科目＞


看護の統合と実践
9単位
210時間
看護管理
1単位（15時間）
医療安全
1単位（15時間）
災害看護
1単位（15時間）
看護研究
看護研究Ⅰ
1単位（15時間）
看護研究Ⅱ
1単位（30時間）
総合看護技術
総合看護技術Ⅰ
1単位（15時間）
総合看護技術Ⅱ
1単位（15時間）
臨地実習
看護の統合実習
2単位（90時間）

専門分野　実務経験のある教員（専任教員）による授業科目

科目	閲覧ページ	担当教員		実務経験と担当科目との関係
		実務経験の有無	専任教員資格の有無　注）	
基礎看護学方法論Ⅰ	78ページ	有	有	実務経験を生かし科目のねらいと到達目標に沿った教育を行う
基礎看護学方法論Ⅱ	79ページ	有	有	同上
基礎看護学方法論Ⅲ	81ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅳ	82ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅴ	84ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅵ	85ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅶ	86ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅷ	87ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅸ	88ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅹ	90ページ	有	有	〃
看護倫理	92ページ	有	有	〃
地域・在宅看護概論Ⅰ	93ページ	有	有	〃
地域・在宅看護概論Ⅱ	94ページ	有	有	〃
地域・在宅看護方法論Ⅰ	96ページ	有	有	〃
地域・在宅看護方法論Ⅱ	98ページ	有	有	〃
地域・在宅看護方法論Ⅲ	100ページ	有	有	〃
地域・在宅看護方法論Ⅳ	102ページ	有	有	〃
成人看護学概論	103ページ	有	有	〃
成人看護学方法論Ⅰ	104ページ	有	有	〃
成人看護学方法論Ⅱ	105ページ	有	有	〃
成人看護学方法論Ⅲ	106ページ	有	有	〃

科目	閲覧ページ	担当教員		実務経験と担当科目との関係
		実務経験の有無	専任教員資格の有無　注)	
老年看護学概論	110ページ	有	有	実務経験を生かし科目のねらいと到達目標に沿った教育を行う
老年看護学方法論Ⅰ	111ページ	有	有	同上
成人・老年看護過程Ⅰ	114ページ	有	有	〃
成人・老年看護過程Ⅱ	115ページ	有	有	〃
小児看護学概論	116ページ	有	有	〃
小児看護学方法論Ⅰ	117ページ	有	有	〃
小児看護学方法論Ⅲ	119ページ	有	有	〃
母性看護学概論	120ページ	有	有	〃
母性看護学方法論Ⅰ	122ページ	有	有	〃
母性看護学方法論Ⅱ	123ページ	有	有	〃
精神看護学方法論Ⅰ	128ページ	有	有	〃
災害看護	135ページ	有	有	〃
総合看護技術Ⅰ	138ページ	有	有	〃
総合看護技術Ⅱ	139ページ	有	有	〃

注)　専任教員資格の有る者とは、厚生労働省が定める、「看護師養成所の運営に関するガイドライン」に規定された、保健師、助産師又は看護師として、5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修を修了した者等に該当する者を言う。

※実務経験のある教員（専任教員）による授業科目については「実」と標記。

科　　目	（３８）看護学概論	１年 前期	１単位	30 時間
担当教員	若月　佐知子、田所　亮一			
ね ら い	看護学を構成している要素としての看護、人間、環境、健康を理解し、Ｆ・ナイチンゲール、Ｖ・ヘンダーソンの看護の考え方から看護学の輪郭をとらえ、各看護学の基礎となる知識、態度を習得する。			
到達目標	・歴史的変遷から看護の主要概念や看護の本質をについて述べられる。 ・看護の対象である人間を理解し、看護が健康や生活に関わる専門職であることを述べられる。 ・保健医療福祉システムにおける看護の機能と看護活動について述べられる。 ・看護実践における倫理について述べられる。			

単元名	学習目標	内　容
看護とは	１．看護の歴史的変遷から看護の主要概念と看護の本質を述べられる。	１．看護の本質 １）看護とは ２）看護の歴史的変遷 ３）看護の定義 ４）看護の役割と機能
	２．看護理論の発展の歴史から看護理論の意義について述べられる。	１．看護理論とは何か ２．主な看護理論
	３．ナイチンゲールの看護論の概要を述べられる。	１．ナイチンゲール 「看護覚え書」序章・補章
看護の対象の理解	４．看護の対象としての人間について具体的に述べられる。	１．人間の「こころ」と「からだ」 ２．生涯発達しつづける存在としての人間の理解 ３．人間の「暮らし」の理解
健康とは	５．健康の概念を理解し、看護の視点からの健康を述べられる。	１．健康のとらえ方 ２．ライフサイクルと健康
看護の提供者	６．職業としての看護と看護職養成にかかわる制度について具体的に述べられる。	１．職業としての看護の変遷 ２．看護職養成制度
看護の提供のしくみ	７．保健医療福祉システムと看護について具体的に述べられる。	１．看護サービス提供の場 ２．看護をめぐる制度と政策
広がる看護活動	８．看護の国際化、災害看護の特徴を述べられる。	１．看護の国際化 ２．災害看護

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［1］　看護学概論』　医学書院 『看護覚え書　看護であること・看護でないこと』　現代社 『系統看護学講座　別巻　看護倫理』　医学書院
評価方法	筆記試験（90%）、レポート評価（10%）
備考・履修上の留意点	これまでの自己の看護のイメージとこれから目指す専門職としての看護を考えながら授業を受けて下さい。「看護とは」を思考する習慣を身につけましょう。

科　　目	（３９）基礎看護学方法論Ⅰ	実	１年 前期	１単位	30 時間
担当教員	若月　佐知子、今井　潔子				
ね ら い	看護は、対象のより健康的な生活を支える実践活動である。ここでは、その核となる看護技術の考え方を学習し、看護の最も基本となる人間関係を成立し発展させるためのコミュニケーション技術を学ぶ。				
到達目標	・看護技術の概念と科学的根拠に基づく看護の考え方を述べられる。 ・看護におけるコミュニケーションの意義と、看護の基本となるコミュニケーション技術を説明できる。				

単元名	学習目標	内　容
看護技術の概念	１．人間を対象とする看護技術の特徴を述べられる。	１．技術とは ２．看護技術の定義と特徴 ３．看護技術の基本原則（安全・安楽・自立・個別性） ４．看護技術の構成と基礎看護技術の位置づけ ５．看護技術習得の過程とその方法
関係構築のためのコミュニケーションの基本	２．コミュニケーションの基本となる態度や行動を述べられる。	１．看護師が与える印象 ２．挨拶の基本 ３．敬語と言葉遣い
看護におけるコミュニケーション	３．看護におけるコミュニケーションの意義を述べられる。	１．看護におけるコミュニケーションの目的と方法 ２．　プライバシーや看護倫理的側面の理解 ３．患者・家族とのコミュニケーション ４．医療者とのコミュニケーション
	４．効果的なコミュニケーション技術について述べられる。	１．効果的なコミュニケーション技術の基本と留意点 ２．効果的でないコミュニケーション
人間関係を形成・発展する方法	５．自己のコミュニケーション傾向を具体的に述べられる。	１．プロセスレコードを通して自己の振り返り・再構成
コミュニケーション技術の習得	６．患者との基本的なコミュニケーション技術と医療者間のコミュニケーションの重要性を説明できる。	１．患者のプライバシーに配慮した対応 ２．コミュニケーション障害がある患者への対応 ３．医療者間の報告・連絡・相談 ４．カンファレンス

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［2］　基礎看護技術Ⅰ』医学書院 『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］　基礎看護技術Ⅱ』医学書院 『看護コミュニケーション　基礎から学ぶスキルとトレーニング』 医学書院（紙書籍）
評価方法	筆記試験（90%）、課題・提出物（10%）
備考・履修上の留意点	コミュニケーションは患者さんと良好な関係を築くために必要な技術になります。看護におけるコミュニケーションについて学んでいきましょう。

科　　目	（４０）基礎看護学方法論Ⅱ	実	１年 前期	１単位	30 時間
担当教員	菊池　麻美				
ね ら い	人と密接な関係にある環境のありようは、対象の療養状態や健康の回復過程に大きな影響を与える。ここでは、対象の生活の場である療養環境を整え、安全を守り安楽を促す技術として病床環境調整の技術、感染予防技術、安全管理の基本、安楽を促す技術を学ぶ。				
到達目標	・対象の安全・安楽・人権尊重を視点においての療養環境調整の意義を述べられる。 ・病床環境調整にかかわる基本を理解し病床環境調整技術を実施できる。 ・看護ケアの質的保証における安全管理の基本と重要性を述べられる。 ・感染予防にかかわる基本を理解し、感染予防技術を実施できる。				

単元名	学習目標	内　容
環境の概念	１．環境の概念と看護における重要性を述べられる。	１．ナイチンゲール「看護覚え書」―換気と保温、住居の健康、物音、変化、ベッドと寝具類、陽光、部屋と壁の清潔― ２．ヘンダーソン「看護の基本となるもの」―安全― ３．環境とは
療養環境の調整	２．病床の環境要素とその望ましい条件を述べられる。	１．環境調整の意義 ２．病室、病床の環境
安全	３．安全の意義や影響因子と看護における安全管理の基本を述べられる。	１．看護における安全の意義 ２．安全への影響因子と事故防止
安楽	４．安楽の要因と看護について述べられる。	１．安楽とは ２．看護にとっての安楽の意義
ベッドメーキング	５．ベッドメーキングの基本技術を実施できる。	１．リネン類のたたみ方 ２．ベッドメーキング １）クローズドベッド ２）オープンベッド
リネン交換	６．臥床患者のリネン交換技術を実施できる。	１．汚染したシーツの取り扱い ２．臥床患者のリネン交換
感染予防	７．感染および院内感染と予防の重要性を述べられる。	１．感染の理解と院内感染予防 ２．感染予防アセスメント
	８．感染防御の適切な方法を述べられる。	１．標準予防策 １）手指衛生 ２）個人防護用具 ３）汚染物の取り扱い ２．病院環境保全と感染予防

技術の形成評価	9．標準予防策として、手指衛生の技術を実施できる。	3．感染経路別予防策 1）接触予防策 2）飛沫予防策 3）空気予防策 4．無菌操作 1）鑷子・鉗子取扱い 2）滅菌物取り扱い 5．感染性廃棄物の取り扱い 1）感染性廃棄物の基礎知識 2）感染性廃棄物の分別表示 1．手指衛生の技術 1）衛生学的手洗い 2）擦式手指消毒
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［2］基礎看護技術Ⅰ』医学書院 『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ』医学書院 『根拠と事故防止からみた　基礎・臨床　看護技術』　医学書院 『看護覚え書　看護であること・看護でないこと』　現代社	
評価方法	筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点	ナイチンゲールが大切にしている、環境を整えることの意味とその技術について、一緒に学んでいきましょう。	

科　　目	（４１）基礎看護学方法論Ⅲ	実	１年 前期	１単位	15 時間
担当教員	小倉　藤緒				
ね ら い	人間の健康生活は、安全で快適な日常生活行動として営まれている。ここでは、その土台となる生活リズムを整えるために必要な活動と休息について学ぶ。				
到達目標	活動・休息の意義を理解し、生活リズムを整え安楽を促す基本的な看護技術を実施できる。				

単元名	学習目標	内　容
活動	１．生活リズムにおける活動・運動の意義を述べられる。	１．ヘンダーソン「看護の基本となるもの」―活動・姿勢― ２．活動・運動の機能と意義 ３．良肢位と安楽な体位 ４．体位の種類と身体への影響
	２．ボディメカニクスを述べられる。	１．ボディメカニクスとは ２．ボディメカニクス技術の基本
	３．活動・運動の援助技術を実施できる。	１．援助技術の実際 １）良肢位 ２）安楽な体位 ３）体位変換 ４）移乗・移送
休息	４．生活リズムにおける休息の意義を述べられる。	１．ヘンダーソン「看護の基本となるもの」―睡眠・休息― ２．休息・睡眠の意義 ３．休息・睡眠のアセスメント
	５．休息・睡眠の援助を述べられる。	１．入眠・休息を促す援助 ２．リラクゼーションの方法

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ』医学書院 『根拠と事故防止からみた　基礎・臨床　看護技術』　医学書院 『看護覚え書　看護であること・看護でないこと』　　現代社
評価方法	筆記試験（100％）
備考・履修上の留意点	ボディメカニクスを理解し、人の動きを助ける援助を習得するだけではなく、生活を整えるための援助を学びましょう。

科　　目	（４２）基礎看護学方法論Ⅳ	実	１年 前期	１単位	30 時間
担当教員	中村　詞子				
ね ら い	看護は対象である人間を観察し、健康状態を評価することから始まる。看護者の観察は、その看護者が提供する看護行為を方向づける重要なステップといえる。ここでは、対象の健康状態を的確に評価する観察の基本的理解とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントについて理解する。また、その基本技術としてのフィジカルイグザミネーション技術、観察した情報を活用する記録・報告について学ぶ。				
到達目標	・対象の健康状態を観察するその意義と方法を述べられる。 ・対象の身体的状態を客観的かつ系統的に捉えるフィジカルイグザミネーション技術を実施できる。 ・看護の継続性と医療チーム連携のための記録・報告技術を実施できる。				

単元名	学習目標	内　容
看護における観察	１．観察の意義を述べられる。	１．ナイチンゲールとヘンダーソンが唱える観察とは ２．観察の意義 ３．観察の目的と方法 ４．観察と情報 ５．看護行為につなげる観察
記録・報告	２．　記録・報告の意義を述べられる。	１．記録・報告の意義と目的 ２．診療情報に関する医療の動向と記録のガイドライン ３．診療情報開示と守秘義務 ４．記録・報告の種類と留意点 ５．観察と測定結果の記載方法
フィジカルアセスメントの概念と方法	３．フィジカルアセスメントの概念を述べられる。	１．ヘルスアセスメントの概念 ２．フィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション
	４．フィジカルイグザミネーションの基本技術を述べられる。	１．基本技術の方法 １）問診 ２）視診 ３）触診 ４）打診 ５）聴診 ２．系統別フィジカルイグザミネーションの実際 １）呼吸器系 ２）循環器系 ３）消化器系 ４）中枢神経系
	５．バイタルサイン測定の意義を述べられる。	１．バイタルサイン測定の目的と方法

	６．バイタルサイン測定の基本技術を実施できる。 ７．身体測定の意義を述べられる。 ８．身体測定の基本技術を実施できる。	１．バイタルサイン測定の実際 １）呼吸測定 ２）脈拍測定 ３）血圧測定 ４）体温測定 １．身体測定の目的と種類、方法 １．身体測定の実際 １）身長測定 ２）体重測定 ３）周囲径の測定 ２．体格指数
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［2］［3］基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ』 医学書院 『根拠と事故防止からみた　基礎・臨床　看護技術』　医学書院 『看護覚え書　看護であること・看護でないこと』　現代社 『写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス』 インターメディカ	
評価方法	筆記試験（60%）、技術試験（30%）提出課題（10%）での総合評価	
備考・履修上の留意点	ここでは基本技術を習得しながら人間のからだに関心がもてるよう、フィジカルアセスメントについて幅広く経験します。実際に観察・記録・報告しながら理解を深めましょう。	

科　　目	（４３）基礎看護学方法論Ⅴ	実	１年 前期	１単位	30 時間
担当教員	中村　詞子、小倉　藤緒				
ね ら い	人間にとっての食事・排泄は、生命維持及びその人らしい日常生活行動として重要な位置づけをなしている。ここでは、食事を栄養という視点から、排泄を人権尊重という視点からその意義を深く理解し、これらの生活を整える技術を学ぶ。				
到達目標	・栄養との関連から人間にとっての食のもつ意味について理解し、基本的な食事援助技術を実施できる。 ・排泄の意味を理解し、人権を尊重した基本的な排泄援助技術を実施できる。				

単元名	学習目標	内　容
栄養と食生活	１．栄養・食事の意義と消化・吸収のメカニズムを述べられる。	１．ナイチンゲールとヘンダーソンが唱える食事・飲食の意義とは ２．栄養・食事の意義 ３．消化・吸収のメカニズム ４．食事摂取基準 ５．医療におけるＮＳＴ活動
	２．食事環境を整えるための援助について具体的に述べられる。	１．栄養状態・食欲・摂食能力のアセスメント ２．食事環境の調整と食事の援助
食事の援助	３．食事介助の援助技術を実施できる。	１．臥床患者の食事の援助 ２．臥床患者の口腔ケア
排泄の援助	４．排泄援助の基本的技術を具体的に述べられる。	１．ヘンダーソン「看護の基本となるもの」　排泄 ２．排泄とは ３．排泄のメカニズム １）排尿のメカニズム ２）排便のメカニズム ４．排泄のアセスメント １）排泄状態 ２）排泄行動 ５．排泄の援助の基本姿勢
	５．自然排泄を助ける援助技術を実施できる。	１．床上排泄の援助 １）便器・尿器による排泄の援助 ２）オムツによる排泄の援助 ２．ポータブルトイレによる排泄の援助
	６．排泄困難時の援助技術について具体的に述べられる。	１．排泄困難のメカニズム ２．排泄困難時の援助 １）浣腸

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］　基礎看護技術Ⅱ』 医学書院 『根拠と事故防止からみた　基礎・臨床　看護技術』 医学書院 『看護覚え書　看護であること・看護でないこと』　　現代社
評価方法	筆記試験（100%）
備考・履修上の留意点	基本的欲求の１つである食事、排泄の援助技術を演習を通して学びます。演習ではプライバシーや羞恥心に配慮した援助、援助を受ける患者さんの心理面も考えてください。

科　　目	（４４）基礎看護学方法論Ⅵ	実	１年 前期	１単位	30 時間
担当教員	菊池　麻美、今井　潔子				
ね ら い	人間の健康生活は、安全で快適な日常生活行動として営まれている。ここでは日常生活行動の中でもより個別性が反映される清潔と衣生活について、生理的・心理的・社会的意義を理解するとともに、これらの生活を整える技術を学ぶ。				
到達目標	清潔・衣生活の意義を理解し、基本的な援助技術を実施できる。				

単元名	学習目標	内　容
清潔と衣生活	１．清潔・衣生活の意義を述べられる。	１．ナイチンゲール「看護覚え書」 ―からだの清潔― ２．ヘンダーソン「看護の基本となるもの」―清潔、衣類― ３．皮膚の構造と機能 ４．清潔・衣生活の意義
	２．清潔・衣生活の援助を具体的に述べられる。	１．清潔・衣生活の方法 １）皮膚の清潔 ２）寝衣の交換 ３）整容
	３．清潔・衣生活の援助技術を実施できる。	１．清潔・衣生活の援助技術の実際 １）寝衣交換 ２）清拭 ３）洗髪 ４）部分浴（手浴） ５）陰部洗浄

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］　基礎看護技術Ⅱ』 医学書院 『根拠と事故防止からみた　基礎・臨床　看護技術』 医学書院 『看護覚え書　看護であること・看護でないこと』　　現代社
評価方法	筆記試験（80%）、課題・提出物（20%）
備考・履修上の留意点	日常生活行動や基本的欲求には個人差があります。人間としての共通性と生活習慣との違いを捉えながら、日常生活行動と基本的ニードに関する基本的な考え方と援助を学習します。

科　　目	（４５）基礎看護学方法論Ⅶ	実	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	中村　詞子、菊池　麻美				
ね ら い	・臨床判断のプロセスを経験することで臨床判断の基礎となる考え方を学ぶ。 ・既習の学習をふまえ、状況設定された患者の状態に応じた日常生活援助技術の実際を学ぶ。 ・援助の目的や根拠を基に、安全・安楽・自立をめざした援助を考える。				
到達目標	・既習の基礎看護学方法論や解剖生理学などの基礎的知識を統合し、状況設定された患者の理解ができる。 ・看護技術の原理・原則をふまえ、状況設定患者に適切な方法を選択できる。 ・選択した方法を安全・安楽・自立を考え実施できる。 ・実施した援助を振り返ることができる。				

単元名	学習目標	内　容
対象への援助技術演習	１．臨床判断のプロセスとは何かを述べられる。 ２．対象の状態を述べられる。	１．臨床判断のプロセスとは何か １）気づき、解釈、反応、省察 ２．対象を身体的、心理的、社会的側面から理解する。 【事例】 回復期にあり、自立をめざしている患者
	３．対象に合わせた援助技術の立案と安全・安楽・個別性を考えた援助の実際を説明できる。	１．事例に合わせた援助技術の立案と実施 １）バイタルサイン測定 ２）食事の援助 ３）清潔の援助 ・シミュレーション ・個人ワーク ・ペアワーク ・グループワーク
	４．リフレクションを通し、実施した援助の意味、技術を振り返えることができる。	１．実施した援助の事実と意味 ２．実施した援助の評価 ・個人ワーク ・グループワーク ・リフレクションシート

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］　基礎看護技術Ⅱ』医学書院 『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［4］　臨床看護総論』　医学書院 『根拠と事故防止からみた　基礎・臨床　看護技術』医学書院 『看護覚え書　看護であること・看護でないこと』　　現代社
評価方法	レポート（50%）、筆記試験（50%）
備考・履修上の留意点	ここでは、今まで学んだ基礎看護学方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴをもとに、複合した看護技術と援助の実際を学びます。各方法論で使用した資料・レポートを活用して、状況設定された患者に対する援助を計画・実施・評価しましょう。

科　　目	（４６）基礎看護学方法論Ⅷ	実	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	小倉　藤緒				
ね ら い	対象の健康問題を解決するための論理的・科学的根拠に基づいた看護の思考過程を学ぶ。				
到達目標	・看護における看護過程の概念について述べられる。 ・ヘンダーソンの考える看護について述べられる。 ・看護過程の一連の流れを述べられる。 ・紙上事例を通して、対象の健康問題を解決するための論理的・科学的根拠に基づいた看護の思考過程を説明できる。				

単元名	学習目標	内　容
看護過程とは	１．看護における看護過程の意義について述べられる。	１．看護過程とは １）看護過程の意義 ２）看護過程発展の歴史 ３）クリティカルシンキングとは
	２．ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の概要を具体的に述べられる。	２．看護の基本となるもの １）ヘンダーソンの看護の考え方 ２）常在条件 ３）病理的状態 ４）基本的看護の構成要素(14 項目)
	３．看護過程の構成要素を具体的に述べられる。	１．看護過程の構成要素 １）第一段階　アセスメント ２）第二段階　看護問題の明確化 ３）第三段階　看護計画の立案 ４）第四段階　実施 ５）第五段階　評価
紙上事例の看護過程	４．紙上事例を用いて看護過程を展開できる。	１．第一段階　アセスメント １）情報収集（分類・整理） ２）情報の分析・解釈 ２．第二段階　看護問題の明確化 １）アセスメント統合し、関連図を作成 ２）看護問題の抽出 ３）看護問題の優先順位の判断 ３．第三段階　看護計画の立案 １）看護問題の目標 ２）期待される結果 ３）解決策 ４．第四段階　実施 ５．第五段階　評価

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ』　医学書院 『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床　看護技術』　医学書院 『病気・病態・重症度からみた　疾患別看護過程+病態関連図』　医学書院 『緊急度・重症度からみた　症状別看護過程+病態関連図』　医学書院 『とにかく使える検査値の見かた』　照林社（紙書籍） 『今日の治療薬 2024　解説と便覧』　南江堂（紙書籍） 『看護学生のためのよくわかる BOOKs 看護学生のための臨床検査』　メヂカルフレンド社 『看護覚え書　看護であること・看護でないこと』　現代社
評価方法	看護過程演習レポート（70%）、筆記試験（30%）
備考・履修上の留意点	看護の目的を達成するために、既習の知識・技術を活用し、科学的思考・問題解決思考に基づいた看護実践のための具体的な援助を考えるところまでを学びます。特に人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、基礎看護学方法論など、これまで学習した知識を活用し、担当教員の指導を受けながら個人及びグループで看護過程を展開していきます。科学的根拠に基づいた看護の思考過程をしっかり理解しましょう。

科　　目	（４７）基礎看護学方法論Ⅸ	実	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	菊池　麻美、中村　詞子				
ね ら い	健康障害を持つ対象の健康回復には、検査や治療といった非日常的な体験が強いられる。その体験は心身ともに苦痛体験を伴うことが多く、また実施される検査や治療に対する対象自身の適切な行動も成果を大きく左右するといえる。ここでは、診療過程にある診察・検査・治療に関わる基礎的な知識を学習すると共に、その過程における看護師の役割と具体的な援助技術について学ぶ。				
到達目標	・診察の基礎的知識と看護師の役割を理解し、診察における援助技術について述べられる。 ・検査の基礎的知識と看護師の役割を理解し、主要な検査の援助技術について述べられる。 ・薬物治療における看護師の役割と、安全で効果的な薬物療法に関する知識と技術について述べられる。 ・治療や処置を安全に実施するための知識を理解し、無菌操作の技術について述べられる				

単元名	学習目標	内　容
診療の補助と看護	１．診療の補助としての看護の法的責任について述べられる。	１．ナイチンゲール「看護覚え書」 －感染防止と与薬について－ ２．診療の補助の法的解釈 １）正しい指示の受け方
	２．診察を受ける対象のニーズについて述べられる。	１．診察の意義・目的・方法 ２．診察を受ける対象のニーズ
	３．診察における看護師の役割と機能について述べられる。	１．診察に関するアセスメント ２．診察時の援助
	４．診察時の援助技術を述べられる。	１．診察時の介助
検査時の看護	５．検査を受ける対象のニーズについて述べられる。	１．検査の意義・目的・方法 ２．検査を受ける対象のニーズ
	６．検査における看護師の役割と機能について述べられる。	１．検査に関するアセスメント ２．ＭＥ器機と使用時の看護 ３．検査の援助 １）一般的検体の取り扱い(血液・尿・便・喀痰) ２）放射線検査 ３）内視鏡検査 ４）超音波検査 ５）心電図検査
	７．血液採取（採血）技術を理解する。	１．静脈血採血
与薬の技術	８．薬物療法を受ける対象のニーズを理解する。	１．薬物療法の意義・目的・方法 ２．方法別薬理作用の違い・特徴 ３．医薬品の管理

	９．薬物療法における看護師の役割と機能を理解する。	１．薬物療法における看護の役割 ２．与薬の実際 １）経口与薬（内服・口腔内） ２）吸入 ３）点眼・点鼻 ４）直腸内与薬 ５）経皮・外用薬 ６）注射
輸血療法と看護	10．輸血が生体に及ぼす影響を理解する。	１．輸血用血液の種類と適応 ２．輸血の作用と副作用
注射の技術	11．注射に伴う危険性と法的責任を理解する。	１．注射に関わる法的責任 ２．注射実施時のアセスメント ３．注射による危険性
安全を守る看護	12．安全な注射の実施について理解する。	１．安全な注射の実際 １）誤薬防止策 ２）洗浄・消毒・滅菌 ３）無菌操作 ４）感染性廃棄物の取り扱い ５）針刺し事故防止
	13．安全な注射技術を理解する。	１．注射の実施 １）皮内・皮下注射 ２）筋肉内注射 ３）静脈内注射 ４）点滴静脈内注射
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ』 医学書院 『根拠と事故防止からみた　基礎・臨床　看護技術』 医学書院 『看護学生のためのよくわかるBOOKs　看護学生のための臨床検査』 メヂカルフレンド社 『今日の治療薬2024　解説と便覧』 南江堂（紙書籍） 『看護覚え書　看護であること・看護でないこと』　現代社	
評価方法	筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点	この科目では正確性・安全性が非常に重要とされる技術を学びます。演習は基本的にシミュレーターを用いて実施しますが、自身および全体への安全に十分に留意して、集中力を高め、真剣に取り組んで下さい。	

科　　目	（４８）基礎看護学方法論Ｘ	実	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	若月　佐知子、今井　潔子				
ね ら い	臨床における看護実践では、根拠のある看護を実践することが求められる。ここでは、臨床における看護の特徴、および対象者を理解した上で、対象者が示す症状や受けている治療・処置と看護を、看護実践を展開するときの基本的な思考過程にそって学ぶ。				
到達目標	・患者とその家族のもつ健康上のニーズについて述べられる。 ・主要症状のメカニズムと看護について述べられる。 ・呼吸を整える技術を実施できる。 ・安楽を促進する技術を実施できる。 ・基本的な治療・処置、およびそれに伴う看護について述べられる。				

単元名	学習目標	内　容
臨床看護とは	１．臨床における看護の特徴を述べられる。	１．臨床という場の特徴 ２．臨床における看護の役割
臨床における看護の対象とニーズ	２．個人と家族の視点から看護の対象を具体的に述べられる。 ３．対象と家族が持つ健康上のニーズを具体的に述べられる。	１．個人と家族 ２．個人とライフサイクル ３．家族の概念と機能 ４．看護が必要とされる場に応じた個人と家族のニーズ
主要症状と看護	４．主要な症状とメカニズムについて述べられる。 ５．主要な症状を示す対象者への看護について述べられる。 ６．呼吸を整える技術を実施できる。 ７．安楽を促進する技術を実施できる。	１．症状のメカニズムと看護 １）呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 （１）呼吸を整える技術 吸引（口腔・気管内） 酸素療法 ２）循環に関連する症状を示す対象者への看護 ３）栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 ４）排泄に関連する症状を示す対象者への看護 ５）活動・休息に関連する症状を示す対象者への看護 （１）安楽を促進する技術 （冷罨法・温罨法）
治療・処置に伴う看護	８．基本的な治療・処置を述べられる。 ９．治療・処置に応じた看護を述べられる。	１．主な治療・検査を受ける対象者への看護 １）輸液療法 ２）化学療法 ３）放射線療法 ４）手術療法 ５）集中治療 ６）創傷処置・創傷ケア

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ』医学書院 『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［4］臨床看護総論』　医学書院 『根拠と事故防止からみた基礎・臨床　看護技術』　医学書院 『緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図』　医学書院 『病気・病態・重症度からみた疾患別看護過程』　医学書院
評価方法	筆記試験（80％）、課題・提出物（20％）
備考・履修上の留意点	既習科目の知識や技術を活用し、臨床での看護実践をイメージしながら学んでいきましょう。

科　　目	（４９）看護倫理	実	２年 後期	１単位	15 時間
担当教員	若月　佐知子				
ね ら い	生命及び人間を尊重し、看護職者として倫理的行動がとれる基本的能力を養う				
到達目標	１．看護の倫理原則、看護者の倫理綱領について具体的に述べられる。 ２．医療における倫理的問題について具体的に述べられる。 ３．看護実践における倫理的問題に気づき、具体的に述べられる。				

単元名	学習目標	内　容
看護倫理とは 看護倫理の歴史	１．看護倫理とは何かを理解するとともに看護の倫理の歴史的な流れを述べられる。	１．看護倫理を学ぶ意義 ２．看護倫理とは １）生命倫理 ２）職業倫理 ３．看護倫理の歴史
看護の倫理原則 看護実践上の倫理的概念 看護実践と倫理	２．看護実践における倫理的な意思決定や倫理的行動を導く概念を述べられる。	１．看護の倫理原則 ２．アドボカシー、エンパワメント、ケアリング、インフォームドコンセント ３．１ＣＮ「看護師の倫理綱領」 ４．「看護者の倫理綱領」
現代医療、看護実践における倫理的問題	３．医療、看護実践における倫理的問題について述べられる。	１．生殖をめぐる倫理的問題 ２．死をめぐる倫理的問題 ３．最先端医療をめぐる倫理的問題 ４．看護実践における倫理的問題
看護実践における倫理的問題と看護者としての行動	４．看護実践における事例をもとにグループワークを行い、倫理的問題、解決するための方法、看護者としての行動の実際を説明できる。	１．事例検討 ２．グループによるディスカッションと発表

テキスト及び副教材	『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［1］看護学概論』　医学書院 『系統看護学講座　別巻　看護倫理』　医学書院
評価方法	筆記試験（80%）、レポート評価（20%）
備考・履修上の留意点	何が倫理的問題であるのかを考えることが大切です。 グループワークに積極的に取り組んで自己の考えを深めて下さい。

科　　目	（５０）地域・在宅看護概論Ⅰ	実	1年 後期	1単位	15時間
担当教員	熊谷　昌恵、岡山　深雪				
ね ら い	地域で生活する人々や環境を理解し、看護活動にむけた基礎的知識を学ぶ。				
到達目標	１．地域（社会）とは何かを理解することができる。 ２．地域の特性を理解することができる。 ３．地域コミュニティや社会資源を理解することができる。				

単元名	学習目標	内　容
地域社会とは	１．地域社会とは何かを理解する。	１．人々の暮らしと地域・在宅看護 １）人々の暮らしの理解 ２）地域・在宅看護の役割
地域コミュニティと社会資源の活用	１．実際の生活の場から人々に必要なサービスや医療・福祉を理解することができる。 ２．地域と社会資源のネットワークを理解することができる。	１.暮らしの基盤としての地域の理解 １）暮らしと地域 ２）暮らしと地域を理解するための考え方
地域や社会資源の理解	１．フィールド学習から地域活動や医療との連携を理解することができる。	１．グループでのフィールドワーク ２．フィールドワーク発表

テキストおよび副教材	『系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［1］ 地域・在宅看護の基盤』　医学書院
評価方法	レポート（70%）、フィールドワーク発表（30%）
備考・履修上の注意点	自身の生活する地域から視野を広げて、看護の対象である人々が生活する地域の理解を深めてください。フィールドワークでは既習のコミュニケーション技術を使用し、グループで協力しながら学習を行ってください。

科　　目	（５１） 地域・在宅看護概論Ⅱ	実	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	熊谷　昌恵、岡山　深雪				
ねらい	社会情勢の変化や医療の発展のなか、住み慣れた地域で暮らすために地域包括ケアシステムの構築が強く推進されている。このため、我が国の現状をふまえ、在宅療養を支える看護師の役割について学ぶ。また、対象を生活者ととらえ、療養の場に応じた看護と多職種の連携について理解する。さらに療養者と家族を支える制度や社会資源について学ぶ。				
到達目標	１．地域・在宅看護が必要とされる背景と基本理念を理解する。 ２．地域・在宅看護の対象を理解する。 ３．地域・在宅看護の役割を理解する ４．地域・在宅看護にかかわる法律・制度を理解する。				

単元名	学習目標	内　容
人々の暮らしと地域・在宅看護	１．暮らしの基盤としての地域を理解する。 ２．地域・在宅看護の役割がわかる。 ３．地域包括ケアシステムを理解する。	１．暮らしと地域の理解 ２．地域・在宅看護における看護師の役割 ３．地域包括ケアシステムと地域共生社会 １）地域包括ケアシステムとは ２）「自助・互助・共助・公助」 ３）地域包括ケアシステムの推進
地域・在宅看護の対象者	１．地域・在宅看護の対象者と、必要な援助について理解する。	１．地域による多様性 ２．ライフステージによる多様性 ３．健康レベルの多様性 ４．地域・在宅看護対象者としての家族
地域における暮らしを支える看護	１．暮らしを支える看護の実践に必要な視点、考え方を理解する。 ２．健康に対する人々のニーズの変化と必要な看護とは何かわかる。	１．暮らしを支える看護の実践 １）暮らしの環境を整える看護 ２）暮らしにおけるリスクの理解 ３）暮らしにける災害対策 ２．健康に対する人々のニーズ １）ヘルスプロモーション ２）健康ニーズに対する看護
地域・在宅看護実践の場と連携	１．地域・在宅看護の実践の場と連携について理解する。 ２．地域・在宅看護における倫理や権利保障を理解することができる。	１．おもな地域・在宅看護実践の場 １）住まいで提供される看護 ２）各種サービスの場で提供される看護 ３）医療機関で提供される看護 ４）地域の中で提供される看護 ２．多職種連携 １）地域・在宅における連携の特徴 ２）医療専門職との連携 ３）地域の社会資源との連携やネットワークづくり ３．個人の尊厳と自己決定権 １）成年後見 ２）虐待の防止

地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	1. 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用について理解できる。	1．在宅看護にかかわる法令・制度 1）訪問看護制度の発展経緯 2）医療保険制度 3）障害者総合支援法 4）難病法 5）医療介護総合確保推進法 6）医療法 2．介護保険制度 1）介護保険の目的とその対象者 2)介護保険の利用方法とそのサービス 3．訪問看護制度 1）訪問看護の制度と規定 2)訪問看護の費用とサービスの提供 4．ケアマネジメント 1）ケアマネジメントの概念 2）ケアマネジメントの展開
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護［1］ 地域・在宅看護の基盤』　医学書院 参考図書「強みと弱みからみた 地域・在宅看護過程＋総合的機能関連図」 医学書院	
評価方法	提出課題（20%）、筆記試験（80%）	
備考・履修上の留意点	「暮らし」を取り巻く環境とはどういうものか、自身の住んでいる地域と照らし合わせながら興味、関心をもって講義を受けてください。	

科　　目	（５２）地域・在宅看護方法論Ⅰ	実	２年 後期	１単位	30 時間
担当教員	熊谷　昌恵、岡山　深雪、曽我部　峰千恵				
ね ら い	地域で療養している人とその家族の理解を深め、在宅療養者の健康状態に応じた看護を展開するための基礎的知識を学ぶ。また、地域・在宅看護に必要な保健・医療・福祉システムの活用について学ぶ。				
到達目標	１．地域・在宅看護援助の基本を理解する。 ２．地域・在宅療養者の健康状態に応じた療養者と家族への看護について理解する。 ３．地域・在宅看護を支えるしくみと関連職種との協働や社会資源の活用について理解する。				

単元名	学習目標	内　容
地域・在宅看護の看護過程	１．在宅看護過程の情報やアセスメントの視点、目標設定の基礎的知識を理解する。	１．地域・在宅看護における看護過程 １）看護過程とその意義 ２）地域・在宅看護における看護過程の特徴 ３）地域・在宅看護における看護過程の展開
	２．「暮らしの場」で看護する視点を理解する。	１．暮らしの場で看護をするための心構え １）地域・在宅看護をするための心構え ２）地域・在宅看護実践に欠かせない要素 ２．セルフケアを支える対話・コミュニケーション １）対象者と看護師のパートナーシップ ２）対象者の看護師の対話 ３．地域・在宅看護における安全を守る看護 １）療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 ２）地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント ３）地域・在宅看護における看護師への暴力、ハラスメント
地域・在宅における時期別の看護	３．在宅看護介入時の時期の特徴を理解する。	１．地域・在宅における時期別の看護 １）健康な時期の看護 ２）外来受診期における看護 ３）入院時の看護 ４）在宅療養準備期の看護 ５）在宅療養移行期の看護 ６）在宅療養安定期の看護 ７）急性増悪期の看護 ８）終末期の看護 ９）在宅療養終了期の看護

在宅療養者の健康状態に応じた看護	４．在宅で療養する認知症高齢者と家族への看護を理解する。	１．認知症の高齢者の看護 １）疾病の特徴と療養の経過 ２）アセスメントの視点とその看護 ３）日常生活自立度・要介護度 ４）家族への支援
	５．難病で療養する人と家族への看護を理解する。	１．難病で療養する対象の看護 １）疾病の特徴と療養の過程 ２）アセスメントの視点とその看護 ３）家族への支援
	６．障害を持ちながら生活する人と家族への看護を理解する。	１．障害を持ちながら生活する対象の看護 １）疾病の特徴と療養の過程 ２）アセスメントの視点とその看護 ３）住環境調整・生活拡大への支援 ４）家族への支援
	７．終末期を迎えた療養者と家族への看護を理解する。	１．終末期を迎えた対象の看護 １）疾病の特徴と療養の過程 ２）症状コントロール ３）自己決定への支援 ４）家族への支援 ５）24 時間の支援体制
	８．在宅で療養する子どもと家族への看護を理解する。	１．在宅で療養する子どもへの看護 １）疾病の特徴と療養の過程 ２）発達を踏まえたアセスメントの視点と看護 ３）家族への支援 ４）子どもの療養生活を支える制度
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［2］ 地域・在宅看護の実践』　医学書院 『強みと弱みからみた　地域・在宅看護過程＋総合的機能関連図』医学書院 『ナースのための　やさしくわかる訪問看護』　ナツメ社	
評価方法	筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点	地域・在宅看護論は、各看護学との関連が深くそれらの応用が求められます。地域で生活する療養者の意思決定を支援する視点を養えるように学習しましょう。	

科　　目	（５３）地域・在宅看護方法論Ⅱ	実	２年 後期	１単位	30 時間
担当教員	熊谷　昌恵、岡山　深雪				
ね ら い	在宅療養者とその家族のＱＯＬの維持・向上に向けて、地域・在宅看護を展開するために必要な訪問看護の基本技術と生活を支える看護を学ぶ。				
到達目標	１．地域・在宅看護の基本技術を理解する。 ２．在宅生活を支える看護技術を理解する。				

単元名	学習目標	内　容
暮らしを支える看護技術	１．訪問に向けた接遇と面接技術を理解することができる。	１．訪問時のマナー ２．初回訪問時の注意点 ３．地域・在宅看護の活動を支えるコミュニケーション
	２．地域・在宅看護におけるフィジカルアセスメントの視点や予防的視点を理解することができる	１．生活全体のアセスメントの視点 １）観察、フィジカルイグザミネーションとアセスメント ２）症状・徴候アセスメント ３）生活状況アセスメント
地域における暮らしを支える看護実践	３．療養者の生活行為として必要な援助を理解することができる。	１．療養環境調整に関する地域・在宅看護技術 １）地域・在宅看護における療養環境調整 ２）療養環境のアセスメント ３）療養環境調整の実際 ２．活動・休息に関する地域・在宅看護技術 １）身体活動、休息のアセスメント ２）身体活動、休息の援助ポイント ３．食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術 １）在宅での食生活の特徴 ２）食生活・嚥下に関するアセスメント ３）経口摂取の援助 ４．排泄に関する地域・在宅看護技術 １）暮らしにおける排泄とその援助 ２）排泄のアセスメント ３）セルフケアのための援助 ４）活動参加のための援助 ５）機能の維持・向上を目指援助

医療管理レベルの高い療養者への看護実践	４．在宅で医療管理レベルの高い療養者への処置やその方法（援助技術）を理解することができる。	５．清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術 １）暮らしにおける清潔・衣生活とその援助 ２）清潔・衣生活に関するアセスメント ３）在宅における清潔・衣生活の援助の実際 ６．創傷管理に関する地域・在宅看護技術 １）褥瘡予防とケア ２）スキンテア予防とケア ７．与薬に関する地域・在宅看護技術 １）地域・在宅における与薬 ２）アセスメントのポイント ３）与薬方法ごとの在宅ケアのポイント １．ストーマ管理 １）ストーマの適応 ２）主な合併症 ３）生活への適応 ２．医療管理レベルの高い療養者の援助 １）在宅酸素（HOT）を受ける療養者の援助 ２）非侵襲的陽圧換気（NPPV）を受ける療養者の援助 ３）在宅人工呼吸療法（HMV）を受ける療養者の援助
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［2］ 地域・在宅看護の実践』　医学書院 『強みと弱みからみた　地域・在宅看護過程＋総合的機能関連図』　医学書院 『ナースのための　やさしくわかる訪問看護』　ナツメ社	
評価方法	筆記試験（80％）、演習およびレポート（20％）	
備考・履修上の留意点	在宅療養者の増加に伴い、地域・在宅看護では様々な健康レベルを持つ対象への援助が求められます。在宅療養における基本的な日常生活援助技術、医療管理レベルの高い療養者への管理、ケアを学んでいきます。演習では、授業で学んだ知識を活かして体験的に学びを深めてください。	

科　　目	（５４）地域・在宅看護方法論Ⅲ	実	２年 後期	１単位	15 時間
担当教員	曽我部　峰千恵				
ね ら い	家族看護は、少子高齢化や疾病構造の変化に伴う対象者の QOL の向上が求められる現代社会において重要な役割を持つ。そのため、家族看護論では家族を看護の対象としてとらえることの重要性と、家族の定義、家族看護の目的と基本的理論と学習する。さらに、事例検討を通して、家族への看護展開について理解し、家族の健康に対する看護支援について学ぶことをねらいとする。				
到達目標	１．家族とは何かを理解する。 ２．家族看護に用いられる基礎理論を理解する。 ３．家族の病気体験を通し、家族との援助関係の重要性を理解する。 ４．疾患や障害と共に生きる家族成員を支える家族への看護を考えられる。				

単元名	学習目標	内　容
家族看護とは	１．家族看護の特徴を述べることができる。	１．家族看護の特徴と理念 １）家族看護の発展と変遷 ２）家族看護の特徴 （１）領域の枠を超えた家族看護 ３）家族看護の目指すところ ２．家族看護の実践場面 １）家族成員が疾患や障害を持つ家族 ２）ライフサイクルと家族 ３）コミュニティと家族 ３．家族療法
わが国の家族の変遷	２．家族とは何か説明できる。 ３．わが国の家族の変遷について説明できる。	１．家族とは何か １）家族の定義・特徴 ２）家族構造と家族機能 （１）ジェノグラム （２）エコマップ （３）様々な家族機能 ２．我が国の家族の変遷 １）近代家族 ２）現代家族 ３）核家族と小規模化する家族 ４）家族の多様化 （１）出生率の低下と非婚化 （２）パートナーシップの多様化 ５）現代家族の課題
家族を理解するための基礎理論	４．家族を理解するために必要な理論の概要を述べることができる。	１．家族の発達段階と基本的発達課題 １）フリードマンの家族の機能 ２．家族を理解するための理論 １）家族発達理論 ２）家族システム理論 ３．家族の変化を把握するための理論 ＡＢＣＸモデル・ジェットコースターモデルなど

家族看護の考え方	5．家族看護のプロセスを説明できる。	1．家族看護過程 1）家族看護過程の視点 2）家族看護過程の枠組み 3）個人と家族の看護過程のちがい 2．家族看護の実践過程 1）情報収集 2）家族アセスメント 3）家族看護問題の明確化 4）家族看護計画の立案 5）家族看護の実施 6）家族看護の評価 3．主な家族アセスメントモデル
事例に基づく家族看護	6．事例に必要な看護を考え、表現することができる。	1．グループワーク
テキストおよび副教材	『系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［2］ 地域・在宅看護の実践』　医学書院 『ナースのための　やさしくわかる訪問看護』　ナツメ社 『系統看護学講座　別巻　家族看護学』　医学書院	
評価方法	筆記試験（60%）、演習内容（40%）	
備考・履修上の注意点	家族看護では家族もケアの対象ととらえ、看護の目的や特徴と援助内容について学びます。講義や演習の学びを通して家族看護の理解を深めてください。	

科　　目	（５５）地域・在宅看護方法論Ⅳ	実	３年 前期	１単位	15 時間
担当教員	熊谷　昌恵、岡山　深雪				
ね ら い	紙上事例を用いて、地域で生活する療養者と家族の視点から、医療の継続と看護支援を考えた看護過程の展開を学ぶ。				
到達目標	１．在宅で医療を行うことや、障害を持ちながら生活する療養者と家族のアセスメントを考えることができる。 ２．療養者と家族を含めた全体像や課題リストを考えることができる。				

単元名	行動目標	内　容
地域・在宅看護過程の展開	１．医療の継続、家族と生活や社会資源の活用方法を考えることができる。 ２．アセスメントから導いた療養者の全体像を考えることができる。 ３．長期的な視点や生活の側面を捉えた課題の明確化や課題リストを考えることができる。	１．アセスメント １）疾患・医療ケア ２）活動 ３）環境 ４）理解・意向 ２．全体像の描写 ３．療養上の課題の明確化 ４．看護課題リスト １）療養に対する思い・望み ２）長期目標 ３）短期目標

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論［2］ 地域・在宅看護の実践』　医学書院 『強みと弱みからみた　地域・在宅看護過程＋総合的機能関連図』医学書院
評価方法	地域・在宅看護過程課題提出　発表（40%）、筆記試験（60%）
備考・履修上の留意点	地域・在宅看護の対象ならびに社会資源、制度について復習しておくこと。事例に対する看護を展開では、地域・在宅看護方法論Ⅰ，Ⅱ、Ⅲの内容をふまえ、以後の実習をイメージして取り組んでください。

科　　目	（５６）成人看護学概論	実	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	村山　信子、鎌田　明				
ね ら い	成人期にある対象を理解するために、成人期の発達課題と生活、あらゆる健康レベルにおける対象の身体的・心理的・社会的側面を総合的に理解し、成人期にとって最適な健康を促進、維持、増進するための看護を学ぶ。 また、成人期の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶ。				
到達目標	１．ライフサイクルからみた成人各期の特徴や発達課題を理解する ２．成人への看護アプローチの基本を理解する ３．健康を維持するための看護を理解する ４．成人の健康レベルに応じた看護を理解する ５．様々な健康レベルにある人の継続的な移行支援について理解する				

単元名	学習目標	内　容
成人の生活と健康	１．成人の生活と健康を理解する	１．成人各期の対象の理解 １）発達段階の特徴 ２）発達課題 ２.健康状態と保健・医療・福祉システム １）成人を取り巻く環境と、生活から見た健康 ２）平均寿命・受療状況・生活習慣病・職業性疾患・疾病構造の変化 ３）健康日本２１・健康増進法
成人への看護アプローチの基本	２．成人期の看護アプローチの基本を理解する	１．学習者である患者への看護 １）大人の学習 ２）トランスセオレティカルモデル ３）エンパワメント ２．症状マネジメント ３．チームアプローチ ３．倫理的判断・意思決定支援 ４．家族支援
	３．健康を維持するための看護を理解する	１．ヘルスプロモーションを促進する看護 ２．健康を脅かす要因と看護 １）健康バランスと影響要因
成人の健康レベルや状況に対応した看護	４．健康レベルに応じた看護を理解する	１．　健康レベル別の看護の特徴 １）健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 ２）慢性病とともに生きる人を支える看護 ３）障害がある人の生活とリハビリテーション ４）人生最後のときを支える看護
療養の場の継続的な移行支援	５．様々な健康レベルにある人の継続的な移行支援について理解する	１．療養の場の移行支援が必要とされる背景 ２．継続的な移行を支える支援の実際

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　成人看護学[1]　成人看護学総論』　医学書院
評価方法	筆記試験 80%・施設見学（レポート含む）20%
備考・履修上の留意点	

科　　目	（５７）成人看護学方法論Ⅰ	実	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	波間　由紀子、鎌田　明				
ね ら い	急性疾患や外傷などにより急激な健康破綻をきたした人とその家族を理解し、健康破綻からの回復を促進する看護の基礎的知識を学ぶ。また、手術を受ける人とその家族を理解し、手術前・手術中・手術後までの一連のプロセスにおける看護の基礎的知識・技術を学ぶ。				
到達目標	１．急性状態および生命状態の危機の観察や看護判断、患者の状態に応じた看護を理解する。 ２．周手術期にある患者の外科的侵襲と回復過程の看護を理解する。				

単元名	学習目標	内　容
急性期看護概論	１．急性期看護を理解する。	１．急性期看護とは ２．急性期看護の概念
	２．健康の急激な破綻をきたし、生命の危機状態にある人の特徴を理解する。	１．生命の危機状態にある人の特徴
	３．救命・集中治療を必要とする人の看護を理解する。	１．救急看護とは ２．集中治療下での看護
救命救急処置とその看護	４．主要な急性期にある患者の看護を理解する。	１．急性心筋梗塞・狭心症 ２．アナフィラキシー ３．熱中症 ４．広範囲熱傷
手術療法を受ける人の看護	５．周手術期にある人の特徴を理解する。	１．侵襲に対する生体反応 １）神経・内分泌反応 ２．周手術期とは １）手術の種類と麻酔について ２）術後患者の回復過程 ３）周手術期にある患者と家族の特徴
	６．周手術過程に応じた看護を理解する。	１．手術前の看護 ２．手術中の看護 ３．手術後の看護 ４．退院に向けた指導・援助
	７．主要な手術療法を受ける患者の看護	１．消化器の手術 ２．呼吸器の手術 ３．循環器の手術

テキスト及び副教材	『成人看護学急性期看護Ⅰ　概論・周手術期看護』　南江堂 『成人看護学急性期看護Ⅱ　救急看護・クリティカルケア』　南江堂 『基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学２』　医学書院 『成人看護学　成人看護技術』　南江堂 『根拠と急変対応からみた フィジカルアセスメント』　医学書院 『根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術』　医学書院 聴診器、瞳孔計
評価方法	筆記試験（75%）、演習（25%）
備考・履修上の留意点	

科　　目	（５８）成人看護学方法論Ⅱ	実	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	久保田　睦子、波間　由紀子、髙島　留美子				
ね ら い	生涯にわたるコントロールが必要な慢性疾患をもつ人が、疾病をもちながら主体的に生活していくために必要なセルフマネジメントを支援する看護について学ぶ。				
到達目標	１．慢性疾患患者の特徴が理解できる。 ２．呼吸器・腎疾患・代謝・消化器疾患の病態・検査・治療を理解する。 ３．呼吸器・腎疾患・代謝・消化器疾患をもつ成人期の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 ４．成人期にある人のセルフマネジメントを促す看護を理解する。				

単元名	学習目標	内　容
慢性期にある人と家族の理解	慢性期にある人の特徴とセルフマネジメントを促す看護を理解する。	１．慢性期にある人の特徴 ２．慢性期にある人の看護の特徴 ３．セルフマネジメントを促す援助
腎疾患をもつ成人期の人と家族への看護	慢性腎臓病の診断から腎不全が進行し血液透析導入をした成人期にある人の事例に基づいて必要な看護を理解する。	１．慢性腎臓病と腎不全の病態・検査・治療 ２．慢性腎臓病と腎不全のセルフマネジメントを促す看護 ３．腎不全進行から血液透析導入、維持透析に至った状態に対する症状マネジメントとセルフマネジメントを促す看護
糖尿病をもつ成人期の人と家族への看護	糖尿病の診断からインスリン導入に至る成人期にある人の事例に基づいて必要な看護を理解する。	１．糖尿病および糖尿病合併症の病態・検査・治療 ２．糖尿病のセルフマネジメントを促す看護 ３．インスリン療法導入に対する看護 ４．インスリン自己注射指導
消化器疾患をもつ成人期の人と家族への看護	慢性肝炎の診断を受け、慢性的に経過している成人期にある人の事例に基づいて必要な看護を理解する。	１．慢性肝炎の病態・検査・治療 ２．慢性肝炎のセルフマネジメントを促す看護

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[2]　呼吸器』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[5]　消化器』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[6]　内分泌・代謝』医学書院 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[8]　腎・泌尿器』　医学書院 『成人看護学慢性期看護　病気とともに生活する人を支える』　南江堂
評価方法	筆記試験（80%）、演習およびレポート（20%）
備考・履修上の留意点	実習ではセルフマネジメント支援の場面は多いです。しっかり身につけましょう。

科　　目	（５９）成人看護学方法論Ⅲ	実	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	村山　信子、高島　留美子				
ね ら い	身体的（生理的）機能や心理的・社会的自立を妨げる何らかの障害を持つ人が、最善の機能を回復または保持し、自立した生活を送ることができるための看護を学ぶ。				
到達目標	１．リハビリテーション看護の専門性を理解する。 ２．リハビリテーションを必要とする人への看護を展開するための概念と理論を理解する。 ３．循環器・運動器疾患・脳血管疾患をもつ成人期の、回復を促すリハビリテーション看護を理解する。				

単元名	学習目標	内　容
リハビリテーション看護の専門性	1.リハビリテーション医療とリハビリテーション医療に携わる専門職の役割と機能がわかる。	１．リハビリテーションの理念 １）リハビリテーションの定義 ２）国際生活機能分類と構造 2.リテーション医療に携わる専門職 １）専門職の役割と機能 3.リハビリテーション看護の機能と役割
リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論	2.リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論を理解する	１．動きやすい環境 １)環境調整における看護師の観察の視点 2.日常生活活動（ADL）の構造 １）ADL の概念・ADL の要素 ２）基本動作 ３)リハビリテーションにおける評価
循環器・運動器疾患・脳血管疾患をもつ成人期の回復を促すリハビリテーション看護	3.循環器・運動器疾患・脳血管疾患を持つ､回復期にある成人期の看護を理解する	1.循環器疾患によりリハビリテーション看護を必要とする人の特徴と看護 １）心不全の病態・検査・治療 ２）心疾患の心臓リハビリテーション ３）心不全予防を促すための看護 2.運動器疾患によりリハビリテーション看護を必要とする人の特徴と看護

		1）関節の可動域と機能 2）神経の構造と機能 3）排泄機能障害 4）脊柱管狭窄、腰椎椎間板ヘルニアの病態・検査・治療と看護 3.脳神経疾患によりリハビリテーション看護を必要とする人の特徴と看護 1）脳卒中の病態・検査・治療 2）脳神経のフィジカルアセスメント 3）高次脳機能障害と看護 4）嚥下障害 5）運動麻痺のある患者の日常生活援助
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[3]　循環器』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[7]　脳・神経』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[10] 運動器』　医学書院 『成人看護学リハビリテーション看護 障害のある人の可能性とともに歩む』　南江堂 『写真でわかる　看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス 生活者の視点から学ぶ身体診察方法』インターメディカ 『写真でわかるリハビリテーション看護アドバンス 看護に生かすリハビリテーションの知識と技法』インターメディカ	
評価方法	筆記試験（80%）、演習への取り組み（10%）、課題への取り組み（10%）	
備考・履修上の留意点		

科　　目	（６０）成人看護学方法論Ⅳ	２年 後期	１単位	30 時間
担当教員	大串　祐美子、青田　美穂、納谷　さくら、波間　由紀子			
ね ら い	がんと診断された時からの緩和ケアにもとづき、診断から終末期における看護を理解するため、がんの病態や治療、それに伴う全人的苦痛を理解し、根拠に基づく看護について学ぶ。また質の高い緩和ケアの実践のために必要なチームアプローチや倫理的課題の基本的知識について学ぶ。さらにサバイバーシップケアや地域包括ケアの視点からも看護の役割を考え、家族とともにその人らしい生活を送ることができるための看護を学ぶ。			
到達目標	１．がん看護の動向、看護の現状を理解する。 ２．がん治療の看護について理解する。 ３．がん患者の臨床経過と看護について理解する。 ４．がん患者と家族の全人的苦痛をとらえ、緩和ケアについて理解できる。 ５．がん治療とセルフケア支援について理解する。			

単元名	学習目標	内　容
がんの動向と疾病の理解	がんの動向と疾病の特徴を理解する。	１．がんの動向 １）がんを取り巻く状況 ２）がんサバイバーシップケア ３）地域包括ケアにおけるがん看護 ４）疫学データの動向
	がんの病態と臨床経過について理解する。	２．がんという疾病の特徴 １）がんの病態 ２）がん診療の流れと特徴 ３）身体的変化、症状の特徴
がん患者と家族の苦痛の理解	がん患者と家族を理解する。	１．がん患者の苦痛の理解 １）身体的苦痛 ２）心理的特徴とサポート ２．がん患者の家族の課題と支援
がん治療と看護	がんの手術療法、化学療法、放射線療法について理解する。	１．がんの手術療法、化学療法、放射線療法の特徴と流れ、実際 ２．化学療法の準備教育、副作用とセルフケア ３．放射線療法の有害事象とセルフケア ４．食道がんの病態生理、症状、治療と副作用・有害事象
	食道がんの事例に基づき、化学放射線療法を受ける患者の看護について理解する。	５．化学放射線療法をうける食道がん患者の心理・社会的側面と看護 ６．化学放射線療法をうける食道がん患者への援助
	その他のがん治療を受ける患者の看護を理解する。	７．造血幹細胞移植を受ける患者の看護

がん看護における緩和ケア	緩和ケアの定義について理解する がん患者の全人的苦痛を理解し、緩和のための援助を理解する。	1．緩和ケアの定義 2．全人的苦痛とケア 3．がん患者の身体的苦痛とケア 4．がん患者の心理的苦痛とケア 5．がん患者の社会的苦痛とケア 6．がん患者のスピリチュアルペインとケア
緩和ケアにおけるチームアプローチ	緩和ケアにおけるチームアプローチ、看護師の役割について理解する。	1．緩和ケアにおけるチームアプローチの意義 2．緩和ケアにおける看護師の専門性と多職種との連携
緩和ケアにおける倫理的課題	緩和ケアにおける倫理的課題を理解する。	1．患者の権利と意思決定 2．看護者の倫理綱領 3．倫理的課題
テキスト及び副教材	『系統看護学講座別巻　がん看護学』　医学書院 『系統看護学講座　別巻　緩和ケア』　医学書院	
評価方法	筆記試験（90%）、レポート・課題の取り組み（10%）	
備考・履修上の留意点		

科　　目	（６１）老年看護学概論	実	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	中村　由紀子、臺　和也				
ね ら い	あらゆる健康レベルの老年期にある人びとを身体的・心理的・社会的側面から統合的に理解し、老年期の特性と加齢に伴う変化を学ぶ。また、老年期における社会・環境との相互作用について理解し老年看護のあり方や看護師の役割について学ぶ。				
到達目標	１．高齢者の概念を学び、ライフサイクルにおける老年期の特性と加齢に伴う変化を理解する。 ２．老年期を取り巻く環境と生活と健康にかかわる保健・医療・福祉システムの概要を理解する。 ３．老年看護の意義と役割を理解し、老年期の対象への健康レベルに応じた看護を理解する。 ４．老年期の対象への健康を促進、維持、増進するための看護活動について見学し、多様な場での看護の特徴を理解できる。				

単元名	学習目標	内　容
老年期の特性と加齢	１．老年看護の対象となる高齢者を理解する。	１．老いるということ １）加齢と老化 ２）身体的・心理的・社会的側面の変化 ３）高齢者の疑似体験 ２．老いを生きるということ １）高齢者と老年期 ２）老年期の発達課題
超高齢者社会と社会保障	２．老年期の健康や生活を保健医療福祉の現状から理解する。 ３．高齢化が社会に及ぼす影響を理解する。	１．老年期の健康と生活 １）健康の定義と健康寿命 ２）老年期の生活 ２．高齢社会の統計的輪郭 １）超高齢社会の現況 ２）高齢者と家族 ３）高齢者の健康状態 ３．高齢社会における保健医療福祉の動向 １）保健医療福祉の変遷 ２）地域包括ケアシステム ３）介護保険制度 ４）多職種連携と看護活動の多様化 ４．高齢者の権利擁護 １）高齢者虐待 ２）権利擁護のための制度
老年看護の基盤	４．老年看護の発展経緯からその意義と役割を理解する。	１．老年看護のなりたち ２．老年看護の役割 ３．老年看護における理論・概念の活用 １）ストレングスモデル ４．老年看護に携わる者の責務
生活・療養の場における老年期の対象への看護の基本	５．老年期の対象へ健康レベルに応じた看護を理解する。 ６．介護施設での看護の実際を理解する。	１．高齢者とヘルスプロモーション ２．保健医療福祉施設および居住施設における看護 １）介護老人保健施設の役割と看護 ２）多職種連携の実際

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　老年看護学』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論』　医学書院 『根拠と事故防止からみた　老年看護技術』　医学書院 『生活機能からみた　老年看護過程＋病態・生活機能関連図』　医学書院 『写真でわかる　高齢者ケア　アドバンス』　インターメディカ
評価方法	筆記試験（80%）・レポート（20%）による総合評価
備考・履修上の留意点	講義内で介護老人保健施設、特別養護老人ホームの施設見学を行う予定です。

科　　目	（６２）老年看護学方法論Ⅰ	実	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	中村　由紀子、臺　和也、曽我部　峰千恵				
ね ら い	高齢者の生活機能を考え、QOL の維持・向上するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。				
到達目標	１．高齢者に多い症状・特徴とアセスメントの視点を学び、生命や生活への影響を理解する。 ２．高齢者の生活機能に焦点を当て、その人らしい生活を行うための援助を理解する。 ３．高齢者の生活援助技術から生活機能を考えた看護を理解する。				

単元名	学習目標	内　容
高齢者のヘルスアセスメント	１．高齢者のヘルスアセスメントの視点を理解する。	１.高齢者のフィジカルアセスメント １）身体の加齢変化とアセスメント ２）高齢者総合機能評価（CGA） ３）ロコモティブシンドローム ４）サルコペニア ２．症候のアセスメントと看護 １）発熱　２）痛み　３）掻痒 ４）脱水、５）嘔吐　６）浮腫 ７）倦怠感　８）褥瘡・スキン-テア
高齢者の生活機能を整える看護	２．高齢者の食事・食生活についての看護を理解する。	１．高齢者における食生活の意義 ２．高齢者に特徴的な変調 １）摂食嚥下過程の５期モデル ２）栄養状態の変調 ３．食生活のアセスメント １）食事環境のアセスメント ２）摂食嚥下能力のアセスメント ３）栄養状態のアセスメント
	３．経管栄養法を受ける高齢者の援助ができる。	４．食生活の支援 ５．演習
	４．高齢者の排泄について理解できる。	１．高齢者の排泄ケアの基本 ２．排尿障害のアセスメントとケア ３．排便障害のアセスメントケア
	５．膀胱内留置カテーテル導尿法を受ける高齢者の援助ができる。	４．演習
	６．高齢者の生活リズムを整える看護を理解できる。	１．高齢者と生活リズム ２．高齢者に特徴的な変調 ３．生活リズムのアセスメント ４．生活リズムを整える看護
	７．高齢者の清潔を整える看護を理解できる。	１．清潔の意義 ２．高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 ３．清潔のアセスメント
	８．高齢者の清潔を整える援助ができる。	４．清潔の援助 ５．演習

	９．高齢者の生活に影響する転倒・廃用症候群のアセスメントと看護を理解する。 １０．コミュニケーション障害がある高齢者の特徴と関わり方を学び、アセスメントと看護を理解する。	１．基本動作と環境のアセスメント ２．転倒のアセスメントと看護 ３．廃用症候群のアセスメントと看護 １．高齢者とのコミュニケーションとかかわり方の原則 ２．コミュニケーション能力のアセスメント ３．高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法
テキスト及び副教材	『系統看護学講座 専門分野 老年看護学』第 4、5 章　医学書院 『系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論』第 1～3 章 医学書院 『根拠と事故防止からみた老年看護技術』　医学書院 『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』　医学書院 『写真でわかるシリーズ　写真でわかる高齢者ケア』　インターメディカ	
評価方法	筆記試験（80%）・レポート（20%）による総合評価	
備考・履修上の留意点		

科　　目	（６３）老年看護学方法論Ⅱ	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	松原　泉、細川　善吉、中村　由紀子、臺　和也			
ね ら い	高齢者の健康障害と治療の特徴を理解し、回復を促す看護を学ぶ。また、エンドオブライフケアを支える看護を学ぶ。			
到達目標	１．高齢者の疾患の特徴を理解する。 ２．高齢者の健康障害からの回復を促す看護を理解する。 ３．高齢者のエンドオブライフケアを支える看護を理解する。			

単元名	学習目標	内　容
高齢者の入院・検査	１．診断に必要な検査の種類と治療の目的・方法を理解する。また、身体侵襲に伴う生理的・心理的反応を理解する。	１．入院における高齢者の看護 ２．検査を受ける高齢者の看護
高齢者の疾患	２．高齢者疾患の症状、原因、予防、検査、治療を理解する。	１．循環器系疾患 ２．呼吸器・血液系疾患 ３．消化器系・内分泌・代謝系疾患 ４．腎・泌尿器疾患 ５．皮膚・感覚器疾患 ６．運動器疾患 ７．高齢者の感染症 ８．脳神経疾患
高齢者の薬物療法	３．薬物療法をうける高齢者の看護を理解する。	１．加齢に伴う薬物動態の変化 ２．高齢者に特徴的な薬物有害事象 ３．老年症候群と薬物有害事象 ４．薬物療法における援助
疾患をもつ高齢者の看護	４．高齢者が発症しやすい疾患の看護を理解する。	１．循環器系疾患の看護 ２．呼吸器系疾患の看護 ３．消化器系疾患の看護 ４．腎・泌尿器疾患の看護 ５．運動器疾患の看護 １）高齢者のリハビリテーション
	５．認知機能に障害がある高齢者の看護を理解する。	１．認知機能障害のある高齢者の看護 １）うつ　２）せん妄　３）認知症
エンドオブライフケア	６．高齢者におけるエンドオブライフケアを理解する。	１．エンドオブライフケアの概念 ２．「生きる」ことを支えるケア ３．意思決定への支援

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　老年看護学』第 6.7.8 章　医学書院 『系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論』第 2.4.5.6 章　医学書院 『写真でわかるリハビリテーション看護』　インターメディカ
評価方法	筆記試験(100%)
備考・履修上の留意点	

科　　目	（６４）成人・老年看護過程Ⅰ	実	２年 後期	１単位	30 時間
担当教員	久保田　睦子、波間　由紀子、村山　信子				
ね ら い	紙上事例を通して、成人期・老年期の対象を統合的に理解し、周手術期にある成人期・老年期の対象とその家族に必要な看護を考えることができる。				
到達目標	１．対象を病態・治療および身体的・心理的・社会的側面からとらえることができる。 ２．手術後の回復状態にあわせた観察や看護、セルフマネジメントの視点を含めた行動計画を立案することができる。 ３．実践に基づいたアセスメントができる。 ４．自身の気づきを大切にし、思考過程を整えることができる。				

単元名	学習目標	内　容
成人・老年看護過程Ⅰの考え方	１．成人・老年看護過程Ⅰについて理解する。	１．成人・老年看護過程Ⅰ １）成人・老年看護過程Ⅰの考え方 ２）成人・老年看護過程展開方法 ３）記録用紙・記載方法
成人・老年看護過程の展開	２．周手術期にある成人期の対象の看護過程を展開する。	１．周手術期にある患者の看護展開 １）事例紹介 ２）事例の全体像の理解 ３）事前学習、行動計画立案、看護実践（シミュレーション演習）、評価と問題点・翌日の援助の方向性の明確化（術直後～退院支援） ４）発達課題、心理・社会的側面、セルフマネジメント支援の理解

テキスト及び副教材	『成人看護学急性期看護Ⅰ　概論・周手術期看護』　南江堂 『成人看護学急性期看護Ⅱ　救急看護・クリティカルケア』　南江堂 『今日の治療薬 2024　解説と便覧』　南江堂（紙書籍） 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学　消化器』
評価方法	看護過程ファイルおよび演習（病態学習、看護過程の展開、倫理的態度）100％ ＊20 の評価項目がありルーブリック評価を用いて点数化を行う。
備考・履修上の留意点	成人・老年看護学実習Ⅱ（急性期・周手術期看護）につながる科目です。看護過程記録と演習を組み合わせた授業展開になりますので、主体的・積極的に取り組みましょう。

科　　目	（６５）成人・老年看護過程Ⅱ	実	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	久保田　睦子、中村　由紀子				
ね ら い	紙上事例を通して、成人期・老年期の対象を統合的に理解し、慢性期疾患をもった成人期・老年期の対象とその家族に必要な看護を考えることができる。				
到達目標	１．対象をライフサイクルの中に位置づけ、常に発達・変化する存在としてとらえることができる。 ２．対象を病態および身体的・心理的・社会的側面からとらえることができる。 ３．科学的思考に基づいたアセスメントができる。 ４．患者教育や生活機能（もてる力）の視点を含めた看護計画を立案することができる。 ５．自身の気づきを大切にし、思考過程を整えることができる。				

単元名	学習目標	内　容
成人・老年看護過程Ⅱの考え方	１．成人・老年看護過程Ⅱについて理解する。	１．成人・老年看護過程Ⅱ １）成人・老年看護過程Ⅱの考え方 ２）成人・老年看護過程展開方法 ３）記録用紙・方法
成人・老年看護過程の展開	２．慢性疾患を有する成人期または老年期の対象の看護過程を展開する。	１．慢性疾患をもった患者の看護展開 １）事例紹介 ２）情報の分類と整理 ３）情報の分析・解釈 ４）病態関連図・全体像の描写 ５）看護の明確化 ６）看護計画の立案 ７）看護計画の実施 ８）看護計画の評価

テキスト及び副教材	『成人看護学慢性期看護　病気とともに生活する人を支える』　南江堂 『系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論』　医学書院 『生活機能からみた　老年看護過程＋病態・生活機能関連図』　医学書院 『今日の治療薬 2024　解説と便覧』　南江堂（紙書籍）
評価方法	看護過程演習（病態学習、看護過程の展開、倫理的態度）（100％） ＊20 の評価項目がありルーブリック評価を用いて点数化を行う。
備考・履修上の留意点	この講義は「成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅲ」で使用される看護記録様式を用いて行われます。

科　　目	（６６）小児看護学概論	実	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	佐々木　菜穂子、筒井　智子				
ね ら い	子どもを権利の主体としてとらえた上で小児と家族を取り巻く社会の変化を理解し、小児看護の役割と課題を学ぶ。				
到達目標	小児の成長・発達および発達段階に応じた養育の考え方や援助の方法、小児看護の特徴と看護の役割を理解する。				

単元名	学習目標	内　容
小児看護とは	１．小児看護の対象と目的・役割・場と特徴を理解する。	１．小児看護の対象 １）小児とは ２）ライフサイクルみた小児区分 ３）小児と家族 ２．小児看護の特徴 １）小児看護の対象と目標 ２）小児看護の特徴 ３）小児看護の役割 ・他職種との連携
小児看護・医療における諸統計とその変遷・展望	２．小児を取り巻く諸統計と医療の変遷を理解する。	３．小児を取り巻く医療の変遷 １）小児医療の変遷 ２）小児看護の変遷 ３）今後の小児医療 ４）今後の小児看護の課題
小児の権利と倫理	３．小児の権利・倫理と看護者の役割を理解する。	４．子どもの人権と看護 １）生命倫理　※ＧＷ・レポート ２）児童の権利に関る条約 ３）インフォームドコンセント・インフォームドアセント ４）児童虐待と対応
小児保健	４．小児（母子）保健の動向と健康問題を理解する。	５．母子保健と子育て支援 １）母子保健 ２）学校保健 ３）予防接種 ４）小児の事故防止と安全教育 ５）難病・障害児保健福祉 ６．小児の統計
小児の特徴と成長・発達	５．小児の成長・発達を理解する。	７．小児の成長・発達 １）成長・発達の原則 ２）形態的発達 ３）機能的発達 ４）心理社会的発達 ５）母子に関連する概念と理論
小児の発達段階に応じた養育と看護	６．小児の発達段階に応じた養育と看護援助が理解できる。	８．発達段階に応じた養育と看護 １）健康な生活・食事・睡眠・排泄清潔・活動（遊び・学習）※ＧＷ ２）健康問題 ３）発達段階別の養育・健康増進 ４）体験学習（チャイルドビジョン・点滴固定）

テキスト及び副教材	『新体系　看護学全書　小児看護学①　小児看護概論/小児保健』 メヂカルフレンド社 適宜資料配布
評価方法	筆記試験（100％）
備考・履修上の留意点	概論がすべてのベースになるため、必ず復習をして下さい。

科　　目	（６７）小児看護学方法論Ⅰ	実	２年 後期	１単位	15 時間
担当教員	佐々木　菜穂子				
ね ら い	病気・入院が小児や家族に及ぼす影響を理解し、健康問題や障害を持つ小児と家族の看護について学ぶ。				
到達目標	健康問題や障害をもつ小児と家族の生活や療養を支える看護について理解する。				

単元名	学習目標	内　容
健康問題･障害が小児と家族に与える影響と看護	１．健康問題・障害が小児と家族に及ぼす影響について理解する。	１．小児の病気の理解と説明 ２．病気や診療・入院が小児に与える影響と看護 ３．小児の病気や診療・入院が兄弟家族に及ぼす影響と看護と支援
健康問題･障害のある小児の発達段階に応じた看護 臨床において起こりやすい･直面しやすい状況と看護	２．治療や入院を必要とする小児と家族への発達段階に応じた看護について理解する。	１．発達段階に応じた看護 １）新生児期の看護 ２）乳児期の看護 ３）幼児期の看護 ４）学童期の看護 ５）思春期の看護 ２．外来における小児と家族への看護 １）対象の理解 ２）アセスメントの視点 ３）看護の実際
	３．さまざまな状況にある小児と家族への看護について理解する。	１．検査・治療処置を受ける小児と家族 ２．救急処置が必要な小児と家族 ３．出生直後から集中治療が必要な小児と家族 ４．先天的な健康問題がある小児と家族 ５．活動制限が必要な小児と家族への ６．家庭で療養している慢性疾患のある小児と家族 ７．医療的ケアを必要としながら退院する小児と家族 ８．聴覚障害のある小児と家族 ９．心身障害のある小児と家族 10．発達障害のある小児と家族 11．災害を受けた小児と家族

テキスト及び副教材	『新体系　看護学全書　小児看護学②　健康障害を持つ小児の看護』 メヂカルフレンド社 適宜、資料配布します。
評価方法	筆記試験（100％）
備考・履修上の注意点	概論での学習内容がベースとなるため、復習を必ずしておいて下さい。

科　　目	（６８）小児看護学方法論Ⅱ	２年 後期	１単位	30 時間
担当教員	武田　充人、筒井　智子			
ね ら い	小児期の主な疾患を理解し、看護援助に必要な基礎知識を学ぶ。 また、病気・入院が小児や家族に及ぼす影響を考え、健康問題を持つ小児と家族の看護について学ぶ。			
到達目標	小児期の代表的疾患の疫学・病態・症状・診断・治療・予後を理解し、小児と家族の状況に応じた援助、成長・発達に合わせた看護を考えられる。			

単元名	学習目標	内　容
先天異常とは	１．先天異常、新生児の主な疾患を理解する。	１．先天異常 ２．新生児疾患
小児の系統別疾患	２．小児期特有の身体構造を理解し、系統別に疾患の病態・症状・診断・治療・予後を理解する。	３．内分泌・代謝 ４．免疫・アレルギー ５．感染症 ６．呼吸器 （喘息・RS・クループ　他） ７．循環器 （ファロー四徴症・VSD・川崎病他） ８．消化器 （肥厚性幽門狭窄・巨大結腸症 腸重積・腸炎　他） ９．血液・造血器 （白血病・ITP・貧血　他） 10．悪性新生物 （固形腫瘍・リンパ腫　他） 11．腎・必尿器 （糸球体疾患・尿路疾患　他） 12．神経疾患 （癲癇・脳性麻痺・熱性けいれん他）
小児と家族が直面しやすい状況と看護	３．手術を受ける小児と家族の看護を理解する。	13．手術を受ける小児の看護 １）手術を受ける患児の特徴と目的及び心の準備 ２）麻酔の種類と影響・合併症 ３）痛みのある小児と家族 （１）インフォームドアセントのための技術 ①プレパレーション ②ディストラクション
	４．予後不良の小児の看護を理解する。	14．予後不良の小児の看護 １）小児の死の概念 ２）予後不良の小児の生活 ３）死に対する小児・家族・同室児の反応と援助 ４）予後不良の小児と家族の看護
症状別の看護	５．小児期に多くみられる主な症状と看護を理解する。	15．症状別の看護（GW） 発熱・下痢・嘔吐・脱水・痙攣 浮腫・咳嗽・喘鳴・呼吸困難 ショック・意識障害・痛み
経過別の看護	６．経過別の看護を病態・症状・検査・治療をふまえ看護を理解できる。	16．経過別の看護 １）急性期にある小児と家族の看護 ２）慢性期にある小児と家族の看護

テキスト教材及び副教材	『新体系　看護学全書　小児看護学②　健康障害を持つ小児の看護』 メヂカルフレンド社
評価方法	筆記試験（100％）
備考・履修上の留意点	予習・復習を必ず行い講義に臨んで下さい

科　　目	（６９）小児看護学方法論Ⅲ	実	２年 後期	１単位	30 時間
担当教員	種市　美華、佐々木菜穂子				
ね ら い	小児看護に必要な看護技術を理解し、効果的な看護を実践するための看護過程展開能力を養う。				
到達目標	小児の成長・発達に応じた看護援助に必要な技術を修得し、効果的な看護を実践するために既習知識を統合させて看護過程を展開することができる。				

単元名	学習目標	内　容
小児と家族に対する基本的看護技術の修得	１．小児の生活や診療に関する援助技術を習得する。	１．健康問題・健康障害のある小児に必要な看護技術 １）コミュニケーション技術 ２）フィジカルアセスメント及び技術演習 （１）乳児の身体計測 （２）乳児・幼児のバイタルサイン測定 （３）ディストラクション　プレパレーション ３）診療に伴う技術 （１）採血 （２）点滴固定 （３）採尿 （４）咽頭・鼻腔培養 （５）骨髄穿刺・腰椎穿刺 （６）与薬と輸液管理 （７）吸入・吸引 （８）酸素療法 （９）身体の固定 (10) 保育器の使用と管理 ４）指導・教育技術 （１）初期教育 （２）退院指導 （３）集団教育・指導 ５）与薬法
健康障害をもつ小児の看護過程	２．健康障害をもつ小児の病態生理・症状・治療・処置、成長・発達、家族の状況をふまえた看護過程を展開することができる。	１．健康障害をもつ小児の紙上事例を用いた看護過程展開演習 急性期（個人・GW） １）発達段階の理解 ２）病態・症状アセスメント ３）家族状況アセスメント ４）看護計画立案 ５）紙上事例のケアシュミレーション

テキスト及び副教材	『新体系　看護学全書　小児看護学①　小児看護概論/小児保健』　メヂカルフレンド社 『新体系　看護学全書　小児看護学②　健康障害を持つ小児の看護』　メヂカルフレンド社 『発達段階からみた小児看護過程　病態関連図』　医学書院 『根拠と事故防止からみた小児看護技術』　医学書院
評価方法	筆記試験・看護過程記録の提出
備考・履修上の留意点	概論・各方法論での知識を統合活用できるように学習して下さい

科　　目	（７０）母性看護学概論	実	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	出崎　裕貴子、川﨑　恵子				
ね ら い	人間の性と生殖の意義を理解するとともに、母性の概念と母性看護の対象として女性のライフサイクル各期の特徴をとらえる。さらに、母性をとりまく現状を理解し、対象と家族を支援する看護を学ぶ。				
到達目標	１．母性看護の基盤となる概念と母性看護の特徴について理解する。 ２．母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解する。 ３．母性看護の対象とその看護をライフサイクル各期の視点から理解する。				

単元名	学習目標	内　容
母性看護の概念	１．母性看護の基盤となる概念と理念について理解する。	１．母性看護の主な概念 １）母性と親になることの意味 ２）母子関係と家族発達 ・愛着・母子相互作用 ・家族機能 ３）セクシュアリティ ４）リプロダクティブヘルス／ライツ ５）ヘルスプロモーション ６）母性看護のあり方 ・母性看護の課題と展望 ７）母性看護における倫理 ８）母性看護における安全・事故予防
母性看護の変遷と現状	２．母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解する。	１．母性看護の歴史的変遷と現状 １）母性看護の変遷 ２）母子保健統計の動向 ３）母性看護に関する組織と法律 ４）母子保健に関する施策 ２．母性看護の対象を取り巻く環境 １）家族 ・多様な家族形態 ２）地域社会 ３）生物学的環境 ４）社会文化的環境 ・男女共同参画社会・国際化
母性看護の対象理解	３．母性看護の対象について様々な側面から理解する。	１．女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 １）生殖器の形態・機能 ２）妊娠と胎児の性分化 ２．女性のライフサイクルと家族 １）現代女性のライフサイクルと生涯発達 ２）家族発達段階と家族看護 ３．母性の発達・成熟・継承 １）女性性の発達 ２）母性・父性・親性の発達 ３）母性の世代間伝達 ・内的作業モデル

ライフサイクル各期における看護	4．ライフサイクル各期における女性の健康と看護について理解する。	1．思春期にある人の特徴と看護 1）思春期女性の特徴 2）健康問題と看護 3）思春期女性への看護の視点 2．成熟期にある人の特徴と看護 1）成熟期女性の特徴 2）健康問題と看護 3）成熟期女性への看護の視点 3．更年期・老年期にある人の特徴と看護 1）更年期・老年期女性の特徴 2）健康問題と看護 3）更年期・老年期女性への看護の視点
リプロダクティブヘルス	5．リプロダクティブヘルスケアについて理解する。	1．家族計画 2．性感染症とその予防 3．HIV に感染した女性へのケア 4．人工妊娠中絶と看護 5．喫煙女性の健康と看護 6．性暴力を受けた女性への看護 7．国際化社会と看護
出生前からのリプロダクティブヘルス	6．出生前からのリプロダクティブヘルスケアについて理解する。	1．遺伝相談 1）遺伝相談 2）出生前診断 2．不妊治療と看護 1）不妊検査 2）不妊治療 3）不妊夫婦への看護
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　母性看護学［1］母性看護学概論』医学書院 『系統看護学講座　専門分野　母性看護学［2］母性看護学各論』医学書院 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[9]　女性生殖器』　医学書院	
評価方法	筆記試験（100%）	
備考・履修上の留意点	母性看護学は、親になることの支援を通して次世代の健全育成を目指す看護学です。いままでの自分自身やこれからのことを考え、さらに現代社会の母性に関するさまざまな問題に関心を持ち、参加して下さい。	

科　　目	（７１）母性看護学方法論Ⅰ	実	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	出崎　裕貴子、川﨑　恵子、種市　美華				
ね ら い	妊娠が正常に経過し健康な児を出産できるよう、また、家族がサポートできるよう妊娠期の生理的変化を理解し、看護について学ぶ。また、産婦と胎児が安全・安楽に分娩を終了し、産婦が主体的に分娩に取り組めるための産婦と家族への看護を学ぶ。				
到達目標	１．妊娠の経過と看護について理解する。 ２．分娩の経過と看護について理解する。				

単元名	学習目標	内　容
妊娠期における看護	１．妊娠の経過と胎児の発育について理解する。	１．妊娠の生理と経過、胎児発育 ２．妊婦の健康診査 ３．妊婦の診察と介助
	２．妊婦の心理と社会的特性について理解する。	１．妊婦の心理的特徴 ２．妊婦と家族および社会
	３．妊婦の日常生活とセルフケアについて理解する。	１．妊娠中の日常生活の過ごし方 ２．妊婦の健康管理と保健指導 ３．妊娠中のマイナートラブルと保健指導 ４．妊婦の食事指導 ５．妊婦の疑似体験
	４．出産・育児の準備について理解する。	１．分娩準備教育 ２．育児準備のための保健指導 １）妊娠中の乳房の手当て
	５．親役割の準備について理解する。	１．母親としての自己像形成過程 ２．新しい家族役割への適応過程
	６．妊婦の看護の実際について理解する。	１．妊婦健康診査の目的と方法 １）腹囲・子宮底の測定 ２）レオポルドの４段触診法 ３）胎児心拍の聴取
分娩期における看護	７．分娩の経過と胎児の健康状態について理解する。	１．分娩の生理と経過 ２．産婦の健康診査 １）分娩の進行状態・胎児の健康度
	８．産婦と家族の心理について理解する。	１．産婦の心理的特徴 １）分娩経過と心理的変化 ２）家族の心理と支援
	９．分娩の進行状態に合わせた看護について理解する。	１．分娩の経過と看護 １）入院時の看護 ２）分娩第１期～第４期の看護 ３）産痛緩和法 （１）呼吸法 （２）弛緩法

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　母性看護学［2］母性看護学各論』　医学書院 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』　医学書院 『ウエルネスからみた母性看護過程』　医学書院
評価方法	筆記試験（100％）
備考・履修上の留意点	母性看護学実習に通じる科目です。事前学習に基づく演習を行いますので、しっかり準備して授業に参加して下さい。

科　　目	（７２）母性看護学方法論Ⅱ	実	２年 後期	１単位	30 時間
担当教員	出崎　裕貴子、川﨑　恵子、種市　美華				
ね ら い	褥婦と新生児が生理的経過をたどり、褥婦が自身のセルフケアと育児が行えるための保健指導について学ぶ。また、新生児の胎外生活への適応を促し、家族の一員として迎えられるための看護について学ぶ。				
到達目標	１．産褥の経過と看護について理解する。 ２．新生児期の経過と看護について理解する。 ３．母性の特徴を理解し、褥婦の看護過程を展開する。				

単元名	学習目標	内　容
産褥期における看護	１．産褥の経過について理解する。	１．産褥の生理と経過 ２．褥婦の健康診査
	２．褥婦の心理について理解する。	１．褥婦の心理的特徴 ２．家族の心理
	３．褥婦の日常生活とセルフケアを理解する。	１．褥婦の日常生活 ２．褥婦のセルフケアへの援助
	４．家族関係形成への援助を理解する。	１．新しい家族形成への援助
	５．褥婦の看護の実際を理解する。	１．乳房の観察と乳汁分泌促進 ２．復古現象の観察と促進方法 ３．産褥体操 ４．直接授乳の援助
新生児期における看護	６．新生児の経過を理解する。	１．新生児の生理と経過 １）新生児の身体的特徴
	７．早期新生児の看護を理解する。	１．出生直後の新生児の看護 ２．早期新生児の日常生活の援助 ３．新生児の保育環境 ４．退院へ向けた保健指導 １）沐浴指導 ２）育児技術指導
	８．新生児の看護技術を理解する。	１．バイタルサイン測定 ２．全身の観察 ３．身体計測 ４．沐浴、おむつ交換、臍処置 ５．安全な抱き方、寝かせ方

母性看護における看護過程展開	9．紙上事例を用いた褥婦の看護過程展開を理解する。	1．アセスメント 1）基礎情報(非妊時の健康情報、過去の妊娠・分娩歴、今回の妊娠・分娩経過、児の健康状態など) 2）産褥経過 3）褥婦の健康状態 4）褥婦の生活パターン 5）不快症状と対処能力、セルフケア行動 6）新生児と褥婦・夫との関係性 7）母親としての褥婦の役割行動 8）褥婦を取り巻くサポート体制 2．健康課題の明確化 3．看護計画の立案
テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　母性看護学［2］母性看護学各論』　医学書院 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』　医学書院 『ウエルネスからみた母性看護過程』　医学書院	
評価方法	筆記試験（100%）	
備考・履修上の留意点	母性看護学実習に通じる科目です。事前学習に基づく演習を行いますので、しっかり準備して授業に参加して下さい。	

科　　目	（７３）母性看護学方法論Ⅲ	３年 前期	１単位	15 時間
担当教員	吉藤　美幸			
ね ら い	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期各期の病態生理と異常について理解し、異常に傾いた時どのように対象を捉えるか、また、対象とその家族をどのようにサポートしていくかについて学ぶ。			
到達目標	１．妊婦・産婦・褥婦・新生児の異常と主な治療について理解する。 ２．妊婦・産婦・褥婦・新生児の健康問題に対する看護について理解する。			

単元名	学習目標	内　容
周産期の異常 周産期の健康問題に対する看護	１．ハイリスク状況にある妊娠・分娩・産褥期・新生児期の病態生理・治療について理解する。 ２．ハイリスク状況にある妊娠・分娩・産褥期、新生児期の主な健康問題に対する看護を理解する。 ３．正常な状態、経過を理解し、異常について学ぶ。	１．妊娠期の異常と健康問題に対する看護 １）ハイリスク妊娠 ２）妊娠持続期間の異常 （不育症、流産、切迫流産、早産、切迫早産） ３）母子感染症 ４）妊娠疾患（妊娠悪阻、ＧＤＭ、ＨＤＰ、妊娠性貧血） ２．分娩期の異常と健康問題に対する看護 １）微弱陣痛、過強陣痛 ２）胎盤の異常 （常位胎盤早期剝離、前置胎盤、前期破水） ３）分娩時異常出血 ４）帝王切開術、術後 ５）胎児機能不全 ３．産褥期の異常と健康問題に対する看護 １）子宮復古不全 ２）産褥熱 ３）乳腺炎、乳房トラブル ４）マタニティーブルーズ 産後うつ病 ４．新生児期の異常と健康問題に対する看護 １）早産、低出生体重児 ２）呼吸障害（新生児仮死、ＴＴＮ、ＭＡＳ、ＲＤＳ） 新生児蘇生 ３）高ビリルビン血症 ４）新生児低血糖 ５）ビタミンＫ欠乏症

テキスト及び副教材	『系統看護学講座　専門分野　母性看護学［2］母性看護学各論』　医学書院 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』　医学書院 『ウエルネスからみた母性看護過程』　医学書院
評価方法	筆記試験（100％）
備考・履修上の留意点	これまで学習した妊娠・分娩・産褥の生理的変化をしっかり理解した上で、この時期に異常に傾いたとき、どのように対象を捉え、サポートしていくかを学習して下さい。

科　　目	（７４）精神看護学概論	１年 後期	１単位	30 時間
担当教員	相澤　加奈、伊藤　絹子、原田　亮太、今井　潔子			
ねらい	精神の健康の考え方とその保持・増進のための基本および個人から社会に至る様々なレベルでの心の問題を理解し、精神的健康に課題を持つ人・精神疾患を有する人々の多様なニーズに対応する看護師の役割及び、看護に共通する精神の健康について学ぶ。			
到達目標	１．精神看護学の目的と役割について理解する。 ２．精神看護と精神科看護の違いを理解する。 ３．精神（こころ）の構造を理解する。 ４．精神看護に用いられる種々の理論を理解する。 ５．精神保健医療・看護と関連法制度の歴史的変遷と現状を学び、精神障害者の人権尊重の重要性について考えることができる。 ６．精神保健学の基本的事項を学び、個人から社会に至る様々なレベルにおける心の問題について理解する。			

単元名	学習目標	内　容
精神看護学の目的	１．精神看護の考え方を理解する。	１．現代社会における精神看護 ２．精神看護が展開される場 ３．精神を病むことと生きること ４．精神看護学の基本的な考え方
	２．精神看護と精神科看護の違いを理解する。	１．精神看護と精神科看護の考え方 １）精神看護の役割 ２）精神科看護の役割
精神（こころ）の捉え方	３．脳の構造と精神機能を理解する。	１．脳神経系の構造 ２．精神機能
	４．心の構造と働きを理解する。	１．人間の心のはたらき １）心の構造と機能 ２）心の発達理論 （１）フロイト （２）エリクソン （３）ピアジェ （４）マーラー （５）ボウルビー ３）自我の構造 ４）防衛（適応）機制
	５．人間の各ライフステージにおける発達課題と発達危機について理解する。	１．乳児期 ２．幼児期 ３．学童期 ４．青年期 ５．壮年期 ６．老年期
精神保健・医療・福祉の歴史的変遷	６．精神保健・医療・福祉の歴史を理解する。	１．精神保健の概念 ２．精神障害と治療の歴史 ３．日本における精神医学・精神医療の流れ

精神科看護と法制度	7．精神看護の実践に必要な種々の法制度を理解する。	1．精神保健福祉法 2．心身喪失者等医療観察法 3．生活保護法 4．地域精神保健福祉対策
看護師のメンタルヘルス	8．看護者のメンタルヘルス保持・向上の必要性を理解する。	1．感情労働としての看護 2．看護師の感情ワーク
各ライフサイクルにおける精神保健と危機	9．現代社会における精神保健について理解する。	1．家族・家庭の精神保健 2．学校と精神保健 3．職場における精神保健 4．コミュニティにおける精神保健 5．精神保健が関与する社会病理現象 1）ドメスティックバイオレンス 2）職場におけるハラスメント 3）児童虐待 4）いじめ 5）引きこもり 6）不登校 7）自殺 8）自傷行為 9）アルコール問題 10）薬物問題 11）ギャンブル依存 12）ＩＴ依存 13）犯罪・非行
	10．危機的状況とそれに対する介入について理解する。	1．危機とは 1）危機理論とストレス理論 2）ストレスへの対処 3）ストレスとしての心的外傷 4）危機を乗り越え、成長していくための支援と力 2．トラウマインフォームドケア
テキスト及び副教材	『新体系　看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論　精神保健』　メヂカルフレンド社 『新体系　看護学全書　精神看護学②　精神障害を持つ人の看護』　メヂカルフレンド社 上記の他、必要に応じて講義中に参考資料等を配布する。	
評価方法	筆記試験（100％）	
備考・履修上の留意点	精神看護学の学習は、各看護学領域における看護実践に繋がっていきます。本科目では、人間の心の健康の保持・増進についての考え方や、日本の精神医療の歴史について学習していきます。授業への積極的な参加を望みます。 【参考図書】「看護のための精神医学　第２版」　医学書院 「新クイックマスター　精神看護学　改訂版」　医学芸術社	

科　　目	（７５）精神看護学方法論Ⅰ	実	２年 前期	１単位	30 時間
担当教員	原田　亮太				
ね ら い	精神症状と、主な精神障害（疾患）の診断・治療を理解し、精神に障害を持つ人の看護の基本を学ぶ。				
到達目標	精神症状・精神障害（疾患）の特徴と検査・治療を学び、それらに必要な看護を理解する。				

単元名	学習目標	内　容
精神疾患の理解	１．精神疾患の基礎知識を理解する。	１．精神疾患の概念 ２．精神疾患の診断とは ３．精神科の診断方法 ４．診断の進め方 ５．精神疾患に見られる精神症状
検査による状態把握	２．精神科領域における主な検査を理解する。	１．生物学的検査 ２．心理学的検査 ３．画像検査
精神疾患と治療法	３．主な精神疾患（病態生理・症状・検査・治療法）を理解する。	１．統合失調症 ２．気分障害 ３．神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 ４．器質性精神障害（症状性精神障害） ５．精神作用物質使用による精神及び行動の障害 ６．睡眠障害 ７．摂食障害 ８．パーソナリティ障害 ９．小児・青年期の精神障害
主な治療法に対する看護	４．精神科における主な治療法に対する看護を理解する。	１．精神科薬物療法に伴う看護 ２．電気けいれん療法に伴う看護 ３．精神療法に伴う看護 ４．精神科リハビリテーション療法に伴う看護
精神科における身体ケア	５．精神科における身体ケア（身体合併症ケア）の方法を理解する。	１．精神科における身体ケアの意義と必要性 ２．日頃から気を付けておきたい身体合併症を有する患者の看護

テキスト及び副教材	『看護学テキストNice 病態・治療論12 精神疾患』 最新版　南江堂 『新体系看護学全書 精神看護学②　精神障害を持つ人の看護』 メヂカルフレンド社 『看護実践のための根拠がわかる精神看護技術』　メヂカルフレンド社 上記の他、必要に応じて講義中に参考資料等を配布する。
評価方法	筆記試験（100%）
備考・履修上の留意点	・精神疾患・症状とそれらに対する治療を理解することは、精神障害を持つ人に対する看護を実践していくうえで重要になります。授業への積極的な参加を望みます。 ・各回、オンラインで復習用の確認問題を配信します。 【参考図書】 「看護のための精神医学」医学書院 「学生のための精神医学」医歯薬出版株式会社

科　　目	（７６）精神看護学方法論Ⅱ	２年 後期	１単位	30 時間
担当教員	相澤　加奈、原田　亮太			
ね ら い	こころの健康問題や精神障害をもつ対象と家族の理解とその関わり方、治療的環境の提供・日常生活の援助、及び主な精神症状のアセスメントと援助を理解し、精神障害者の看護について学ぶ。			
到達目標	１．精神障害をもつ対象と家族に対する看護を理解する。 ２．安全な治療的環境とリスクマネージメントを理解する。 ３．主な精神症状と、それに対する援助を理解する。 ４．精神看護に活用できる理論を理解する。 ５．リエゾン精神看護について理解する。			

単元名	学習目標	内　容
精神障害をもつ対象と家族の特徴と看護の基本	１．精神看護・精神科看護に携わる看護師の役割を理解する。 ２．生活の視点から精神障害をもつ対象の特徴を理解する。	１．精神医療・看護の対象者の理解 １）精神障害の捉え方 ２）精神障害者の体験する世界 ２．精神看護に携わる看護師の役割
	３．精神障害を持つ対象を支える家族への援助を理解する。	１．家族への支援の基本 １）家族の状況 ２）家族を見る視点 ３）家族の課題
	４．地域における精神看護を理解する。	１．外来における看護 １）精神科外来 ２）精神科デイケア ２．精神科訪問看護
	５．治療的人間関係の必要性を理解する。	１．人間関係論 ２．患者－看護師関係の発展過程 ３．精神看護領域におけるプロセスレコードの活用
	６．入院治療における看護の実際を理解する。	１．入院治療と看護 １）精神保健福祉法上の入院形態 ２）病室・病棟の環境調整と管理 ３）入院生活の支援 ４）行動制限に伴う看護 ２．精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮
	７．精神障害をもつ対象へのセルフケアの援助を理解する。	１．精神看護で用いられるセルフケア理論 ２．日常生活動作能力のアセスメント ３．対象者状況に応じた日常生活への援助
	８．援助に必要な基本的技術を理解する。	１．援助に必要な基本的技術 １）精神科における看護観察 ２）治療的コミュニケーション ３）ロールプレイ ４）グループワーク ５）カウンセリング ６）サイコエデュケーション ２．治療的コミュニケーション演習

主な精神疾患・症状に対する看護	9．精神症状の特徴と症状を呈する人に対する看護の基本を理解する。	1．主な精神疾患を有する患者への看護 1）統合失調症 2）感情障害 3）人格障害 4）アディクション 2．主な精神症状の特徴と看護 1）不安状態 2）抑うつ状態 3）躁状態 4）幻覚・妄想状態 5）思考・意識障害 6）強迫行為 7）記憶障害 8）離脱症状
災害時の精神看護	10. 災害時の精神看護について理解する。	1．災害とストレス 2．災害時の精神保健医療活動の基本 3．被災した精神障害者への支援
リエゾン精神看護	11. リエゾン精神看護について理解する。	1．リエゾン精神看護とは 2．リエゾン精神看護の対象の特徴 3．精神看護専門看護師の活動の実際 4．災害時の精神保健医療活動
テキスト及び副教材	『看護学テキストNice 病態・治療論12 精神疾患』 最新版　　南江堂 『新体系看護学全書 精神看護学②　精神障害を持つ人の看護』 メヂカルフレンド社 『看護実践のための根拠がわかる精神看護技術』　メヂカルフレンド社 上記の他、必要に応じて講義中に参考資料等を配布する。	
評価方法	授業内課題（10%）、筆記試験（90%）	
備考・履修上の留意点	・本科目では、精神看護に活用する理論や、こころの健康に問題を抱える人に対する看護の実際（精神科看護）を学びます。授業への積極的な参加を望みます。 ・演習においては、精神科臨床に携わる看護師をゲストスピーカーとして招聘し、演習（ロールプレイ）の際に助言を頂きます。また、演習の場面を振り返り、実際に「プロセスレコード」を記載します。 【参考図書】「看護のための精神医学」　医学書院 「学生のための精神医学」　医歯薬出版株式会社	

科　　目	（７７）精神看護学方法論Ⅲ	３年 前期	１単位	15 時間
担当教員	原田　亮太、今井　潔子			
ねらい	精神科領域における看護実践に必要な思考プロセス、及び精神科看護技術を習得する。また、精神科における倫理的感受性を高める。			
到達目標	１．精神科における看護過程の考え方（熟考型看護過程と迅速型看護過程）を理解することができる。 ２．精神科における対象理解の視点を理解することができる。 ３．演習を通じ、精神科作業療法の治療的効果を理解することができる。 ４．演習を通じ、精神科領域における身体拘束に伴う倫理的問題に気付くことができる。			

単元名	学習目標	内　容
精神科領域における看護過程の展開	１．精神科領域における看護過程の考え方がわかる。 ２．精神科領域で用いられる看護モデルを理解できる。 ３．バイオ・サイコ・ソーシャルモデルを用いた対象理解ができる。	１．精神科領域における看護過程 １）精神科領域における看護過程の特徴 （１）人間関係的な看護過程 （２）問題解決のための看護過程 ２）精神科領域で用いられる看護モデル （１）バイオ・サイコ・ソーシャルモデル （２）ストレングスモデル （３）セルフケアモデル（オレム - アンダーウッドモデル） （４）ＭＳＥ（メンタル・ステータス・イグザミネーション） （５）精神科臨床におけるケアの原則（ケアの基本） ３）パーソナルワーク （１）生物学的側面（バイオ）の看護アセスメント （２）社会的側面（ソーシャル）の看護アセスメント （３）心理学的側面（サイコ）の看護アセスメント ４）看護過程と看護記録
精神科における臨床判断	４．精神科における臨床判断の視点を理解できる。	１．精神科における臨床判断とは １）臨床推論と臨床判断 ２）臨床判断のプロセス（気づき・解釈・反応・省察） ３）パーソナルワーク
精神科作業療法の実際	５．精神科作業療法の効果を述べられる。	１．精神科作業療法演習 １）感覚・運動活動（軽スポーツ） ２）制作・表現活動（芸術活動） ３）精神科作業療法における看護師の役割
行動制限（身体拘束）に伴う倫理的問題	６．行動制限（身体拘束）に伴う倫理的問題を検討し、述べられる。	１．身体拘束の実際 １）精神保健福祉法による行動制限 ２）精神科における倫理 ３）身体拘束の実際 （１）身体拘束の手順 （２）身体拘束の実践（演習） ４）身体拘束とトラウマイン・フォームド・ケア

テキスト及び副教材	『ストレングスから見た精神看護過程＋全体関連図 ストレングス・マッピングシート』　医学書院 上記の他、必要に応じて講義中に参考資料等を配布する。
評価方法	筆記試験：令和５年版看護師国家試験出題基準に準拠した内容（50%） 個人ワーク：40% 演習レポート：10%
備考・履修上の留意点	・精神看護学実習に向けて重要な科目です。積極的に授業に参加しましょう。 ・個人ワーク及び演習レポートの提出期限は、各ワーク実施日・演習の翌日とします。提出期限を厳守しましょう。なお、提出遅延の場合は減点の対象となります。 ・個人ワークは、授業内課題を兼ねています。そのため手書きでの提出となります。返却された課題は紛失しないよう、適切に管理してください。 ・演習レポートは、ワープロソフトを用いて作成し、MS Teams を用いたオンライン提出とします。機器操作の習熟を求めます。 【参考図書】 「エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図」　中央法規 「新クイックマスター　精神看護学　改訂版」　医学芸術社 「精神看護実習ガイド」　照林社 「看護のための精神医学」　医学書院 「学生のための精神医学」　医歯薬出版株式会社 「精神看護の看護過程」　サイオ出版 これらの他、図書室の蔵書等を活用して学びを深めること。

科　　目	（７８）看護管理	３年 前期	１単位	15 時間
担当教員	田所　亮一			
ね ら い	看護の対象者ひとり一人により良い看護サービスを提供するための看護管理についての基礎的知識・技術を学ぶ。			
到達目標	１．看護管理とは何かを理解する。 ２．より良い看護を提供するための看護管理の方法について理解する。 ３．組織における専門職の協働、看護職のキャリア形成について理解する。 ４．看護を取り巻く法と制度、看護職の職業倫理について理解する。			

単元名	学習目標	内　容
看護とマネジメント	１．看護管理の定義と変遷からマネジメントの概念を理解する。	１．看護管理の定義 ２．マネジメントの考え方の変遷 １）ナイチンゲール「看護覚え書」小管理 ３．マネジメントの目的とプロセス
ケアのマネジメント	２．対象者に提供されるケアを調整、統制するケアマネジメントについて理解する。	１．ケアのマネジメント １）ケアのマネジメントと看護職の機能 ２）看護基準と看護手順 ３）看護職の協働・他職種との協働 ４）ケアの提供にかかわる情報の記録・保管・蓄積
看護職のキャリアマネジメント	３．看護を学ぶ人が社会人・職業人としてのキャリア形成について理解する。	１．看護職のキャリア形成 １）看護職の技能習得段階 ２）新人教育・研修・キャリアラダー ３）看護専門職としての成長（社会化） ４）タイムマネジメント
看護サービスのマネジメント	４．看護サービスを提供する組織を調整、統制する看護サービスのマネジメントについて理解する。	１．看護サービスのマネジメント １）看護サービスのマネジメントの対象と範囲 ２）病院組織の目的達成のための看護の組織化 ３）看護ケア提供システムと看護単位 ４）情報の管理
看護職と法制度	５．看護を取り巻く諸制度について理解する。	１．看護を取り巻く諸制度 １）看護職の法的責任 ２）看護政策と制度
看護職と倫理・教育	６．看護職の職業倫理と教育制度とについて理解する。	１．看護職の倫理 １）倫理綱領・倫理原則・倫理的葛藤 ２．看護職の教育制度 １）より専門性の高い看護職の養成及び・認定制度

テキスト及び副教材	『系統看護学講座 看護の統合と実践［1］ 看護管理』　医学書院
評価方法	筆記試験（100%）
備考・履修上の留意点	２年次の臨地実習での施設オリエンテーション、師長・チームリーダー・指導者・看護師との関わりを思い起こしながら、より良い看護を提供するための看護管理について学習して下さい。

科　　目	（７９）医療安全	３年 前期	１単位	15 時間
担当教員	田所　亮一			
ね ら い	看護を実践していくうえで、患者に予期せぬ不幸な事態が生じないために、どのような「してはいけないこと」や「するべきこと」があるのか、医療安全の考え方と具体策を学ぶ。			
到達目標	１．人はなぜ間違いを起こすのかを知り、医療安全を考えることができる ２．診療の補助に伴う医療事故、対策を知ることで、安全な看護業務を考えることができる ３．療養上の世話の伴う医療事故、対策を知ることで適切な援助を考えることができる			

単元名	学習目標	内　容
医療安全について	１．医療事故防止の考え方を理解する	１.事例を通し看護事故の構造を考える
診療の補助の事故防止	２．診療の補助を安全に実施するために必要な知識を理解する	２．注射、輸血、内服与薬、経管栄養、チューブ管理の事故防止
療養上の世話の事故防止	３．療養上の世話を安全に実施するために必要な知識を理解する	３．転倒・転落、誤嚥、異食、入浴中の事故防止
業務領域を超えて共通する間違いと発生要因	４．　業務領域を超えて共通する間違いと発生要因を理解する	４．患者間違い、多重課題、タイムプレッシャー、思い込み、行動パターン
医療安全とコミュニケーション	５．医療チームや患者間で必要な情報を正確に伝達・共有することができる。	５.事故を未然に防ぐために必要な情報の共有、コミュニケーションを、事例を通して考える １)TeamSTEPPS(チームステップス)の活用
組織としての医療安全対策	６.組織的な医療安全体制の整備と組織の一員として医療安全に参画する必要性について理解する	６．医療システム、システム改善 １）RCA 根本原因分析

テキスト及び副教材	『系統看護学講座 看護の統合と実践［2］ 医療安全』　医学書院
評価方法	筆記試験（100%）
備考・履修上の留意点	医療安全に対する意識を持ち、医療事故を予防できるように学習を進めて下さい。

科　　目	（８０）災害看護	実	３年 後期	１単位	15 時間
担当教員	種市　美華				
ね ら い	災害から自分や家族の身を守る防災や減災対策を習得するとともに、災害時において看護師が果たす役割や他職種との連携について学ぶ。また、国際社会における人々の健康と保健医療の現状について学び看護の果たす役割を考える。				
到達目標	１．災害医療・災害看護に関する基礎的な知識・技術を習得し、災害時の看護活動と看護職の役割を理解する。 ２．世界の人々の健康と保健医療の現状について理解し、異文化看護と在日外国人の看護について考える。				

単元名	学習目標	内　容
災害医療・ 災害看護の基礎	１．災害看護の基礎的知識を理解する。	１．災害医療の基礎 １）定義・分類 ２）災害医療の歴史 ３）世界各地の災害
災害各期の看護活動	２．災害が人々の生活や健康に及ぼす影響を理解し、災害各期に応じた看護活動を理解する。	２．災害看護の基礎 １）災害サイクル ２）災害サイクルに応じた看護 ３．災害各期の看護活動 １）急性期の看護活動 ２）避難所における看護活動 ３）中長期的看護 ４）防災と減災
災害時に必要な技術	３．災害時に必要な基本的な技術について理解する。	４．トリアージの基本的知識 １）トリアージの原則と方法 ２）トリアージ演習
国際化と看護	４．国際社会における看護について理解する。	５．国際社会における看護 １）看護のグローバル化 ２）多様な文化と看護 ３）看護の国際協力活動

テキスト及び副教材	『系統看護講座　災害看護』　医学書院
評価方法	筆記試験（100％）
備考・履修上の留意点	災害はいつ、どこで起こるかわからないだけに、平常時より看護職として自然災害・人為災害に対する危機管理意識を持つことが重要です。演習にあったては事前学習をしっかりして参加して下さい。

科　　目	（８１）看護研究Ⅰ	３年 前期	１単位	15 時間
担当教員	田所　亮一			
ね ら い	看護を科学的思考で論理的に考え、研究に必要な基礎的知識・態度を養う。			
到達目標	１．看護研究の意義と方法、研究的なプロセスを理解する。 ２．看護研究における倫理について理解する。			

単元名	学習目標	内　容
看護研究の基礎	１．看護における研究の意義とプロセスを理解する。	１．看護における研究 １）看護における研究の意義 ２）看護研究のプロセス （１）研究課題（テーマ）の明確化 （２）文献検索・文献検討 （３）研究方法の決定 （４）研究計画書 （５）データ収集と分析 （６）結果・考察
	２．看護研究の方法を理解する。	１．看護研究の方法 １）量的なアプローチの研究 ２）質的なアプローチの研究
	３．看護研究における倫理について理解する。	１．看護研究における倫理的な問題 ２．看護研究における倫理的な配慮
	４．ケーススタディの実際を理解する。	１．ケーススタディとは ２．論文のまとめ方 ３．発表の方法

テキスト及び副教材	『黒田裕子の看護研究 Step by Step　第５版』　医学書院（紙書籍） 『看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（第２版)』　照林社
評価方法	筆記試験（100%）
備考・履修上の留意点	臨床にでてからの看護研究の基礎となる科目です。看護研究とは何かを理解し、看護研究Ⅱで作成する論文の組み立て方についてしっかり学んでください。

科　　目	（８２）看護研究Ⅱ	３年 通年	１単位	30 時間
担当教員	田所　亮一、岡山　深雪、全教員			
ね ら い	看護を科学的思考で論理的に追求し、自己の看護の考えを明らかにするとともに研究に必要な基礎的知識・態度を養う。			
到達目標	１．自己の看護実践を振り返り、ケーススタディとしてまとめることができる。 ２．看護研究の成果を発表し、学びを深めることができる。			

単元名	学習目標	内　容
看護研究の実際 （ケーススタディ）	１．研究計画書を形式に則り、記述することができる。 ２．論旨に一貫性のある看護研究論文を記述することができる。 ３．論文の内容が適切に要約でき、抄録に記述することができる。 ４．自身の研究内容が伝わる研究発表ができる。	１．論文（ケーススタディ）の作成 １）テーマの決定 ２）文献検索 ３）研究計画書作成 ４）論文の作成 ５）抄録の作成 ６）発表原稿の作成 １．論文の発表

テキスト及び副教材	『黒田裕子の看護研究 Step by Step　第５版』　医学書院（紙書籍） 『看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（第２版)』　照林社
評価方法	研究計画書・論文・抄録・取り組みおよび発表態度（100%）
備考・履修上の留意点	看護基礎教育の集大成として、それぞれが臨地実習で関心をもった看護現象を選択し、問題意識をもってケーススタディに取り組んで下さい。文献検索・文献検討には十分に時間をかけて下さい。担当指導教員による個別指導のもと、主体的・積極的に指導を受けることはもちろん、自己の看護観や専門職者としての役割を認識し、卒業を迎えて下さい。卒業時には、看護研究論文集録集を作成します。

科　　目	（８３）総合看護技術Ⅰ	実	３年 前期	１単位	15 時間
担当教員	久保田　睦子、臺　和也、高島　留美子				
ね ら い	複数事例を用いて優先順位を考慮した看護実践を展開する能力を養う。				
到達目標	１．複数患者に対して優先順位を考慮した看護を組みたてることができる。 ２．複数患者の看護を統合して、一日の行動計画を立案することができる。 ３．複数患者の看護実践を通して看護を評価することができる。				

単元名	学習目標	内　容
複数事例の看護	１．複数事例の看護実践とはどういう事かを理解する	1.優先順位・時間管理の考え方 2.複数事例の看護の実際
複数事例の根拠に基づいた優先順位と時間管理を考えた行動計画	２．複数事例の行動計画を立案できる	1．複数事例を用いて、１日の行動計画を立案 1) 複数患者に必要なそれぞれの援助 2) 複数患者における優先順位と時間管理とその根拠
複数事例の行動計画に基づいた援助の実際	３.複数事例の優先順位と時間管理を根拠に応じた援助を実践できる	1.場面に応じた複数事例の看護の実践
看護実践の評価	４.看護実践の評価ができる	1.複数事例への援助の実施・評価

テキスト及び副教材	『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術』　医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［2］基礎看護技術 I』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［3］基礎看護技術 II』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［4］臨床看護総論』　医学書院
評価方法	行動計画等のレポート課題・演習およびグループワークへの参加態度（50%） 筆記試験（50%）
備考・履修上の留意点	看護の統合実習につながる科目です。複数患者の看護についてしっかり学んでください。

科　　目	（８４）総合看護技術Ⅱ	実	３年 後期	１単位	15 時間
担当教員	久保田　睦子、臺　和也、高島　留美子				
ね ら い	様々な状況下にある患者の状態を総合的に判断、根拠に基づく予測をもって看護援助を実践できる能力を養う。				
到達目標	１．根拠に基づいて看護技術が提供できる。 ２．看護実践中に起こった突発的事象に対して対処方法を判断し実践できる。				

単元名	学習目標	内　容
様々の状況にある患者の援助	１．様々な状態にある患者に既習の知識・技術・態度を統合して適切な援助ができる。 １）看護技術を応用し、患者の状況に応じた援助を実施する ２）診療の補助に必要な看護技術を根拠に基づき実施する	1. 様々な状況に合わせた看護援助 1) 状況に応じた安全・安楽な援助 2) 治療や処置における根拠に基づいた援助

テキスト及び副教材	『系統看護学講座 看護の統合と実践１ 看護管理』 医学書院 『系統看護学講座 看護の統合と実践２ 医療安全』 医学書院 『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［2］基礎看護技術 I』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［3］基礎看護技術 II』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［4］臨床看護総論』 医学書院
評価方法	レポート課題・演習への参加態度（30%） 筆記試験（70%）
備考・履修上の留意点	これまでの学習で経験不足の技術や自信がない技術を明らかにし、基本的な看護技術の手順やチェックポイントを再度学習して臨んで下さい。